

〔理由〕 按スルニ原告ハ試掘權取消處分通知書ノ交付ヲ受ケタルハ明治四十年一月三日ナルコトヲ主張スルモ被告ノ提出シタル乙第一號證ニ依レハ其交付ヲ受ケタルハ明治三十九年十二月三十一日ナルコト明カナリ而シテ鑛業法ニ基ク出訴期限ハ處分ノ通告ヲ受ケタル翌日より起算シ三十日以内ニシテ之ニ原告ノ住所ヨリ當裁判所所在地迄ノ距離二百七里ニ對スル猶豫日數二十六日ヲ加算スルトキハ二月二十五日迄ニ出訴セサルヘカラス然ルニ原告カ本訴ヲ提起シタルハ明治四十年三月三日ニシテ右法定ノ期間ヲ經過シタルモノナレハ原告ハ出訴權ヲ失ヒタルモノトス

(三) 漁業ニ關スル件

○漁業組合同規約ニ關スル縣知事ノ訂正命令ニ對シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(不
法訂正命令取消ノ訴 明治二十三年第十五號
明治二十三年十二月十一日裁決)

〔理由〕 原告ハ組合各村合意ノ上伊豆國君澤漁業組合同規約ヲ議定シテ被告知事ニ認可ヲ求メタルニ知事カ其規約ニ對シ訂正ノ命令ヲ爲シタルハ不法ナルニ依リ之カ取消ヲ請求スト云フニ在リト雖本件ノ如キ處分ニ關シテハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ出訴スルヲ得サルモノトス

○從來營業免許ヲ有シタル一定ノ漁場ヲ減縮セラレタルヲ不當トスル訴ハ明治二十三年法律第六號第三ニ該當ス(維建網營業場許可差拒ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治二十四年第十七號
明治二十四年九月十八日宣告)

〔理由〕 被告ハ原告ノ建網營業ヲ拒否シタルニアラスシテ漁場區域ノ割渡ヲ違シタルモノナリト云フト雖モ本件ハ從來原告カ營業ノ爲メ公許ヲ受ケタル一定ノ漁場ヲ減縮セラレタリト云フニアリテ即チ原告カ曾テ受得タル營業免許ノ幾部分ヲ取消サレタリトスルモノナレハ明治二十三年法律第六號第三項ノ範圍外ニ屬スルモノト謂フヲ得サルモノトス

○養貝營業ノ爲メ海面區劃ノ借區ヲ願出テタル場合ニ在リテハ其許可ヲ受ケタル同時ニ養貝營業ノ權利ヲ付與セラルヘキモノナルヲ以テ其出願ニ對スル拒否ハ即チ營業免許ノ拒否ニ外ナラス(兒島灣養貝營業許可請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治二十四年第二十八號
明治二十四年十月十六日宣告)

〔理由〕 被告ニ於テ本件ハ官有地拜借願ニ關スル事件ニシテ營業免許ノ拒否ニ關スル事件ニアラサルヲ以テ其性質ニ於テ行政裁判所ニ出訴シ得ヘキモノニ非ラス況ンヤ營業免許ノ事ハ乙第八號證岡山縣令第八號ヲ以テ郡長ニ分任シタル者ナレハ被告直接ニ取扱フヘキ者ニ非ス

又假リニ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキモノトスルモ原告カ最初縣廳ニ差出シタル海面拜借願ニ對スル指令ハ明治二十三年十月六日ナルヲ以テ既ニ出訴期限ヲ經過シタルモノナリト云フト雖モ凡ソ海面ニ於テ養貝ノ營業ヲ爲サントスル者ハ先ツ一定ノ養貝地即チ海面區劃ノ拜借ヲ管轄地方廳ニ願出テ其許可ヲ受クルヲ要ス而シテ其許可ヲ受クルニ當テハ亦タ之ト同時ニ其區内ニ於テ養貝營業ノ免許ヲ得タルモノト言ハサルヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テハ海面ノ借區ハ借區人ニ海面使用ノ權即チ養貝營業ヲ爲スノ權利ヲ與ヘタルモノナレハナリ故ニ原告カ被告ニ差出シタル海面拜借願ノ如キハ其名義ノ如何ニ拘ハラズ其實海面借區ト同時ニ養貝營業ヲ出願シタルモノト看做ササルヲ得ス又被告ハ乙第八號證ニ據リ營業願ハ郡長ニ差出スヘキモノナリト言フト雖モ海面借區ノ許可ヲ得テ始メテ營業ヲ爲シ得ル養貝營業ノ如キハ其願書ハ借區許可ノ權ヲ有スル被告ニ差出スヘキハ當然ニシテ斯ノ如キ營業ニ關シテハ郡長ハ乙第八號證ニ據リ唯營業鑑札下渡及ヒ營業稅徵收等ノ手續ニ關スル取扱ヲ爲スニ止マルモノト言ハサルヲ得ス又被告ニ於テ本件ハ既ニ出訴期限ヲ經過シタルモノナリト云フト雖モ原告ノ差出シタル第一回ノ願書ニハ漠然ト借區ヲ願出第二回ノ願書ニハ結社スル能ハサル理由ヲ陳述シ而シテ第二回ノ願書ニハ土地ノ區劃ヲ減縮シ且ツ確ニ場所ヲ指定セスシテ願出デタルノ

事實ハ被告モ既ニ之ヲ認ムルトコロナル以上ハ本件出訴期限ハ第三回ノ願書ニ對スル甲第六號證ノ指令ノ日ヨリ起算スルヲ以テ適當ナリトス何トナレハ第三回ノ願書ハ第一回及ヒ第二回ノ願書ト少シク其趣旨ヲ異ニシテ之レト同一視スル能ハサレハナリ

○他人ノ得タル營業免許ノ取消ヲ請求スル訴ハ明治二十三年法律第百六號第三ニ包含セス(漁業營業免許ニ關スル不當處分取消ノ訴 明治二十六年第三十七號) 明治二十六年三月十七日裁決

(同一判例 伏網位置不當處分取消請求ノ訴 明治三十五年第四百十六號) 明治三十五年四月七日裁決

○訴願法施行以前ニ受ケタル行政處分ニ對スル訴願ハ同法第二十條ニ從ヒ同法第八條ニ定メタル期限内ニ於テスルコトヲ要ス(漁業停止處分取消請求ノ訴 明治二十六年第三十三號) 明治二十六年九月二十一日裁決

〔理由〕 原告訴求ノ要旨ハ原告ハ明治十六年六月成規ニ依リ同二十二年マテ七個年間嚴手續應ノ許可ヲ得テ同縣東閉伊郡田老村字不動前ニ於テ爾來三介年間鱚建網ノ漁業ヲ爲シ來リタル處同十九年ニ至リ東中北閉伊郡役所ヨリ故障アル旨ヲ以テ漁業停止ノ口達ヲ受ケタリ然ルニ原告ハ此停止處分ニ服セサルヲ以テ別紙第二號證ノ如ク事實ニ舉證ニ列舉シテ致致請願ヲ怠ラサリシニ二十六年一月九日ニ始メテ別紙第二號證ノ如ク處分ノ令達ヲ受領シタリ依テ訴

願法第二條ニ依リ別紙第三號證ヲ提出シ知事ノ裁決ヲ仰キ申處願期限經過ノ理由ヲ以テ却下セラレタルモ抑本件ノ停止ハ假令明治十九年ノ既往ニ屬ストスルモ處分ノ變更アラサル限ハ繼續ノモノニシテ即チ明治二十六年一月九日ヲ以テ處分ノ當初ナリトスヘキモノナレハ期限經過ニアラスト信ス仍テ違法ノ停止處分ヲ取消シ殘期四ヶ年間漁業權ヲ回復セラレン様裁判ヲ望ムト謂フニ在リト雖本件漁業停止處分ハ明治十九年ニ屬スルヲ以テ若シ此處分ニ不服ナルトキハ明治二十三年訴願法發布以後ニ在リテハ同法第二十條ニ依リ第八條ノ期限内ニ訴願スヘキニ其茲ニ出サルハ適法ノ手續ニ違背シタルモノナルヲ以テ之ヲ受理スヘキ限ニ在ラス

○他人ノ得タル營業免許ヲ取消サンコトヲ請求スル事件ハ明治二十三年法律第百六號第三ニ包含セス(新設鮮魚定市場許可取消請求ノ訴 明治二十六年第九百二號 決號)

○他人ノ得タル營業免許ヲ取消サンコトヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(同上)

〔理由〕原告請求ノ要旨ハ被告兵庫縣カ兵庫縣下飾東郡飾磨町ノ内宮町山崎カネヨリ出願シ

タル同縣揖西郡御津村ノ内岩見村舊伊津浦千三百八番字濱屋敷ニ於テ新設鮮魚定市場開設願書ニ對シ明治二十六年八月十一日附ヲ以テ許可ヲ爲シタルハ自然競争ノ爲メ原告等漁業ニ莫大ナル不利益ヲ與フヘキ違法ノ處置ナルカ故ニ速ニ該許可ノ取消ヲ請求スト云フニ在レトモ本件ハ他人ノ得タル營業免許ノ取消ヲ請求スルモノニシテ明治二十三年法律第百六號三ニ該當スル營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件ノ範圍内ニ入ルヘキモノニ非ス又他ノ法律勅令ニ行政裁判所ニ出訴ヲ許スノ規定ナキヲ以テ原告ハ行政訴訟ヲ提起シ得ヘカラサルモノトス

○出訴ノ原因タル處分ヲ爲シタル者ニ非サレハ訴訟ノ對手ト爲スコトヲ得ス(簡網新規營業訴願ニ對スル裁決不服ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治二十六年第九百十七號 明治二十七年二月三日宣告)

〔理由〕被告ハ原告提出ノ證據書寫ニハ明治二十六年十一月十一日ト記載シテ日附ナキカ故ニ其出訴ハ知事裁決ノ日即チ同年九月十四日ヨリ六十日以内ニ在ルヤ分明ナラス若シ六十日以外ニ在ルナレハ原告ハ出訴期限ヲ經過シタルモノナリト云ヘトモ原告ノ訴狀ハ其正本ニ明治二十六年十一月十一日ト記載シテ同日ヨリ六十日行政裁判所ニ到達シタルモノナレハ知事裁決ノ日即チ同年九月十四日ヨリ六十日ヲ計算シ更ニ民事訴訟法第百六十七條ノ規程ヲ適用シ原告ノ住居地ト裁判所所在地トノ距離

ヲ計算シテ八里毎ニ一日ヲ伸長スルトキハ原告ハ其出訴期限ヲ經過シタルモノニアラストス
 然レトモ行政訴訟ハ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトシテ出訴スルモノナレ
 ハ本訴原告ノ出願ニ對シ拒否ノ處分ヲ爲シタル者ヲ被告ト爲ササルヘカラス而シテ山口縣ニ
 於テハ捕魚採藻ノ營業ニ付許否ノ處分ヲ爲スハ郡長ノ職權タルコト同縣令第二十四號漁業取
 締規則ノ規定セル所ニシテ即チ本件竊網新規營業願ヲ拒否シタルハ大島郡長カ該縣令ニ依テ
 爲シタルノ處分ナリトス然ラハ原告ノ出願ニ對シ處分ヲ爲シタル者ハ郡長ニシテ知事ハ其訴
 願ニ付裁決ヲ下シタルニ過キササルモノナレハ知事ヲ以テ本訴ノ被告ト爲シタルハ對手人ヲ誤
 リタルモノナリトス

○郡長ノ指令ニ對スル訴願ヲ却下シタル縣知事ハ該指令並裁決ニ對スル行政訴
 訟ニ於テ被告ト爲ルノ義務アリ(海面區畫漁業借區繼年期願違法處分更正ノ訴
 ニ對スル妨訴抗辯 明治二十八年第二十一號 明治二十八年五月三十一日宣告)

〔理由〕 第一被告知事ニ於テ本件ノ處分權ハ郡長ニ委任シタルモノナレハ知事ヲ被告ト爲ス
 ハ對手ヲ誤リタルモノナリト云フモ原告ノ訴狀ヲ按スルニ原告ハ郡長ノ指令ヲ不當トスルニ
 止マラス知事カ郡長ノ指令ハ營業免許ノ拒否ニアラストシテ原告ノ訴願ヲ却下シタルヲモ不

當ナリトシテ出訴シタルモノナレハ知事ハ本訴ノ被告タルヲ免カル、ヲ得サルモノトス
 第二被告郡長及知事ニ於テ本訴ハ出訴期限ヲ經過シタルモノナリト云フモ郡長提出江名村村
 長ノ顛末書ハ明治二十七年十二月二十七日ヲ以テ知事ノ裁決書ヲ下神白區長ニ送達シタル旨
 フ復命スルニ止マリ原告カ同日ヲ以テ之カ交付ヲ受ケタルノ證ト爲スニ足ラス而シテ原告提
 出ノ區長田中作兵衛ノ證明書ニ依レハ原告ハ明治二十七年十二月三十日ヲ以テ右作兵衛ヨリ
 裁決書ノ交付ヲ受ケタルモノト認メサルヲ得ス然ラハ明治二十七年十二月三十日ヲ以テ裁決
 書ヲ受取り明治二十八年三月六日ヲ以テ出訴シタルモノナルカ故ニ本訴ハ出訴期限ヲ經過シ
 タルモノニアラス

○漁業ノ如キ單ニ營利ヲ目的トスルモノハ之ヲ法人タル町村ノ公共事業ト謂フ
 ヲ得ス(漁業權回復ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治二十七年第四十九號 明治二十八年六月二十八日宣告)
 ○公共事務ニアラサル漁業權回復ノ行政訴訟ハ町村長ノ資格ヲ以テ出訴スルヲ
 得ス(同上)

〔理由〕 原告ハ町村制ニ法人ハ營利的事業ヲ爲スヘカラストノ禁令ナキヲ以テ法人タル原告
 村ハ漁業ヲ爲スノ權利アリト云フト雖町村制第二條ニ町村ハ法律上一個人ト均シク權利ヲ有

シ義務ヲ負擔シ凡ソ町村公共ノ事業云々トアレハ町村カ法人トシテ行フ事業ハ公共ノ事業タ
ラサルヘカラス然ルニ本訴ノ目的ハ漁業權ノ回復ニアリテ其事業タル單ニ營利ヲ目的トスル
モノナレハ町村ノ公共事務ナリト謂フヘカラス又原告ハ本件漁業權ヲ保護スルハ町村長ノ常
然ノ職務ナリト云フト雖漁業ニシテ既ニ町村ノ公共事務ニ非サル以上ハ町村長ノ職務ナリト
謂フヲ得ス故ニ原告ハ本件ニ付町村長ノ資格ヲ以テ出訴スルヲ得サルモノトス其他雙方陳辯
スル所アルモ必要ナキニ付説明ヲ與ヘス

○町村組合ノ事務モ町村ト等シク必ス公共ノ事務ナラサルヘカラス(不當處分取
消稼業權回復事件ニ對スル妨訴抗辯 明治二十七年第五十三號
明治二十八年六月二十八日宣告)

○鮭留漁業權ハ營利ヲ目的トスルモノナレバ公共事務ト云フヘカラス(同上)
〔理由〕原告ハ本件ノ如キ町村將來ノ公益ヲ經營スルノ事業ニ關シテハ其町村ノ組合ヲ設ケ
其事務ヲ共同處分スルコトヲ得セシメサル可カラス又町村制ニ於テ此種ノ事業ニ關シ町村組
合ヲ設立スルコトヲ禁止スルノ明文ナク既ニ設立シタル原告町村ハ當然本訴提起ノ權アル旨
ヲ主張スト雖町村カ法人トシテ行フ可キ事業ハ公共ノ事務ナル可キハ町村制第三條ニ規定ス
ル所ナリ隨テ同制第十六條ニ依リ町村組合ヲ設ケ事務ヲ共同處分スル場合ニ當リテモ其事

務ハ公共ノ事務ナラサル可カラス然ルニ本訴ノ目的ハ稼業權即チ鮭留漁業權回復ニ在リテ該
事業タル單ニ營利ヲ目的トスルモノナレハ公共事務ナリト謂フ可カラス依テ被告カ明治二十
六年八月一日ヲ以テ爲シタル鮭留稼業ノ件取消ストノ處分ニ對シ原告ハ出訴スルコトヲ得ル
ノ權ナキモノトス

○出願ニ隣村連署ヲ要スル爲メ一應下戻シタルニ止リ未タ何等ノ處分ヲ爲シタ
ルニアラサレハ之ニ依リテ行政訴訟ヲ起スヲ得ス(海面區畫漁業場借區繼年期
出願ニ對スル違法處分更正ノ訴 明治二十八年第七十二號
明治二十八年七月九日宣告)

〔理由〕原告ニ於テ明治二十七年七月十一日附被告郡長ノ指令ハ原告ノ出願ヲ拒否シタルモ
ノナリト云フト雖本訴郡長ノ指令ハ原告ノ出願ニ隣村ノ連署ナキヲ以テ更ニ隣村ト協議ノ上
出願スヘキ旨ヲ附記シニ應之ヲ下戻シタルマテニシテ未タ原告ノ願ニ對シ何等ノ處分ヲ爲シ
タルモノニアラサレハ之ヲ以テ原告ノ營業免許ヲ拒否シタルノ處分ナリト謂フヲ得ス隨テ明
治二十三年法律第六號ニ依リ出訴スルヲ得ルモノニアラス

○訴願ノ提起ニ付キ其經由ノ途ニ當レル行政廳ヲ誤リタル爲メ要シタル時日ハ
訴願期限ノ經過ヲ妨ケス(練建網營業ニ關スル訴願權回復要求ノ訴 明治二十九年第一
行政訴訟手續 營業 漁業ニ關スル件 一九七)

五十八號
二十六日宣告

〔理由〕 原告ハ被告ニ於テ増毛外五郡長カ原告ノ出願ヲ拒否シタルハ明治二十八年十二月九日ニシテ之ニ對シ原告カ訴願ヲ提起シタルハ二十九年二月十三日ナレハ訴願期間ヲ經過シタルモノトシテ之ヲ却下シタルモ該日子ノ計算タルヤ固ト行政廳ノ一部タル留萌村戸長役場ノ過失ニ外ナラス況ンヤ郡長カ出願拒否ノ指令ヲ發シタル日時ト原告カ之ヲ接受シタル日時トノ間十有餘日ノ間隔アルニ於テハ被告ノ却下處分ハ違法ナリト云フト雖訴願法第二條ニ明記シアル如ク訴願ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ直接上級廳ニ提起スヘキモノナレハ原告カ戸長役場ニ訴願書ヲ提出シタルハ法律ノ命セサル不要ノ手續ヲ爲シタルマテニシテ之カ爲訴願期限ニ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス而シテ原告カ出願拒否ノ指令ヲ受領シタル日時ニ付訴願書ニ於テハ明治二十八年十二月九日ト云ヒ訴願書御受理ノ義ニ付願ト題スル願書ニハ十二月十四日ト云ヒ執レニ信ヲ置クヘキヤ判然セサルモ被告主張ノ如ク假リニ十二月十四日ヲ以テ指令ヲ受領シタル日トシ其翌日ヨリ起算スルモ處分應タル郡役所ニ訴願ヲ提起シタル日即チ二十九年二月十三日ニ於テハ既ニ訴願期限ヲ經過シ訴願スルヲ得サルニ至リタルモノトス既ニ原告ニ訴願權ナシト決スル以上ハ其他ノ辯論ニ付説明スル必要ヲ見ス

○他人ノ得タル營業免許カ自己ノ營業ヲ妨害スルモノト主張シ之カ取消ヲ請求スルハ明治二十三年法律第六號第三ニ該當セス(鮪大網許可取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十年五月十四日宣告)

〔理由〕 原告ハ本件ハ明治二十三年法律第六號ノ三ニ依リ行政訴訟ヲ提起シ得ルコトヲ主張スルモ第六號ノ三ハ自ラ營業免許拒否ノ處分又ハ免許取消ノ處分ヲ受ケタル者ニ出訴ヲ許シタルモノニシテ本件ノ如キ被告カ他人ニ營業免許ヲ與ヘタルカ爲メ自己ノ營業ヲ妨害セラレタリトスル場合ニ適用スヘキモノニアラス然ルニ原告ハ被告カ他人ニ新設ヲ許可シタル場所ハ原告カ獲ニ許可ヲ得タル漁場ニ進ミ來ル魚類ノ進路ヲ遮リ漁業ヲ妨害スルヲ以テ間接ニ漁業免許ノ一部ヲ取消サレタルモノナリト云フト雖兩者ノ漁業場ハ充分ノ間隔アリテ其區畫明瞭ナレハ單ニ魚類進行ノ方向相似タリトノ故ヲ以テ原告カ獲ニ得タル免許ノ一部ヲ取消シタルモノト主張スルハ其理由ナキモノトス

○農商務大臣カ農商務省令漁業組合準則第八條ニ依リテ認可シタル漁業組合規約ノ一部ヲ削除スヘキコトヲ命シタルハ營業免許ノ拒否又ハ取消ニアラス從テ該命令ノ取消ヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(不當命令取

消ノ訴 明治三十三年第百十號
明治三十三年六月二十九日裁決

〔理由〕 原告訴求ノ要旨ハ伊勢内灣ニ於テハ明治十九年三重愛知兩縣縣令ヲ以テ打瀬網ヲ嚴禁シ農商務省令第七號漁業組合準則ニ依リ兩縣聯合會ヲ設ケ明治二十四年其規約ヲ改正シ農商務大臣ノ認許ヲ得テ禁令ヲ實施シ來レルハ沿岸漁民ノ産業上又灣内魚族ノ蕃殖上最モ必要ナルニ被告ハ本年三月二日水第一四七號ヲ以テ三重愛知漁業組合聯合會ニ命令ヲ下シ該禁令ヲ解除セルハ不當ノ處置ナレハ之ヲ取消ヲ請フト謂フニ在レトモ本件ハ農商務大臣カ農商務省令漁業組合準則第八條ニ依リ曩ニ認可シタル事項ノ一部ヲ削除セシメタルモノニシテ營業免許ノ拒否又ハ取消ヲ爲シタルモノニアラス從テ本件ニ關シ法律勅令中行政訴訟ヲ提起シ得ヘキ規定ナキヲ以テ本訴ハ受理スヘキ限ニ在ラス

○ 郡長ノ處分ニ對シテハ地方上級行政廳タル縣知事ニ訴願シ且裁決ヲ經タル後ニアラサレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(採藻區畫場新設願ニ對スル不許可ノ指令取消ノ訴 明治三十三年第百六十三號
明治三十三年十月二十四日裁決)

〔理由〕 本訴ノ要旨ハ原告等ハ宮城縣本吉郡松岩村字前濱沿岸ニ於テ採藻シ得ヘキ見込ナルヲ以テ同村村長鮎貝盛徳ニ對シ與書ヲ請求シタルニ同村村長ハ何等ノ理由ナク漫ニ之レカ與書

ヲ拒絕シタルヲ以テ不得止其事由ヲ副申シ本願書ヲ被告郡長ニ差出シタルニ被告郡長ハ種種ノ情實ヲ以テ指令ヲ躊躇シタル後遂ニ何等ノ理由ヲ付セス漫ニ免許シ難シトノ指令ヲ爲シ本願ヲ斥ケタルハ不當ナルニ付該指令ヲ取消シ更ニ如何ナル理由ニ依リ免許シ難キヤヲ明示シ指令アランコトヲ要求スルニ在レトモ本件ハ郡長ノ處分ナルニ其地方上級行政廳タル縣知事ニ訴願シ其裁決ヲ經ルノ手續ヲ爲サス即チ行政裁判法第十七條第一項ノ手續ニ違背スルモノナルヲ以テ之ヲ受理スルノ限ニ在ラス

○ 漁業法ニ所謂水産組合ニ該當スヘキ性質ヲ有スル組合ト雖モ明治三十五年農商務省令第九號水産組合規則第九條ニ依リ定款ヲ變更シ同規則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其認可ヲ受ケサルトキハ法人トシテ認ムヘキモノニ非ス從テ漁業法ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルノ權利ナシ(違法漁業免許取消請求ノ訴 明治三十五年第百七十八號
十六年五月十一日宣告)

〔理由〕 原告提出ノ敦賀郡漁業組合規約ニ依レハ組合ハ該漁業法ニ所謂水産組合ニ該當スヘキ性質ノモノナルモ之レヲ適法ノ水産組合ト爲スニハ明治三十五年農商務省令第九號水産組合規則第九條ニ依リ定款ヲ變更シ本則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其認可ヲ受ケサルヘカラ

ス然ルニ原告ノ答申書ニ依レハ該組合ハ右期間内ニ其手續ヲ爲サ、ルモノニシテ隨テ法人トシテ見ルヘキモノニアラサレハ本訴ヲ提起スル權利ナキモノトス

○漁業法第二十五條第一項ニ規定スル爭議ノ裁決ニ付テハ單ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘク訴願ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(漁場區域侵害事件違法裁決取消請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十六年第三百三十一號 明治三十六年十月二十三日宣告)

〔理由〕 漁業法第二十五條第一項ニ規定スル爭議ノ裁決ニ付テハ同法及ヒ其他ノ法令ニ訴願ヲ爲シ得ヘキコトノ規定ナクシテ同條第二項ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定スレハ該爭議ノ裁決ニ對シテハ單ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘク訴願ヲ爲スコトヲ得サルモノナリト解釋セサルヲ得ス本訴原告ハ即チ右漁業法第二十五條第一項ニ規定スル爭議ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サス直チニ行政訴訟ヲ提起シタルモノナレハ適法ノ出訴ナリトス被告ハ行政裁判法第十七條第一項ニ依リ原告カ地方上級行政廳ニ訴願ヲ爲サス直チニ本訴ヲ提起シタルヲ以テ不適法ナリト云フモ同條第一項ハ訴願法其他ノ法令ニ依リ訴願ヲ許サレタル者之ヲ爲サスシテ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サル旨ヲ規定シタルニ過キス本件ハ之ニ反シ前段説明ノ如ク單ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘク訴願ヲ爲スコトヲ得サルモノニシテ行政

裁判法第十七條第一項ニ所謂法律勅令ニ特別ノ規程アルモノニ該當スルモノナレハ本訴ノ提起ヲ以テ不適法ナリト云フヲ得ス

○漁業免許ニ付テハ出願ノ先後ニ依リ其許否ヲ決スヘキ旨ノ法令ナキヲ以テ行政官廳ハ出願ノ先後ニ拘ハラズ之ヲ許否スルコトヲ得ヘシ(漁業免許ニ係ル不當裁決並處分取消ノ訴 明治三十六年第三百三十六號乃至第四百六十六號 明治三十六年十一月二十四日宣告)

○漁場ノ區域漁業權ノ範圍若クハ漁業方法ニ付キ裁決ヲ申請シ又ハ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキ者ハ漁業者ナルヲ要ス故ニ漁業權ノ貸付ヲ受ケタル者ニシテ訴訟進行中貸借期間ノ滿了ニ因リ漁業者タルノ資格ヲ失ヒタルトキハ之ト同時ニ行政訴訟ヲ爲スノ權ヲ失フモノトス(漁場區域侵害事件違法裁決取消請求ノ訴 明治三十六年第三百三十一號 明治三十七年一月二十七日宣告)

〔理由〕 漁業法第二十五條ニ依リ漁場ノ區域漁業權ノ範圍又ハ漁業方法ニ付裁決ヲ申請シ又ハ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキモノハ該法文ニ明示スル如ク漁業者ナラサルヘカラス被告ノ提出スル免許漁業原簿ノ謄本ニ依レハ原告ハ畑久平ヨリ明治三十六年一漁期間漁業權ノ貸付ヲ受ケ漁業者ト爲リタルモ本訴ノ進行中其貸借契約ハ期間滿了ニ依リ消滅シ明治三十六年八月十

四日該契約消滅ノ登記ヲ受ケタルモノナレハ原告ハ漁業者タルノ資格ヲ失シ隨テ行政訴訟ヲ爲スノ權ヲ失シタルモノトス

○漁業組合設置ノ認可ハ漁業ノ免許ヲ伴フモノニアラス故ニ未タ漁業免許ヲ受ケサル者ニシテ漁業組合設置ノ認可ヲ得タル場合ニハ更ニ漁業免許ヲ受ケサルヘカラス(漁業組合認可取消請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十六年第三百二十一號 明治三十七年七月八日宣告)

〔理由〕 漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受ケサルヘカラスルコトハ漁業法第三條第四條ノ明示スル所ナリ又漁業組合設置ノ認可ハ單ニ其設置ノ認可ニ止マリ漁業免許ニアラサルコトハ同法第十八條及ヒ漁業組合規則第六條並ニ前記第三條第四條ニ參照シテ疑ヲ容レヌ故ニ未タ漁業免許ヲ受ケサル者ニシテ漁業組合設置ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ更ニ漁業法第三條第四條ノ區別ニ從ヒ漁業免許ヲ受ケサルヘカラス尙ホ此解釋ノ正當ナルコトハ漁業法第五條第二十條及ヒ漁業法施行規則第七十一條ニ於テ漁業組合ハ漁業免許ヲ出願シタルトキノコト及ヒ其免許ヲ受ケタルトキノコト等ヲ規定セルニ依リ明白ナリトス而シテ本件被告ノ漁業組合設置ノ認可カ單ニ其設置ニ止リ漁業免許ニアラサルコトハ甲第一號證認可書ニ依リ明白ナレハ原告ハ未タ漁業免許ノ違法許可ニ依リ權利ヲ傷害セラレタリト云

フヘカラスルヲ以テ本訴ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス

○北海道廳支廳長ノ漁業拒否處分ニ不服アルモ北海道廳長官ニ訴願シ其裁決ヲ經ルノ手續ヲ踐マスシテ直チニ行政訴訟ヲ提起スルハ違法ナリ(定置漁業不許可處分取消ノ訴 明治三十七年第九百八號 明治三十七年十月二十八日裁決)

〔理由〕 本訴ハ原告カ明治三十七年五月二十三日北海道廳河西支廳長宛ニ鯧ノ定置漁業免許願ヲ爲シタルニ同支廳長ニ於テ之ヲ却下シタルヲ違法ナリトシ之カ取消ヲ請求スルニ在レトモ本件ハ河西支廳長ノ處分ナルニ其地方上級廳タル北海道廳長官ニ訴願シ其裁決ヲ經ルノ手續ヲ經サルモノナレハ即チ行政裁判法第十七條第一項ノ手續ニ違背スルモノナルヲ以テ受理スヘキ限ニ在ラス

○縣知事ノ漁業免許拒否處分ヲ不當トシ農商務大臣ニ訴願シテ裁決ヲ受ケタル以上ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(特別漁業鯛地曳網免許請求ノ訴 明治三十七年第九百三十三號 明治三十七年十二月十四日裁決)

〔理由〕 本件訴訟ハ原告カ漁業免許ノ許可ヲ新潟縣知事ニ出願シ拒否ノ處分ヲ受ケ之ヲ不當トシテ農商務大臣ニ訴願シ其裁決ニ不服ナルヲ以テ提起シタルモノナレハ行政裁判法第十七

條第三項ノ規定ニ該當シ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス

〔同一判例〕 漁業免許取消請求ノ訴 明治四十年第十三號
明治四十年六月十七日宣告

○漁業權ノ讓渡ヲ受ケタル者ハ更ニ行政官廳ニ對シテ免許狀ノ書換ヲ申請シ其下付ヲ受ケタルニアラサレハ自己ノ名義ヲ以テ漁業權ヲ行使スルコトヲ得ス從テ之カ書換下付ヲ拒否セラレタル者ハ漁業法第二十三條ニ所謂漁業免許ヲ拒否セラレタルニ該當ス(不當裁決取消並漁業權名義書換請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十七年第四百七號
明治三十八年六月五日宣告)

〔理由〕 漁業權ハ漁業法第七條ニ依リ讓渡シ得ヘキモノナルモ漁業法施行規則第三十三條ニ「漁業權ノ相續讓渡若クハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者雙方ハ申請書ニ其事由ヲ證スヘキ書面及免許狀ヲ添附シ三十日以内ニ免許狀ノ書換ヲ行政官廳ニ申請スヘシ」とアルニ依レハ之レカ讓渡ヲ受ケタル者ハ更ニ行政官廳ニ對シ免許狀ノ書換ヲ申請シ之レカ下付ヲ受ケタルニ非サレハ自己名義ヲ以テ漁業權ヲ行使スルコトヲ得サルモノナリ然レハ讓渡ヲ受ケタル者カ更ニ免許狀ノ書換下付ヲ受ケタルハ畢竟漁業免許ヲ受ケタルニ外ナラス隨テ之レカ書換下付ヲ拒否セラレタル者ハ即チ漁業法第二十三條ニ所謂漁業免許ヲ拒否セラレタル者ニ該當ス

本件原告ハ木戸脇萬太郎ヨリ漁業權ヲ讓受ケタルヲ以テ免許狀ノ書換下付ヲ申請シタルニ札幌支廳長ハ之ヲ拒否シタルモノナレハ漁業法第二十三條ニ依リ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲シ得ヘキモノニシテ原告ニ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スノ權ナシトスル被告ノ抗辯及ヒ本件原告ノ訴願ヲ却下シタル被告ノ裁決ハ共ニ其當ヲ得サルモノトス

○漁業免許若クハ其更新ヲ拒否セラレタル處分ニ對シテハ漁業法第二十三條ニ依リ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキモ漁業免許ノ違法許可若クハ其更新ノ處分ニ對シテハ同法第二十四條ニ據リ單ニ行政訴訟ヲ提起シ得ルモ訴願ヲ提起スルコトヲ得ス(違法漁業免許取消請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十七年第十號
明治三十八年六月十九日宣告)

○出訴期限ヲ經過シタル行政訴訟ハ之ヲ受理セス(同上)

〔理由〕 漁業免許若クハ其更新ヲ拒否セラレタル處分ニ對シテハ漁業法第二十三條ニ於テ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキコトヲ規定セルニ拘ラス漁業免許ノ違法許可若クハ其更新ノ處分ニ對シテハ同法第二十四條ニ於テ單ニ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキコトヲ規定シ訴願ヲ提起シ得ヘキコトヲ規定セス訴願法其他ノ法令中ニモ亦他人ノ營業免許ニ關シ訴願ヲ提起シ得ヘ

キコトヲ規定セサレハ該漁業免許ノ違法許可若クハ其更新ノ處分ニ對シテハ漁業法第二十四條ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルニトテ得ルモ訴願ヲ提起スルコトヲ得サルモノト解釋セサルヲ得ス本件原告ハ被告カ中田善八ニ與ヘタル漁業時期變更免許ノ取消ヲ請求スルモノナレハ前段説明ノ如ク漁業法第二十四條ニ依リ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキモ訴願ヲ提起スルコトヲ得ス而シテ之レカ爲メニ行政訴訟ヲ提起スルニハ行政裁判法第二十二條ニ依リ該變更免許ノ告示アリタル日ヨリ六十日以内ニ之ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ原告ハ該變更免許ノ告示アリタル明治三十六年九月二十日ヨリ一年三個月餘ヲ經過シ明治三十七年十二月二十四日ニ至リ本訴ヲ提起シタルモノナレハ即チ出訴期間ヲ失シタルモノナルヲ以テ本訴ヲ提起スルヲ得サルモノトス

○漁業法第三十三條ノ漁業者ハ免許期間ノ指定ヲ受ケ始メテ漁業權ヲ行使シ得ヘキモノナレハ期間指定申請ノ却下ハ直ニ漁業免許ノ拒否ト同一ノ效果ヲ生ス從テ該却下處分モ亦同法第二十三條ノ規定ニ包含セラル、モノトス(定置漁場免許期間指定不許可裁決不服ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十七年第七十二號 明治三十八年六月二十六日宣告)

〔理由〕 漁業法第三十三條ノ漁業者ハ免許期間ノ指定ヲ受ケテ始テ漁業權ヲ行使シ得ヘキモ

ノナレハ期間指定申請ノ却下ハ直チニ漁業免許ノ拒否ト同一ノ效果ヲ生ス可キニ依リ該却下處分ハ漁業免許ノ拒否ト同一ニシテ漁業法第二十三條ノ規定ニ包含シアルモノト解スルヲ相當ナリトス然レハ本件訴訟モ同條第二項ノ規定ニ依リ提起シタルモノナルヲ以テ不適法ノモノト云フヲ得ス

第四 水利土木

(一) 水利土木ニ關スル件

○明治二十三年法律第六號ニ依リ行政訴訟ヲ許スニハ行政官廳ノ違法處分ニ依リ毀損セラレタリト稱スル權利ノ直接ニ原告ニ屬スルヲ要ス(不當ノ新道増設工事差止ノ訴 明治二十三年第十三號 明治二十三年十二月十六日裁決)

〔理由〕 被告縣知事ハ岐阜縣美濃國大野郡大河原村ヨリ本巢郡北方町ニ達スル根尾街道改修工事中本道南部ニ當ル武儀郡上ノ保村ヨリ本巢郡北方町ニ至ル凡ソ一里程ノ道路ニ付岐阜縣臨時縣會カ議決シタル本道改修ノ外ニ一二村落ノ情願ニ基キ僅々十町内外ノ距離ヲ隔テ更ニ新道増設工事ヲ起スハ縣會ノ議決及被告知事ノ發布シタル縣令ニ違背シタルモノニシテ郡民一般ノ權利ト原告等舊道路ニ依テ營業シ來レル權利トテ毀損シ併テ莫大ノ地方稅ヲ消費スルニ

至ラントスルヲ以テ本年法律第百六號ニ依リ該工事ノ差止ヲ請求スト云フニ在リト雖法律第百六號ハ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ニ限り出訴ヲ許スノ規定ナルニ本件所争ノ工事ニ關シテハ直接ニ原告人ニ屬スル權利ト認ムヘキモノ無之ニ付出訴スルヲ得サルモノトス

○縣知事ノ爲シタル小學區畫及ヒ其位置分合存廢處分ニ對シテ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(併校土木取消請求ノ訴 明治二十四年第四百四號 明治二十四年九月二十四日裁決)

○縣知事ノ發シタル工事請負取消ノ命令ニ對シテ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(不當命令取消ノ訴 明治二十四年第八十號 明治二十四年十一月三十日裁決)

○町村組合ノ管理者タル郡長カ道路開鑿工事ノ受負ニ關シ違法ノ處分ヲ爲シタリト稱スル事件ハ訴訟法ニ依リ地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ニ不服アル場合ニアラサレハ出訴スルコトヲ得ス(土木工事ニ關スル違法處分取消ノ訴 明治二十五年二月二十九日裁決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ京都府天田郡福知山町外二十个村組合事業ニ係ル福知山町ヨリ大阪ニ達スル街道及同所ヨリ豊岡ニ達スル街道道路開鑿工事ノ受負ハ町村制第八十七條ノ法規

ニ則リ公ケノ入札法ニ依リ工事受負人ヲ定メ以テ施行スヘキヲ管理者ハ右法律ニ遵據セス明リニ大阪街道ハ曾我井村長鹽見清三郎ニ豊岡街道ハ上川口村長小田軌ニ特選ヲ以テ請負ハシメ既ニ工事ニ着手セリ是管理者ノ所爲ハ法律ヲ蔑視シ人民ノ權利ヲ侵害セシ違法處分ナルニ依リ之ヲ取消シ更ニ該法ノ規定ヲ遵守シ公然ノ入札法ニ依リ右道路開鑿工事施行相成ル様裁判ヲ受ケタシト云フニ在レトモ本件ノ如キハ訴訟法ニ依リ地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ニ不服アル場合ニ非レハ出訴スルコトヲ得サルモノナリ而シテ本件ハ未タ其手續ヲ經サルモノニ付受理スルノ限リニ在ラス

○訴願期限起算ノ當否ノミニ關シテ判決ヲ求ムルハ明治二十三年法律第百六號第四ニ該當セス(芝原用水組合總代人員及其選舉區域制定處分不當ノ訴願ニ對スル裁決取消ノ訴 明治二十四年第五十六號 明治二十五年四月三十日宣告)

〔理由〕 原告ハ明治二十三年法律第百六號ニ依リ出訴スト云フト雖明治二十三年法律第百六號第四ハ專ラ水利又ハ土木ニ關スル事件ヲ指示シタルモノニシテ本件訴願期限起算ノ當否ノミニ就キ單ニ裁判ヲ請フモノ、如キハ該法ニ依リ出訴スルヲ得ヘキモノニアラス

○行政處分ニ對シ各省大臣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ

得ス(官地堤脚ヲ第一二種ノ民地ト爲シタル處分取消ノ訴 明治二十五年第八十七號)

〔理由〕 原告訴求ノ要旨ハ下總國南相馬郡布佐町官堤ハ今ヲ距ルコト數百年前官民協力合議ノ上其指揮監督ニ從ヒ利根川出水豫防ノ爲メ築造セシ堤塘ニシテ村民一般官堤ノ名稱ヲ附シテ使用シツ、經過シ即チ原告人ノ父岡田傳兵衛ナル者慶應年中該堤塘ノ一部ニ建設シアル家屋ヲ購求シ茲ニ住居ヲ定メタリ其際土石杉丸太等ヲ買收シ自費勞力ニテ宅地トナシ且毎年利根川ノ洪水アルヤ其都度相當ノ注意ヲ加ヘ常ニ金錢ト勞力トヲ費消シ今日ニ至ルマテ完全ニ地代金ヲ官ニ納メ以テ使用ノ許可ヲ得タル次第ナリ然リ而シテ該堤塘地ハ明治四年中甲一號證ノ如ク更ニ官有地ト確定ナリタリシニ千葉縣知事ハ明治二十一年中甲第二號證見取圖イノ土地ニ對シ榎本治郎右衛門ナル者ヘ故ナク民有地第一種ノ地券ヲ授與シ同時ニろノ土地ニ對シテハ民有地第二種ノ地券ヲ授與シタリ右治郎右衛門ハ之レ等ノ地券ニ私權ヲ擴張シ舊來ノ習慣ヲ破滅シ原告等ニ對シテ利益ヲ得ント企謀スルモノナリ然レトモ原告ハ慶應年間ヨリ該官堤ニ居住シ先例遺範ニ從ヒ毎年宅地トシテ必要ナル相當手當ヲ供給シ先代者ヨリ今日ニ至ル迄現ニ數十年占有シツ、アル者ナリ然ルニ毫モ該居住地ニ關係ナキ第三者榎本治郎右衛門ヘ千葉縣知事カ地券ヲ授與ナス如キハ頗ル不當ナリ且方今正ニ原告ニ對シテハ官地ノ名義ニテ

使用料ヲ徵收シ許可ヲ與ヘナカラ之ヲ民有ト爲スハ前後矛盾ノ處置ニシテ原告ノ既得權ヲ害スル甚シ故ニ該堤脚ヲ民地ト變換スルニハ先占添附ノ事實アル原告人ヘ所有權ヲ付與スヘキモノニシテ第三者タルモノニ所有權移轉スヘキ道理アルコトナシ是レ必竟事實ノ認定ニ誤認アル行政處分ニシテ服從スル能ハサル所以ナリ又内務大臣ハ此不服ノ點ニ裁決書ヲ與ヘラレシモ之レ亦要スルニ千葉縣知事ノ處分ヲ是認シ原告ノ證憑アル請求ヲ排斥シ論地ハ榎本治郎右衛門ニ所有權アリト判定シタリ是レ原告ノ到底服從スル能ハサルトコロナリ依テ論地官堤十八間内第二百〇八號地及ヒ接續ノ地所ヲ民有地ト爲シタル千葉縣知事ノ處分ヲ取消シ從來ノ慣習ニ基キ相當ノ使用料ヲ徵收セラレ原告ヘ之ヲ貸渡サンコトヲ請フト云フニ在レトモ本件ハ既ニ内務大臣ニ訴願ヲ爲シタル事件ナルヲ以テ行政裁判法第十七條三項ノ規定ニ從ヒ原告ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス

○ 一郡ノ共有金ヲ以テ鐵道線路ニ關シ奔走スル委員ノ手當金トシテ支出スルヲ不當トスル訴ハ明治二十三年法律第六號第四ニ該當セス(土木ニ關スル違法行政處分取消請求ノ訴 明治二十六年第四號 明治二十六年二月四日裁決)

〔理由〕 原告訴求ノ要旨ハ從來天田郡ニハ甲第一號證ノ如ク町村組合規約ナルモノアリテ其

第一條ノ明文ニ天田郡全町村ニ關係スル土木衛生及共有財産並ニ營造物ニ係ル事務ヲ共同處分スル爲メ云々トアリテ其組合管理者ハ被告天田郡長ナリ而シテ被告ハ明治二十五年六月二十六日該規約ニ基キ甲第二號證ノ如ク組合會開會ノ通知書ヲ發シ會議ヲ開キタリ該會議ニ於テハ甲第二號乃證至甲第八號證ニ明ナル如ク鐵道敷設法ニアル近畿線ヲシテ福知山ヲ經過セシムル目的ヲ達スル爲メ奔走盡力スルコト及ヒ其奔走者即チ委員ト稱スル者ニ手當金ヲ給スルコト其手當金ハ一郡ノ共有金ヲ以テ之ニ充ツルコト等ヲ決議シ被告ハ之ヲ一ノ土木事業ト看做シ目下現ニ其決議ヲ執行シ居レリ然レトモ天田郡ノ組合會ハ土木ニ關スル事柄ヲ議スルノ權限アルモ其區域ハ一郡内ノ土木事業ニ限ルヘキ筈ナリ鐵道問題ハ國家ノ事業ナリ從テ其經過スル線路モ政府カ國家ノ利害得失ニ徵シテ決定スヘキモノナレハ天田郡組合會ノ容喙スヘキ事柄ニ非ス故ニ被告カ明治二十五年法律第四號鐵道敷設法ニ指定シアル近畿線ヲシテ天田郡福知山ヲ經過セシムルノ目的ヲ達スル爲メ奔走スル委員ノ手當金ヲ同郡ノ共有金ヲ以テ支辨スルノ處分ハ其當ヲ得サルニ依リ之カ取消ヲ請求スト云フニ在リト雖本件ハ一郡ノ共有金ヨリ鐵道線路ニ關シ奔走スル委員ノ手當金ヲ支出シタルモノニシテ土木ニ關スル事件ニ非ス從テ明治二十三年法律第六號四ニ該當ス可キモノニアラス

○行政裁判所ノ裁決ニ對シテハ再審ヲ許サス(不法工事差止請求事件ノ裁決ニ對スル抗告 明治三十年第三十七號 明治三十年九月二十二日裁決)

○通河錢ヲ取立ツルコトヲ縣知事カ許可シタルハ不當ナリト主張シ其處分ノ取消ヲ求ムル事件ニ付キ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(通河錢取立處分請求ノ訴 明治三十年第七十五號 明治三十年九月二十七日裁決)

○水利ノ爲メニ人民カ假設シタル工事ノ取拂ヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(水利ニ關スル訴 明治三十年第二百二號 明治三十年十二月一日裁決)

○人民假設ノ水利工事ヲ村長カ費用シテ縣稅ノ補助ヲ受クルハ不法ナリト主張スル事件ハ明治二十三年法律第六號第四ニ該當セス(水利ニ關スル訴 明治三十一年第三十九號 十一年四月二十二日裁決)

○直接ニ權利ヲ毀損セラルヘキ行政處分ヲ受ケタル場合ニアラサレハ明治二十三年法律第六號ニ依リテ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(不法工事取除請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十一年第四十八號 明治三十一年七月九日宣告)

〔理由〕原告ハ被告ニ於テ原告ノ請求書ヲ却下シタルハ本案ニ付テノ却下ニアラサルモ等シ

ク行政處分ナリ又水害豫防組合ハ被告ノ監督ニ屬スルヲ以テ原告カ此監督權ノ行使ヲ請求スルニモ拘ハラヌ故ラニ之レヲ放任シ監督權不施行ノ爲メ原告ノ權利ハ依然侵害セラレタリト云フト雖被告ニ於テ原告ノ請求書ヲ却下シタル行爲ハ一箇ノ行政處分ナリト云フヲ得ヘキモ明治二十三年法律第六六號ノ所謂行政廳ノ處分ナルモノハ之カ爲メニ直接ニ權利ヲ毀損セラレル場合ヲ生シ得ヘキ行政處分ヲ謂フモノニシテ本訴處分ノ如キハ該法律規定ノ範圍外ニ屬スル行政處分ナリト言ハサルヘカラス隨テ本件ハ行政裁判所ニ出訴シ得ヘキ限ニ在ラス

○他人ノ受ケタル行政處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリト主張スル者カ之ニ對シテ訴願ヲ提起スル場合ニハ其行政處分アリタルコトヲ知得シタル日ヨリ訴願期限ヲ起算スヘキモノトス(水車用河水引用許可取消ノ訴願ニ對スル不當裁決取消ノ訴 明治三十一年第八十五號
明治三十二年三月二十九日宣告)

○法律上區總代ナル資格ヲ認メス(同上)

〔理由〕 被告ハ訴願法第八條ハ行政處分ニ對シ訴願ヲ提起スルニ付テノ一般ノ規定ニシテ原告ノ云フカ如キ狹隘ノモノニアラスト云フト雖本件原告ノ如キハ他人ノ受ケタル處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ナレハ之ニ對スル訴願期限亦直接ニ處分ヲ受ケタル者ニ對ス

ル場合ト其起算點ヲ異ニスヘク即チ其處分アリシコトヲ知得シタル日ヨリ起算スヘキモノト解釋スルヲ至當トス又被告ハ假リニ一步ヲ讓ルモ原告カ河水引用ノ許可アリシコトヲ知得シタルハ原告主張ノ如ク區會開會ノ請求ヲ受ケタル日ニアラスシテ遅クトモ各區總代カ郡長ニ請願ヲ爲シタル日即チ明治三十年十二月二十五日ナリト云フト雖區總代ナル者ハ法律上其成立ヲ認メラレタル機關ニアラサレハ總代カ請願ヲ爲シタルヲ以テ直ニ區ナル法人カ許可處分ヲ知得シタリト云フヲ得ス然ラハ原告カ明治三十一年五月四日ヲ以テ被告縣知事ニ訴願ヲ提起シタルハ訴願法第八條ノ期限内ニ在ルモノト云ハサルヘカラサルナリ

○期限ヲ經過シタリト理ノ由ヲ以テ訴願ヲ却下シタル裁決ニ對シテハ單ニ期限ノ點ニ止ラス直ニ本案ノ行政訴訟ヲ起スコトヲ得(水車用河水引用許可取消ノ訴願ニ對スル不當裁決取消請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十一年第八十五號
明治三十二年十一月六日宣告)

〔理由〕 被告ハ本件ハ原告ヨリ訴願アリタルモ訴願期限ヲ經過セルモノト認メテ却下シタルカ爭點トナリテ出訴ニ及ヒタルモノナレハ行政裁判所ニ於テ訴願期限未タ經過セストノ判決ヲ受ケタル上ハ更ニ本案ニ付被告ヘ訴願ヲ爲スヘキニ直チニ出訴シタルハ不法ナリト云フト雖原告ハ適法ノ訴願ヲ被告ニ提出シタルニ被告ニ於テ違法ノ裁決ヲ爲シタルヲ以テ茲ニ出訴

シタルモノニテ本件ハ適法ニ訴願經由ノ手續ヲ履行シタルモノナレハ直チニ被告ニ對シ本案河水引用許可ノ取消ヲ求ムルハ固ヨリ不當ノコトニアラス

○法定ノ出訴期間ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス(猪子粹取拂及元杵樋改築命令取消請求ノ訴 明治三十三年第七十一號 明治三十四年七月十日宣告)

○工事請負出願却下處分ニ對シテハ法律勅令中行政訴訟ヲ許スノ規定ナシ(工事違法處分取消ノ訴 明治三十六年第二百二十八號 明治三十六年六月五日裁決)

○市長カ與ヘタル水車營業許可取消命令ノ取消ヲ訴求スルニハ先ツ地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ受ケサルヘカラス(水車位置變更許可取消命令ニ對スル訴 明治三十七年第九十號 明治三十八年十二月二十九日宣告)

○[理由] 本訴ハ曩ニ被告カ原告ニ對シ與ヘタル水車營業許可取消命令ノ取消ヲ求ムルモノナルモ斯ノ如キ訴訟ヲ提起セントスルニハ行政裁判法第十七條第一項ニ依リ地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ受ケサルヘカラス然ルニ原告ハ此手續ヲ經サルモノナルヲ以テ本訴ハ之ヲ提起スルヲ得サルモノトス

○明治二十三年法律第六六號ハ行政裁判所ニ出訴シ得ヘキ事件ヲ規定シタルニ

止マリ行政裁判法第十七條第一項ニ所謂特別ノ規程即チ地方上級行政廳ニ訴願ヲ爲サスシテ出訴スルコトヲ許シタルモノニアラス(不法命令取消請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十八年第二百三十四號 明治三十八年十二月十二日宣告)

○[理由] 按スルニ明治二十三年法律第六六號ハ單ニ行政裁判所ニ出訴シ得ヘキ事件ヲ規定シタルニ過キスシテ行政裁判法第十七條第一項ニ所謂特別ノ規定即チ地方上級行政廳ニ訴願ヲ爲サスシテ出訴スルコトヲ許シタルモノニ非ス故ニ原告カ之ヲ爲サスシテ出訴セシハ法定ノ手續ニ違背スルモノニシテ本訴ハ審理スヘキ限リニ在ラス

第五 土地森林原野

(一) 土地官民有區分ニ關スル件

○土地ノ所有權ニ關係ヲ有スル者ニアラサレハ土地官民有區分ノ査定ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリト稱シテ出訴スルコトヲ得ス(官地堤脚ヲ第一二種ノ民地トナシタル處分ヲ取消使用繼續請求ノ訴 明治二十六年第七號 明治二十六年二月八日裁決)

○[理由] 原告訴求ノ要旨ハ下總國南相馬郡布佐町官堤ハ今ヲ距ルコト數百年前官民協力合議ノ上其指揮監督ニ從ヒ利根川出水豫防ノ爲メ築造セシ堤塘ニシテ村民一般官堤ノ名稱ヲ附シ

使用シツ、經過シ即チ原告人ノ父岡田傳兵衛ナル者慶應年中該堤塘ノ一部分ニ建設シアル家屋ヲ購求シ茲ニ住居ヲ定メタリ其際土石杉丸太等ヲ買收シ自費勞力ニテ宅地ト爲シ且毎年利根川ノ洪水アルヤ其都度相當ノ注意ヲ加ヘ常ニ金錢ト勞力トヲ費消シ今日ニ至ル迄完全ニ地代金ヲ官ニ納メ以テ使用ノ許可ヲ得タル次第ナリ然リ而シテ該堤塘地ハ明治四年中甲一號證ノ如ク更ニ官有地ト確定ナリタリシニ千葉縣知事ハ明治二十一年中甲第二號證見取圖イノ土地ニ對シ榎本治郎右衛門ナル者ヘ故ナク民有地第一種ノ地券ヲ授與シ同時ニろノ土地ニ對シテハ民有地第二種ノ地券ヲ授與シタリ右治郎右衛門ハ之レ等ノ地券ニ基キ私權ヲ擴張シ舊來ノ習慣ヲ破滅シ原告等ニ對シテ利益ヲ得ント企謀スルモノナリ然レトモ原告ハ慶應年間ヨリ該官堤ニ居住シ先例遺範ニ從ヒ毎年宅地トシテ必要ナル相當手當ヲ供給シ先代者ヨリ今日ニ至ル迄現ニ數十年占有シツ、アル者ナリ然ルニ毫モ該居住地ニ關係ナキ第三者榎本治郎右衛門ヘ千葉縣知事カ地券ヲ授與ナス如キハ頗ル不當ナリ且方今正ニ原告ニ對シテ官地ノ名義ニテ使用料ヲ徵收シ許可ヲ與ヘナカラ之ヲ民地ト爲スハ前後矛盾ノ處置ニシテ原告ノ既得權ヲ害スル甚シ故ニ該堤脚ヲ民地ト變換スルニハ先占添附ノ事實アル原告人ヘ所有權ヲ付與スヘキモノニシテ第三者タルモノニ所有權移轉スヘキ道理アルコトナシ是レ必竟事實ノ認定ニ誤

謬アル行政處分ニシテ服從スル能ハサル所以ナリ依テ論地官堤十八間ノ内第二百八號地及ヒ接續ノ地所ヲ民有地ト爲シタル千葉縣知事ノ處分ヲ取消シ相當ノ使用料ヲ徵收セラレ原告ヘ之ヲ貸渡サンコトヲ請フト云フニ在レトモ原告ハ本件土地ノ所有權ニ關係ヲ有スル者ニアラサルヲ以テ官民有區分ノ査定ニ依リ權利ヲ毀損セラレタル者ト云フヲ得ス從テ本件ハ明治二十三年法律第六號五ニ該當スル土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件ノ範圍内ニ入ル可キモノニ非ス又他ノ法律勅令ニ行政裁判所ニ出訴ヲ許スノ規定ナキヲ以テ原告ハ行政訴訟ヲ提起シ得ヘカラサルモノトス

(同一判例) 官有地編入不當處分取消請求ノ訴 明治二十六年第五十九號
明治二十六年十月二十一日宣告

○明治八年七月地租改正事務局地所處分假規則ハ內務省乙第七十二號達ノ執行規則ニ過キサレハ該達ニ付キ出願期限ヲ經過スルトキハ地所處分假規則ノ上ニ於テモ亦之ヲ經過シタルモノト云ハサル可ラス(土地官民有區分査定ニ關スル違法處分取消ノ訴 明治二十七年第十四號
明治二十八年二月二十七日宣告)

○違例ノ取扱ハ合達ノ效力ヲ廢止シタルノ證據ト爲ラス(同上)

(理由) 第一原告ハ本件係爭地ハ原敷地ノ換地トシテ賜ハリタル地所ニシテ之ヲ現行法ニ照

スニ明治八年七月八日地租改正事務局決議地所處分假規則第三節第二條ノ社寺名受地ニ該當シ且右地所ハ元ト河原ナリシヲ本寺ニテ開墾シ宅地ト爲シタルニ依リ該規則第三節第四條ノ自費ニテ開墾シタルモノニ該當スルヲ以テ原告ノ所有ト爲サ、ル可カラズト云フト雖地所處分假規則ハ出張官吏ノ心得書ニシテ内務省乙第七十二號達ノ執行規則ニ過キサレハ該達ニ就キ出願期限ヲ經過スルトキハ地所處分假規則ノ上ニ於テモ亦之ヲ經過シタルモノト云ハサル可カラス而シテ乙第七十二號達ニ就テハ明治九年十月六日内務省乙第一百十九號達ヲ以テ出願ノ期限ヲ定メ同年十二月限ト爲シタルニ依リ既ニ其期限ハ經過シタルヲ以テ原告ハ該規則ニ依リ出願スルノ權利ナキモノトス第二原告ハ内務省ニ於テ茨城縣滿願寺及靜岡縣高松神社舊神官中山政太郎ニ對シ明治十年十一月頃ニ至リ乙第七十二號達ニ依テ處分ヲ爲シタリ是レ明治十年八月十一日ノ内務省伺及同年十一月十日ノ太政官指令ニ基キテ爲シタルモノナルコト明カニシテ當時乙第一百十九號達ノ期限ハ此伺指令ニ依リ消滅シタルモノナリト云フト雖モ右伺定ハ公布シタルモノニアラサレハ之ヲ以テ乙第一百十九號達ノ期限ヲ廢止シタルモノト謂フヲ得ス而シテ滿願寺土地下戻ハ期限内ニ受理シタルモノナレハ期限ヲ破リタル證據ト爲スノ力ナク又中山政太郎開墾地處分ハ違例ノ取扱ヲ爲シタルモノト謂フ可ク是レ亦期限ヲ廢止シタル證據ト爲スニ足ラス

○土地ノ官民有區分ニ關スル伺書ニ對シテ指令ヲ爲スヘシト請求スル事件ハ明治二十三年法律第六號第五ニ該當セス(土地ノ官民有區分ニ起因スル不當處分取消請求ノ訴 明治三十年第六十六號
明治三十年十月八日裁決)

○官民有地區分ニ關スル縣知事ノ處分取消ノ訴ニ對シ知事ハ官民有查定ノ處分權ナキヲ理由トシテ本案ノ答辯ヲ拒ムコトヲ得ス(官有地編入不當處分取消並民有地編入ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十一年第七十五號
明治三十二年三月十日宣告)

〔理由〕 被告ハ原告ニ於テ明治十五年及明治二十三年ノ兩度ニ本件係爭地ヲ官有原野ナリトシテ上申シタルヲ以テ該地ハ官有地ニ編入セラレタルコトハ原告第四號證ノ通牒以前ニ既ニ之レヲ知リタル筈ナリト云フト雖原告第八號證明治三十年九月二十日附ヲ以テ白田小林區署營林主事補三浦高海ヨリ原告ヘ對シテ發シタル照會書中ニ貴村字細小路未定地境界取調云々ト記載シアルヲ以テ見レハ原告ニ於テハ當時尙ホ係爭地ハ未定地ナリト心得居リタルモノト推定シ得ヘキカ故ニ明治十五年ノ上申書中ニハ未定地ナルカ故ニ特ニ但民有地ニ編入願中ト記載シ置キタリトノ原告ノ申立及明治二十三年ノ上申書ハ郡衙ノ掛員ニ公有地トシテ取調フ

ヘキカト尋ネタルニ其處分ナキ内ハ尙ホ官有地トシテ取調フヘントコト故其命令通りニ記載シタリト云フ原告ノ申立ハ事實ナリト認定スルヲ得ヘシ故ニ明治十五年及明治二十三年中原告ハ官有地編入ノコトヲ既ニ知リタリト云フ被告ノ主張ハ其當ヲ得タルモノニアラス隨テ原告カ第四號證通牒ノ年月日ヨリ法定ノ期限ヲ起算シテ提起シタル本訴ハ適法ニ成立シタルモノト言ハサルヲ得ヌ又被告ハ農商務省令ニ依リ被告ニ處分權ナケレハ被告ニ本訴ノ要求ヲ爲スヘキ理由ナシト云フト雖原告ニ於テハ現ニ被告ノ行フタル行政處分ノ取消ヲ請求スルモノナレハ被告ハ其處分ニ對シテハ責任ナシト云フヲ得サレハ現時被告ニ處分權ナキノ故ヲ以テ本訴ノ答辯ヲ拒ムコトヲ得ヌ

○官有地ノ下戻願ヲ却下シタルヲ不當ナリト主張スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(土地官民有區分查定ニ關スル訴 明治三十二年第九十四號 明治三十二年十月二十七日判決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ大阪市東區谷町四丁目市街宅地二番地西ノ方ニ當時現在スル官有溝地ハ元來原告所有地ヲ寄附セシモノナルニ方今不用ニ屬シ居ユエ下戻シ方ヲ出願ニ及ヒタルニ何等ノ理由ヲ付セス聞届ケ難シト指令シタルハ原告カ寄附及溝地ノ意思ノ權利ヲ毀損シタル違法ノ處分ナリト云フニ在リテ該土地ノ所有權ハ官府ニ在ルヲ認メツ、之カ下戻シヲ請

求スルモノナレハ明治二十三年法律第百六號ノ第五號土地ノ官民有區分查定ニ關スルモノト云フヘカラス其他法律勅令中出訴ヲ許スノ規定ナシ

○行政裁判所ノ判決ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ヌ(土地官民有區分查定取消ノ訴 明治三十五年第四十三號 明治三十五年三月七日判決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ岐阜縣吉城郡上寶村大字鼠餅區字瀧ヶ洞國有林ト同區字山名屋谷第七百八十一番民有林トノ境界ニ關スル明治三十四年二月二十八日查定實地四十八間ヲ取消シ並ニ標杭取拂ヲ請フニ在レトモ本件查定取消シノ訴ニ付テハ明治三十四年十二月十日當裁判所ニ於テ判決ヲ與ヘタルモノナルヲ以テ本件ニ對シテハ行政裁判法第十九條ニ依リ再審ヲ求ムルコトヲ得サルモノナレハ本訴ハ受理スル限ニ在ラス

○國有林野ノ樹木ヲ冒認販賣セシ爲メ告發セラレタル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許シタル法令ナシ(山野地官民有區分ニ關スル不當處分取消ノ訴 明治三十五年十一月十日判決 百三號 九日判決)

〔理由〕 原告訴狀ノ要旨ハ原告ハ其所有地内ノ樹木ヲ賣却セシニ被告ハ國有原野ノ樹木ヲ冒認販賣セシモノトナシ之ヲ告發シタリ依テ原告ハ所有權侵害ノ理由ヲ以テ訴願セシニ被告ハ

之ヲ却下シタリ然ルニ該却下ノ裁決ハ不當處分ナルニ付之ヲ取消シ別紙甲ヨリ乙ノ線ノ位置ヲ以テ境界ナリト判決アラシコトヲ請フト云フニ在レトモ本件ノ如キ場合ニ於テ國有林野法其他法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定アラサルヲ以テ本件ハ受理スヘキ限リニ在ラス

○土地官民有區分境界査定ニ關シ其假踏査ヲ不當トシテ更ニ境界査定ヲ求ムル事件ニ付テハ國有林野法其他ノ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(土地官民有區分境界査定請求ノ訴 明治三十六年第七十二號
明治三十六年七月三日裁決)

○脫落地ニ對シテハ國有土地森林原野下戻法ニ依リ民有ニ下戻ヲ申請シ其處分ニ不服アルトキハ出訴シ得ルモ明治二十三年法律第六號ニ依リテ出訴スルコトヲ得ス(土地官民有區分不當處分取消請求ノ訴 明治三十八年第九十號
明治四十年四月二十二日宣告)

〔理由〕 係爭地ハ神戸稅務署ノ土地臺帳ニ登錄セラレ且其他ノ官簿ニモ登載シアラサルモノナレハ脫落地ナリト認メサルヲ得ス而シテ脫落地ニ對シテハ國有土地森林原野下戻法ニ依リ民有ニ下戻ヲ申請シ其處分ニ對シテ不服ナルトキハ出訴シ得ヘキモノナルモ本件ノ如キハ明治二十三年法律第六號ノ所謂土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件ノ範圍外ニ屬スルヲ以テ同法ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス

(二) 境界査定ニ關スル件

○官民有地區分ノ査定ニ付キ別ニ告知等ヲ爲サ、ルモ査定ニ異議ナキ旨ノ調印記名ヲ爲スヘキ通知ヲ爲シタルトキハ出訴期限ハ該通知ノ時ヨリ進行スルモノトス(官民有地境界査定不當處分取消ノ訴 明治二十四年第七十七號
明治二十五年四月四日宣告)

〔理由〕 原告ハ官民有區分査定ノ告知等ヲ受ケタルコトナケレハ出訴期限ハ未タ進行セサルモノナリト云フト雖モ明治二十三年八月査定ノ際不服ヲ申立シ儘立會セシテ退去シタル後査定異議ナキ旨ノ調印記名ヲ爲ス可キノ通知ヲ受ケタル上ハ處分結了ヲ識リ得可キハ當然ナリトス苟クモ此調印記名ヲ拒ムノ理由アリトセハ之ヨリ起算シテ出訴スルヲ得可シ然ルニ之ヲ等閑ニ付シ明治二十四年十一月十二日ニ至リ別ニ告知書等ヲ受ケストノ辭柄ヲ以テ出訴期限ハ未タ進行セスト云フヲ得ス依テ本訴ハ行政裁判法第二十二條ニ規定シタル出訴期限ヲ經過シタルモノナリトス

○官林境界査定委員ハ査定ノ處分ヲ爲ス權限ナキヲ以テ之ヲ對手下シテ行政訴訟ヲ起スハ其當ヲ得ス(官民有地境界査定不當處分取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

明治二十九年第十號
明治二十九年五月十五日宣告

〔理由〕 被告ノ妨訴抗辯ノ當否ヲ裁判スルニハ本件境界査定委員ナルモノハ官林境界査定處分ヲ爲ス職權ヲ有スルヤ否ヤヲ説明セハ十分ナリトス依テ按スルニ官林ノ境界調査ニ關スル事項ハ大小林區署官制第一條ノ三ニ依リ大林區署ノ管掌ニ屬ス然ルニ被告ニ於テハ甲第一號證官民有林境界査定處分ヲ爲セシハ乙第一號證東京大林區署長ノ令達ニ基キタルモノナリト云フト雖モ該令達ニ依ルモ被告ヲシテ自己ノ名ヲ以テ査定處分ヲ爲サシムルモノタルコト明確ナラサルノミナラス果シテ査定委員ノ名ヲ以テ處分ヲ爲サシムルモノトセハ是レ即チ大林區署長カ官制ノ規定ニ依リ自己ノ主管ニ屬スル事項ヲ以テ擅ニ他人ニ委任セシモノニシテ此點ニ於テハ固ヨリ無効ノ令達タラサルヲ得サルカ故ニ執レヨリスルモ境界査定委員ハ到底自己ノ名ヲ以テ査定ノ通知ヲ爲ス職權ナキモノトス從ツテ被告カ原告ニ對シテ爲シタル甲第一號證査定ノ通知ハ無効ノモノトス然レトモ原告ニ於テ査定處分ヲ爲ス權限無キ被告ヲ對手トシ行政訴訟ヲ提起セシハ是亦其當ヲ得サルニ付被告ノ妨訴抗辯ハ結局其理由アルモノトス

○ 訴狀ニ記載シタル被告ノ氏名ヲ訂正セシムトテ願出テ行政裁判所ハ之ヲ許可セストノ決定ヲ與ヘタル場合ニ於テ該決定ニ對スル故障ノ申立ハ行政裁判法第四十條ノ所謂審問手續ニ關スル故障中ニ包含セス(山林境界決定取消ノ訴

明治三十年第八十一號
明治三十年十一月六日裁決

○ 甲大林區署ノ管轄ニ屬スル係争地ニ付キ乙大林區署ヲ被告ト爲シタルハ訴訟ノ對手ヲ誤リタルモノトス(山林境界決定取消ノ訴 明治三十年第八十一號 明治三十年十一月六日宣告)

〔理由〕 原告ニ於テ被告ノ抗辯ハ防禦方法ニ止マリ民事訴訟法ニ所謂妨訴抗辯ニアラスト云フト雖行政訴訟ノ妨訴抗辯ハ必スシモ民事訴訟法ニ謂フ所ノモノト同一ナラサルヘカラサルノ理由ナク而シテ本訴ノ如キハ大林區署ノ區域變更ノ爲既ニ石川大林區署ノ管轄ニ屬シタル係争地ニ付テ長野大林區署長ヲ被告ト爲シタルモノナレハ其對手人ヲ誤リタリト謂ハサルヲ得ス

○ 山林境界誤認訂正願ノ聞届ニ依リ引渡ヲ受ケタル地所ヲ不充分ナリトシ其殘地ノ引渡ヲ請求スルハ土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件ニアラス又斯ル事件ニ付キ他ニ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(山林境界訂正ノ訴 明治三十五年五月十二日宣告)

〔理由〕 原告ハ被告官廳カ原告ノ提出ニ係ル山林誤認訂正願ヲ聞届ケナカラ單ニ一小部分ノ地所ヲ原告ニ引渡シタルニ止マリ殘地ノ引渡ヲ拒絕シタルハ原告所有地ノ境界ヲ否認シタル

モノナレハ明治二十三年法律第六號第五ノ規定ニ依リ本訴ヲ提起シタルハ相當ナリト云フ
モ本訴ハ要スルニ山林誤認訂正願ノ開届ニ依リ原告ニ引渡サレタル地所以外ノ地所即チ原告
ノ所謂殘地ノ引渡ヲ目的トスルモノニ外ナラサレハ法律第六號第五ノ規定ニ該當セサルモ
ノトス又他ノ法律勅令ニ於テ本訴ノ如キ事件ニ付訴ヲ許シタル規定ナシ故ニ被告ノ妨訴抗
辯ハ其當ヲ得タルモノトス其他尙ホ原告ニ於テ陳辯スル所アルモ裁判ニ必要ナキヲ以テ遂一
其説明ヲ爲サス

○國有林野ノ境界査定ニ付キ通告ヲ受クルモ隣接地所有者ニアラサレハ其査定

ニ對シテ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(國有林野境界査定不服ノ訴 明治三十四

年第九十號
年十月十三日宣告)

〔理由〕原告ハ甲第二號證及ヒ甲第三號證ヲ以テ國有林ト私有林トノ境界ハ明確ナリト云フ
ト雖モ甲第二號證ハ一村全圖ニシテ大體ニ於テハ官民有地ノ區分ヲ推認シ得ラルヘクモ每筆
ノ境界線及番號記載ナキ漠然タルモノナルヲ以テ係争地ノ境界ヲ證明スルニ足ラザルモノト
ス甲第三號證ハ原告提出ノ參考第三號證ニ對照シ地番ノ位置及ヒ形狀著シク相違シ實地恰當
ノモノト認メ難シ又原告ハ參考第二號證ヲ以テ實地ノ形狀ヲ示シ且被告ノ査定ハ何等ノ根據

ナクシテ漫然之ヲ行ヒタルモノナレハ其事實ヲ實地ニ就キ檢證セラレタシト云フモ假令事實
ハ原告主張ノ如キモノトスルモ是等ノ事實ノミヲ以テ原告各自ノ所有地ヲ侵害セラレタリト
認ムルヲ得ス

又原告小野萬喜ハ字和再松木平八十五番ノ山林ハ所有セサルニ被告カ甲第一號證ノ如ク原告
ニ對シ査定ノ通告ヲ爲シタルハ失當ナリト云フモ原告ニ於テ事實該地ヲ所有セサル以上ハ國
有林野法ニ所謂隣接地所有者ニアラサルヲ以テ出訴シ得サルモノトス

○法律上代理人カ訴訟ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺ハ事後ニ之ヲ補正シ得ルモ
ノトス故ニ町村ニ於テ訴訟ヲ提起スルニ方リ豫メ町村會ノ議決ヲ經サルモ後
日其承認ヲ得タル以上ハ該訴訟行爲ヲ無効ナリト云フヲ得ス(境界査定取消ノ
訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十五年第三百六十五號
明治三十六年五月十三日宣告)

〔理由〕按スルニ町村制第六十八條第七ノ規定ニ依レハ外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名
義ヲ以テ其訴訟ヲ爲スコトハ町村長ノ職權ニ屬スレトモ同制第三十三條第十一ニ依レハ町村
ニ係ル訴訟ニ關スル事ハ町村會ノ議決ヲ要スルコト明カナリ故ニ町村ニ於テ訴訟ヲ提起スル
トキハ町村會ノ議決ヲ經サルヘカラス然レトモ法律上代理人カ訴訟ヲ爲スニ必要ナル授權ノ

欠缺ハ民事訴訟法第四十五條ニ依リ事後ニ補正シ得ルモノナルカ故ニ豫メ村會ノ決議ヲ經サルモ事後ニ於テ其承認ヲ得タル以上ハ其訴訟行為ヲ無効ナリト謂フヲ得ス故ニ明治三十五年十二月十四日ヲ以テ提起シ同月三十日ニ至リ村會ノ追認ヲ得タル本件訴訟ハ村長カ原告村ヲ代表シテ有效ニ提起シタルモノト認めサルヘカラス

○官民有地境界調査ニ誤謬アリ再査定ヲ行フヘキ旨ノ通告ヲ不當ナリトシ該處分ノ取消ヲ求ムルコトニ付キ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(官民有地境界査定ニ關スル不當處分取消ノ訴 明治三十六年第九九號 明治三十六年五月十五日裁決)

○官民有地境界査定ニ不服アルモ其處分者ニアラサル農商務大臣ヲ行政訴訟ノ對手ト爲スヲ得ス(官民有地境界査定不當處分取消ノ訴 明治三十六年第二十號 明治三十六年五月十八日宣告)

〔理由〕原告ハ被告ノ査定ニ不服ナリト云フト雖農商務大臣ハ官民有地査定ノ處分者ニアラサルヲ以テ對手人ト爲スヘキモノニアラス又本件ノ舉證中國有林野法第五條ニ所謂通告ヲ受ケタルコトノ見ルヘキモノナク且被告福島大林區署長ヨリ該境界ノ査定ハ未終ノモノナル旨陳述アルニ依レハ原告ハ未タ同法第七條ニ依リ出訴スルコトヲ得ルノ權利ヲ有セサルモノナリ

○大林區署長ノ官民有地境界査定處分ニ對シテハ隣接地所有者ニ非サル者ヨリ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(境界査定處分取消請求ノ訴 明治三十五年第三百八號 明治三十六年十二月九日宣告)

〔理由〕原告ハ本件官民有地境界査定線ノ内部即官有地内ニハ舊來原告ノ所有地ニシテ公簿面ニ脱漏セルモノヲ編入セラレシモノアリテ目下下戻申請中ニ係リ被告モ其事狀ハ認ムル所ナルニ拘ラス之ヲ官有地ト爲シ佐久間直衛外ノ所有地ヲ隣接地トシテ同人等ヲ立會セシメ境界ヲ査定シタルハ其官有地タルコトヲ確定シ原告等現有ノ權利ヲ横奪セントスルモノナレハ該査定處分ヲ取消アリタキ趣ヲ主張スト雖被告カ明治三十五年七月三十一日佐久間直衛外ニ對シ爲シタル官民有地境界ノ査定ハ固ヨリ原告ニ對スルモノニ非サルニ由リ之ヲ以テ原告等主張ノ脱落地有無並ニ所有權ノ有無ヲ左右スヘキモノニ非ス隨テ該處分ニ付原告等ハ國有林野法第七條ニ所謂隣接地ノ所有者トシテ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキ者ニ非サルモノトス

○國有林野ノ隣接地所有者カ未タ境界査定ノ通告ヲ受ケサルトキハ國有林野法第七條ニ依リ出訴スルコトヲ得ス(境界査定處分取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯

明治三十六年第三百四十五號
明治三十八年十一月二十四日宣告)

〔理由〕 國有林野ノ境界査定ハ國有林野法ノ規定ニ依ルヘキモノナリ而シテ其境界査定ヲ終了シタルトキハ同法第五條ノ規定ニ依リ隣接地所有者ニ通告ヲ要スルモノトス然ルニ本件ハ未タ其通告ヲ爲ササルモノナレハ之ヲ終了シタリト謂フヲ得ス從テ原告ハ同法第七條ニ依リ出訴シ得サルモノトス

○ 國有林野ノ境界査定ニ不服アルモ自己ノ所有地ニ付キ査定ノ通告ヲ受ケタル者ニアラサレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(國有林野境界査定取消ノ訴
明治三十七年第二號
明治三十八年十一月二十四日宣告)

〔理由〕 原告高野宮治伊藤長藏カ被告ノ本訴境界査定ヲ不當ナリトスル證據ハ甲第二號證字切圖ニ過キス然ルニ該字切圖ハ官民有地ノ境界ヲ定メタル圖面ニアラサレハ單ニ該字切圖ニ依リ其境界ヲ定メ難キノミナラス原告ハ該字切圖ノ界線カ實地何レノ所ニ該當スルコトヲモ疏明セサルヲ以テ原告ノ主張ヲ是認スルコトヲ得ス原告服部源吉カ自己ノ所有ナル字片起山十番山林九町九反四畝二歩ナリト稱スル場所ニ付テハ被告ハ境界査定ノ通告ヲ爲サス隨テ該場所ヲ國有林境界内ナリト査定シタルモノト認メサルヲ以テ原告服部源吉ハ國有林野法第七條ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス

○ 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルモ隣接地所有者ニ於テ未タ其通告ヲ受ケサルトキハ國有林野法第七條ニ依リ出訴スルヲ得ス(國有原野境界不當査定取消請
求ノ訴 明治四十年第九十一號
明治四十年十月二十五日裁決)

〔理由〕 本訴ノ要旨ハ磐城國石川郡須釜村大字四辻新田字東野國有原野ハ明治十一年山野改正ノ當時ヨリ隣村大森田村大字狸森部落ト爭論ヲ生シ所屬未定地ナリシヲ明治二十年六月十日福島縣知事ノ許可ヲ受ケ漸ク地籍ニ編入シタル土地ニシテ其境界ノ如キモ一視明瞭ナルニ被告ハ明治四十年六月二日不當ニ原告ノ所有地ナル字諏訪平百一番地外敷筆ノ土地ヲ侵害シテ境界ノ査定ヲ爲シタルニ依リ其取消ヲ求ムト云フニ在レトモ本件ハ原告申立ノ如ク未タ國有林野法第五條ノ通告ヲ受ケサルモノナレハ査定處分アリタルモノト認メ難ク從テ同法第七條ニ依テ出訴シ得サルモノトス

○ 出訴期限ヲ經過シタル行政訴訟ハ不適法ナリ(官民地境界査定不服ノ訴 明治三十八年第三百八十二號
十年十一月二十二日宣告)

〔理由〕 原告ハ本件境界査定ハ東京大林區署ニ於テ明治二十八年二月八日附ヲ以テ同年九月二十五日其通告ヲ爲シ同日原告ハ之ヲ受領シタリ然ルニ該査定ハ原告ノ所有地ニ侵入シテ境

界ヲ査定シタルモノナレハ原告ハ之ニ服スル能ハス本訴ヲ提起ス而シテ訴狀中被告ノ表示ヲ誤リタルヲ以テ明治三十八年十二月三日ヲ以テ之ヲ訂正シタリト陳辯シ被告ハ原告ハ農商務大臣ヲ被告トシテ出訴シ明治三十八年十二月三日ニ至リ被告ヲ當被告ニ訂正シタルモノニシテ其訂正ノ日ハ既ニ出訴期限ヲ經過シタルモノナレハ本訴ハ不適法トシテ棄却セラレタシト抗辯セリ按スルニ被告ノ境界査定ニ對シ出訴セントスルトキハ國有林野法第七條ニ依リ其通告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ訴訟ヲ提起セサル可ラス然ルニ本件境界査定ノ通告ヲ受ケタル日ハ明治三十八年九月二十五日ニシテ東京大林區署長ヲ被告トシテ出訴シタルハ原告ノ提出シタル訂正申立書ノ日附即チ明治三十八年十二月三日ナレハ民事訴訟法第六十七條ノ伸長日數ヲ加算スルモ出訴期限ヲ經過シタルモノナレヲ以テ本訴ハ適法ノモノニ非ス

(三) 保安林ニ關スル件

○ 森林法第十八條ノ規定ハ保安林ノ編入解除處分ハ勿論其編入若クハ解除ヲ爲サ、ル處分ニ對シテモ亦行政訴訟ヲ許シタルモノトス(保安林編入ニ關スル不當處分取消ノ訴ニ於ケル中間判決ノ申立 明治三十七年第二百十六號
明治三十八年四月十三日宣告)

〔理由〕 按スルニ森林法第十八條ニ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ行政裁

判所ニ出訴スルコトヲ得トアリテ保安林ノ編入解除處分ニ對スル場合ニ限リタルモノト解スルヲ得サルニ依リ編入若クハ解除セサル處分ニ對シテモ行政訴訟ヲ許シタルモノト謂ハサルヲ得ス而シテ本件保安林ノ編入申請ニ對シ編入セスト處分ヲ爲シタル如キハ該條ニ所謂編入ニ關スル處分中ニ包含スルモノト認ム

(四) 山林下戻ニ關スル件

○ 土地拂下ノ出願ニ關スル縣知事ノ指令ニ對シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(土地拂下出願ノ件不當處分取消ノ訴 明治二十三年第八號
明治二十三年十一月十五日裁決)

〔理由〕 静岡縣伊豆國加茂郡伊豆山村宇野中山耕宅地山林段別ノ内一町五段六畝一步ハ釋秀吉先代以來借用地ナルニ明治九年八月申静岡縣韭山支廳ハ上地ノ處分ヲ爲シタルニ依リ明治十五年二月ニ至リ静岡縣廳ニ其拂下ヲ出願シタル處五段六畝一步ハ聞届ラレ殘部ハ許可セラレサルニ依リ明治二十年九月更ニ其殘部ノ拂下ヲ同縣廳ニ出願シタルモ難聞届旨ノ指令ヲ爲シタルハ明治九年三月二十五日內務省乙第三十八號達ニ違背スルモノナルヲ以テ其指令取消ノ上殘部拂下ヲ訴求スト云フニ在リト雖本件ハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ原告ハ之ヲ訴求スルノ權利ナキモノトス

○明治二十三年法律第六號第五中ニハ土地下渡ニ關スル事件ヲ包含セス(不當處分取消授産地下渡ノ訴 明治二十三年第十六號
明治二十三年十二月十三日裁決)

〔理由〕 千葉縣下總國印旛郡富里村原野ノ内開墾地タル六十一町五段九畝九步ハ原告ニ於テ開發シタルモノナレハ之カ下渡ヲ受クヘキ筈ナルニ千葉縣廳ハ其下渡地ノ査定ヲ誤リ不當ノ處分ヲ爲シタルニ付明治二十三年法律第四十八號第十七條並法律第六號第五ニ依リ其處分ヲ取消シ該地下渡ヲ請求スト云フニ在リト雖法律第六號第五ハ土地官民有區分ノ査定ニ關スル事件トズルニ依リ本件ノ如キ土地ノ下渡處分ニ適用スヘキモノニ非サルヲ以テ原告ハ出訴スルヲ得サルモノトス

○行政處分後既ニ五年ヲ經タルモノニ對スル請願ハ受理セラレサルモノトス(官有地下戻ノ訴 明治二十四年第六號
明治二十四年三月十一日裁決)

○明治二十三年法律第六號前ノ行政處分ニ對スル訴ハ同法實施ノ時ヨリ六十日以内ニ提起セザル可ラス(同上)

〔理由〕 右原告ヨリ被告農商務大臣陸奥宗光ニ對スル官有地下戻ノ件ヲ訴狀ニ就テ審査スルニ原告ニ於テ廣島縣賀茂郡乃美尾村字前平山凡段別七十六町四段步同村字藤コウロ山凡段別

三十二町六段步同村字ハイドコ山凡段別五十三町七段餘步ヲ原告村民有地ニ下戻ノ願ニ對シ被告農商務大臣カ其下戻ヲ拒ムハ不當ナリト云フニ在リト雖明治十三年八月十二日官有地ニ編入ノ處分ヲ受ケ明治二十三年十月十五日ニ至リ該地下戻ノ請願ヲ爲シ同年十二月二十六日ニ於テ其請願ニ對スル指令ヲ受ケタルモノナルモ元來行政處分ノ既ニ五年ヲ經タルモノハ請願ヲ受理セラレサルモノナレハ該請願ハ其效ヲ有セサルモノトス而シテ原告ハ明治二十三年法律第六號ニ據テ本訴ヲ提起セリト謂フモ第六號法律實施以後行政裁判所ヘノ行程日數ヲ除キ六十日間ニ在テ訴訟ノ提起ヲ爲スヘキニ既ニ行政裁判法第二十二條ノ期限ヲ經過スルモノナルヲ以テ行政訴訟ヲ爲スヲ得サルモノトス

○民有地ノ所有ヲ確定スルタメニ爲シタル縣知事ノ處分ニ對スル不服ハ官民有地ノ區分ニ關スルモノニアラサレハ明治二十三年法律第六號ニ依ルハキ訴認ニアラス(土地引上處分取消請求ノ訴 明治二十四年第三十二號
明治二十四年七月九日裁決)

○行政裁判法實施前ニ受ケタル行政處分ニ對スル訴ハ同法第二十二條ニ依リ同法實施ノ日ヨリ六十日以内ニ提起スヘキモノトス(不當査定取消請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治二十五年第二十六號
明治二十五年七月五日宣告)

〔理由〕 本件ハ明治三年中原告カ受ケタル行政處分ノ取消ヲ要求スルモノナルヲ以テ行政裁判法第二十二條ニ依リ同法實施ノ日ヨリ六十日以内ニ出訴ヲ爲サ、ルヲ得ス且原告ハ明治二十四年十二月中被告ニ向テ再願ヲ爲シタルハ權利ノ回復ヲ求ムルニ在ルヲ以テ其指令ヲ受ケタル日ヨリ出訴期限ヲ起算スヘシトイフモ其再願ハ原告甲第六號明治十年九月二十四日附被告ノ指令ニ不服アリテ爲シタルモノニシテ別異ノ申立ヲ爲シタルニアラザレハ權利回復ノ爲メニ處分ヲ求メタリトスルモ右指令ノ日ヨリ起算シ行政訴訟ノ出訴期限ハ既ニ經過シタリモノナレハ原告ハ出訴スルヲ得サルモノトス

〔同一判例〕 不當査定取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治二十五年第二十七號
明治二十五年七月五日宣告

○山林拂下處分ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(村民一同ニ山林拂下ノ訴 明治二十五年 第三百三號
二十五年十月二十二日裁決)

〔理由〕 本訴ノ要旨ハ青森縣陸奥國三戸郡切谷内村大字大久木及高森ノ兩山林ハ元ト村民ノ共有ナルヲ以テ原告ハ明治二十一年中農商務省ニ拂下ヲ請願シタル後其指令ハ青森縣廳ヲ經テ村役場ニ下付セラレタル由ニ付村役場ニ之ヲ請求シタルニ村役場ハ隱祕シテ請求ニ應セス其後再ヒ農商務省ニ請願シ尋テ青森縣廳及郡役所ニ就キ其事實ヲ確カメタルモ村役場ハ尙其

指令書ヲ下付セサルニ依リ審理ノ上速ニ該山林ヲ拂下クヘキ樣裁判ヲ仰クト云フニ在リト雖モ其山林拂下處分ニ關シテハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ之ヲ受理スルノ限リニ在ラス

○同一事件ニ關シ以前ニ行政廳へ出願シタルコトアルモ其出願ヲ改ムル爲メ新ニ證據ヲ添ヘ更ニ願書ヲ差出シタル場合ニ於テハ其願書ニ對スル指令ノ日ヨリ出訴期限ヲ起算スヘキモノトス(高松神社上地山林下戻ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治二十五年第九十四號
明治二十五年十二月二十日宣告)

〔理由〕 被告ニ於テ原告カ本件山林土地處分ニ付行政訴訟ヲ提起シタルモ其處分ニ對シテハ出訴期限ヲ經過シ既ニ其出訴權ヲ放棄シタルモノナレハ答辯ヲ爲スノ責ナシト云フト雖原告カ立證トシテ提出シタル明治二十四年三月二十三日附ノ願書第一項末段ニ是迄提出セザル書類ニシテ今回見當リタル確證ヲ以テ改テ證議ヲ願フトアリ又被告靜岡縣廳カ明治二十五年七月該願書ヲ原告ニ却下シタル趣旨ニ依ルモ甲第四號證村長ノ通知書ニ確證モ無之到底何分ノ證議難相成モノト被認本縣內務部長ヨリ下戻方照會越候趣云々トアルヲ以テ原告カ該處分ニ對シ其以前ニ出願シタルコトアルモ後ノ出願ヲ以テ前出願ヲ改メタルモノニシテ縣廳モ亦原

告カ後出願ニ對シ更ニ其確證ノ有無ヲ取調ヘタル上之ヲ却下シタルモノト認メサルヲ得ス即チ原告ハ其却下ノ通知ヲ得タル日ヨリ起算シ六十日以内ニ本訴ヲ提起シタルモノナレハ行政裁判法第二十二條ノ出訴期限ヲ經過シタルモノト謂フヲ得ス

○係争地ニ對シ所有權ヲ主張セス單ニ收益權及入會權ヲ主張スル訴ハ明治二十三年法律第六號第五ニ包含セス(官山民有地引直方違法處分取消ノ訴 明治二十五年第五十三號 十五年十二月二十八日宣告)

〔理由〕 原告ニ於テ本訴ノ係争山ハ原告村方ノ持山トシテ進退シタリ又ハ公租ヲ負擔シタリト云ヒ或ハ收益入會ノ兩權利アリ依テ明治二十三年法律第六號ニ依リ之レカ救正ヲ求メ得ヘキモノナリト言フト雖同法律第五ハ土地ノ官有タリ民有タル區分ノ査定ニ關シ我所有ノ權利ヲ毀損セラレタリトスルモノカ行政訴訟ヲ爲シ得ルノ規定ナリ而シテ原告ノ持山又ハ公租負擔等所有權ニ關スル事實ニ就キテハ被告抗辯スル所アルモ之レニ對スル反駁ナキニ因レハ該地ノ所有權ヲ維持スルモノト見認メ難ク其主張スル收益入會ノ兩權利ニ關スルモノ、如キハ同法ニ包含セサルモノナレハ之ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルハ其當ヲ得サルモノトス

○出訴期限ヲ經過シタル後ニ提起シタル行政訴訟ハ之ヲ受理セス(民有山林違法

處分取消請求ノ訴 明治二十七年第一號 明治二十七年四月二十八日宣告)

〔理由〕 原告ハ本件論地査定處分ニ付テハ明治二十六年十月五日ニ至リ始メテ甲第四號證ノ通告ヲ受ケタルモノナレハ出訴期限ヲ經過シタルモノニ非スト云フト雖本訴訟争地ノ査定ハ乙第一號證箱崎小林區署長梅津盛太郎ヨリ福岡大林區署長丸尾漸へ差出シタル上申書ニ依リ明治二十六年九月二十九日ヲ以テ其處分アリタルコトヲ認メ得ヘキノミナラス當裁判所ノ照會ニ對シテ差出シタル右梅津盛太郎ノ回答書ニ依レハ乙第一號證中倉重久太外一名實地立會ノ上云々トアリテ其外一名ト記載シアルハ論地ノ前所有者ナル上田佐吉ヲ指稱シタルコト亦明白ナレハ論地ノ買受人タル原告ニ於テ甲第四號證ノ通告ヲ以テ始メテ査定處分ヲ受ケタルモノト云フヲ得ス故ニ本件出訴期限ニ關シテハ明治二十六年九月二十九日ヲ以テ其起算點ト爲スヘキハ當然ナリ然ルニ右九月二十九日ヨリ行政裁判法規定ノ六十日ノ期間ヲ計算シ更ニ民事訴訟法第六十七條ノ規定ヲ適用シ原告ノ住居地ト裁判所所在地トノ距離三百十五里ヲ計算シテ八里毎ニ一日ヲ伸長スルモ明治二十六年九月二十九日ヨリ訴狀到達ノ日即チ本年一月八日迄ノ日數ニ尙ホ一日ノ不足ヲ生スルモノナレハ本訴ハ既ニ出訴期限ヲ經過シタルモノト言ハサルヲ得ス

(同一判例) 國有林野下戻請求ノ訴 明治三十四年第四百十八號 國有林下戻請求ノ訴

明治三十五年第五百三十二號 官有地下戻申請ニ對シ不許可處分取消ノ訴 明治三十五年第五百八

十七號 山林下戻請求ノ訴 明治三十五年第五百二十一號 立木下戻申請不許可處分取消

請求ノ訴 明治三十七年第七百九十號 國有林地木下戻請求ノ訴 明治三十八年第四十

七號 國有林下戻不當處分取消請求ノ訴 明治三十七年第九百四十九號

○行政裁判所ニ於テハ再審ノ訴ヲ受理セス(官有地民有引直請求ノ訴 明治二十八年五月十五日裁決)

〔理由〕原告請求ノ要旨ハ本訴係爭地陸中國紫波郡志和村大字土館第七地割百九十番地ノ内
字備後決松根決三等官林(松梅澤根堀長根)柴山反別四十五町八反步同村大字同第八地割(一
番二番)字馬ノ子上平等官林小字(内間ノ子金山澤間ノ子平外間ノ子廣柴畑後上平等)草山段
別三百七十五町步ハ元來官有地ナリシヲ原告家ノ先代故勘右衛門ニ於テ柴波郡志和北片寄村
名主勤務中文久三年四月十三日當時重大ノ職權ヲ行ヒ土地與奪ノ權ヲ有シタル代官攝待理兵
衛ヨリ其勤功ヲ賞與シ甲第一號證ヲ以テ之ヲ下賜セラレ爾來勘右衛門ト之ヲ管理進退シ甲第
二號證ノ如ク山役前即チ山林ニ對スル當時ノ租稅ヲ納付シ來リタリ然ルニ同人ハ此下賜ヲ受

ケタルヨリ數年ナラスシテ中風症ニ罹リ身體精神共ニ昔時ノ如クナラス且ツ該證ハ大切ニ秘
藏セシ爲メ其藏所ヲ失念シ地券發行以來其所有權ヲ明確ニスヘキ筈ナリシモ其儘遷延シ居ル
折柄明治二十二年十二月不圖該證ヲ見出スヲ得タリ是ニ於テ二十三年五月該證列記ノ地所ヲ
私有地ニ引直ノ出願ヲ爲シタルニ被告ハ之ヲ排斥シタルヲ以テ當裁判所ニ對シテ之カ處分ノ
取消ヲ出訴シタルニ當裁判所ハ二十五年五月十六日此地所ニ對シ所有者タル權利義務ヲ實行
シタルノ證據ナキヲ以テ原告ノ請求相立タスト裁判セラレタルニ依リ原告ハ尙搜索ノ上甲第
二號證ヲ發見シ原告家カ本訴ノ地所ニ對シ權利義務ヲ實行シタルノ證據分明トナリタルカ故
ニ更ニ被告ニ向テ其處分換ヲ請求シタルニ被告ハ地所民有下戻再願ノ趣聞屈難シト指令セラ
レタルハ不當ナリ原告ハ本訴ノ地所ヲ下付セラレタル明確ノ證據アリ而シテ爾來之ニ對スル
公ノ責任ヲ盡シ之ヲ管理進退シ即チ所有者タル實ヲ行ヒ居リタル事實アル以上ハ原告ノ請求
ハ不當ニ非スト思量スルニ付被告ノ處分ヲ取消シ原告ノ請求ニ應スヘキノ裁判アランコトヲ
求ムト云フニ在レトモ本訴ノ目的物及當事者ハ明治二十五年五月十六日當裁判所ノ判決シタ
ル訴訟ト同一ニシテ該判決ニ對シ再審ヲ求ムルモノナルニヨリ行政裁判法第十九條ニ違背ス
ルヲ以テ受理スルノ限ニ在ラス

(同一判例) 國有林地木下戻請求ノ訴ニ於ケル上申 明治三十八年第四十七號
明治三十八年三月十八日決定

○同一ノ事件ニ關シ一旦行政廳ノ處分ヲ受ケタル後ニ至リ新ナル證據ヲ添ヘテ出願シ更ニ指令ヲ得タルトキハ該指令ノ時ヨリ出訴期限ヲ起算スヘキモノトス(民地引戻請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治二十九年第三十七號
明治三十年六月十一日宣告)

(理由) 被告ハ本件土地處分ニ付明治二十五年六月中差出シタル原告ノ再願ハ同年三月七日ノ指令ニ對シ初願ノ趣旨ヲ主張シ再調ヲ願フニ外ナラスシテ別異ノ事由ナキハ前後ノ願書ヲ對照セハ明カナリ且證據書類モ初願ニ提出シタルモノト同一事項ノモノ又ハ同性質ノモノニシテ之レヲ以テ新證據ナリト言フヲ得スト云フト雖原告辯明書中ニ列記シタル證據中第一乃至第九第十一乃至第十四及第十六ノ諸證ハ被告ニ於テ認ムル如ク等シク皆前願ニ提出セザリシ書類ニシテ原告ニ於テハ之ヲ以テ再願ノ證據ト爲シタルモノナレハ其書類ノ記載事項ノ同一又ハ其性質ノ同一ナリトノ故ヲ以テ新證據ニ非スト云フヲ得ス而シテ被告ハ其職務上前記ノ各證ヲ調査シ其結果尙前指令ヲ取消スヘキ理由ナキモノト認メ原告參考證第二號ノ如キ指令ヲ與ヘタルモノナレハ該指令ハ則本件土地ニ關スル行政上ノ一處分ナリト言ハサルヲ得ス果シテ然ラハ原告ニ於テ該處分ヲ不當ナリトシ出訴スル場合ハ其處分ノ日ヨリ出訴期限ヲ起

算スヘキハ當然ナリ故ニ本訴ハ行政裁判法第二十二條ノ期限ヲ經過シタルモノト言フヲ得ス

○官有地ヲ一個人ニ拂下ケタル處分ヲ取消サンコトヲ請求スル事件ニ關シ行政

訴訟ヲ許スノ法令ナシ(水源官有沼拂下取消請求ノ訴 明治三十年第五十六號
明治三十年十月十五日裁決)

○民有ノ山林ニ生立セル立木ノ下戻ヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法

令ナシ(立木引戻請求ノ訴 明治三十一年第一百十二號
明治三十二年十一月二日裁決)

○人民總代ヲ以テ爲シタル出願ニ對シテ縣知事ノ與ヘタル處分ヲ不當トシ村民各自ヨリ訴訟ヲ提起シタル事件ニ於テ知事ハ村民各自ニ訴權ナシトノ理由ヲ以テ答辯ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス(民有地引戻ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十年第五十七號
三十二年四月六日宣告)

(理由) 被告ニ於テ本件ハ村長ヨリ出願スヘキハ當然ナルニ高岡村人民總代ヨリ出願セシニ依リ聞届難キ旨ノ指令ヲ爲シタルモノナレハ原告ハ訴權ナシ是レ甲第三號證ニ依リ明ナリト云フト雖モ本件ハ原告等カ當初高岡村人民總代ニ依リ爲シタル出願ニ對シ被告ノ與ヘタル處分ヲ不當トシ出訴シタルモノナレハ被告ハ單ニ訴權ナシトノ理由ヲ以テ其處分ニ對スル答辯ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

○御料地ノ拂下ヲ求ムル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(御料地拂下ノ訴
明治三十四年第十四號)
明治三十四年五月八日裁決)

○御料林ノ下付出願ヲ許可セサル宮内大臣ノ處分ニ對シ行政訴訟ヲ許スノ法令
ナシ(御料林下付請求ノ訴 明治三十四年第三百三十七號)
明治三十四年六月二十九日裁決)

○全國小學校ニ於テ永世授業料ヲ徵セスシテ教育ヲ行フノ資ニ充テシカ爲メ國
有土地森林ヲ緣故アル者其他有益ノ事業ヲ爲ス者ニ拂下ヲ請求スルコトニ關
シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(國有土地森林拂下ノ訴 明治三十六年第三十八號)
明治三十六年三月九日裁決)

○村長ヲシテ民有地下戻申請ノ理由ヲ補充セシムルコトニ關シ行政訴訟ヲ許ス
ノ法令ナシ(不當裁決取消ノ訴 明治三十六年第五十六號)
明治三十六年三月十三日裁決)

○御料地ノ下戻ヲ請求スル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナ
シ(御料地及立木下戻請求ノ訴 明治三十六年第三百四十三號)
明治三十六年十月九日裁決)

○明治三十二年法律第九十九號ハ國有土地森林原野ノ下戻ニ關スルモノニシテ
御料地ニ適用スヘキモノニアラス(御料地原野下戻請求ノ訴 明治三十六年第四百十號)
明治三十六年十月九日裁決)
(同一判例 御料地下戻不當處分取消ノ訴 明治三十六年第五百五十四號)
明治三十七年一月二十九日裁決)

○部分林契約解除ノ取消ヲ求ムル事件ニ付テハ國有林野法其他ノ法令中行政訴
訟ヲ許シタル規定ナシ(部分林契約解除處分取消ノ訴 明治三十六年第四百三十四號)
明治三十六年十月九日裁決)

○府縣ノ山林特別處分例ニ依リ府縣知事ニ對シ國有林下渡ノ申請ヲ爲シタルニ
其下渡ノ豫告ナキコトヲ不當トスル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シ
タル規定ナシ(國有林下戻ノ訴 明治三十六年第五百六十二號)
明治三十七年三月三十日裁決)

〔理由〕 本訴ハ原告カ宮崎縣告示山林特別處分例ニ依リ宮崎縣知事ニ對シ本訴請求山林下渡
ノ申立ヲ爲シタルニ同縣告示第二百三十一號ニ依リ下渡ノ豫告ヲ爲サ、リシハ不當ナリトテ
提起シタルモノニシテ國有土地森林原野下戻法第一條ニ依リ農商務大臣ヘ下戻申請ヲ爲シ不
許可ノ處分ヲ受ケタルモノニアラサレハ同法第六條ニ該當セス其他ノ法令中行政訴訟ヲ許シ
タル規定ナキヲ以テ本訴ハ當裁判所ニ於テ受理スヘキ限ニ在ラス

○主務大臣カ村長ニ對シテ其村所在ノ山林若干歩ヲ民有ニ編入スヘシトノ指令
ヲ爲シタル場合ニ私人ヨリ其取消ヲ請求スル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴
訟ヲ許シタル規定ナシ(違法處分取消ノ訴 明治三十八年第二百二十七號)
明治三十八年四月五日裁決)

〔理由〕 本訴ハ被告カ明治三十七年十月十四日附ヲ以テ京都府山城國相樂郡河大原村長、同

郡笠置村長、同郡湯船村長ニ對シ爲シタル京都府山城國相樂郡大河原村大字童仙房字北牛場山林三十五町九畝二十三歩同所字手洗山林反別九十二町五反三畝二十七歩ヲ民有ニ編入スヘシトノ指令ヲ取消サンコトヲ請求スルモノナリ然ルニ本件ノ如キハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ受理スヘキ限ニ在ラス

○行政裁判法第四十條ハ審問手續ニ付テノミ故障ノ申立ヲ許シタルモノニシテ審問手續ニ關係ナキ訴訟却下ノ裁決ニ對シ故障ノ申立ヲ許シタルモノニアラス(國有林地木下戻ノ訴ニ於ケル故障申立 明治三十八年第四十七號 明治三十八年四月十一日決定)

〔理由〕原告ハ明治三十八年二月二十三日ヲ以テ當裁判所ノ與ヘタル訴狀却下ノ裁決ニ對シ行政裁判法第四十條ニ依リ故障ノ申立ヲ爲スモ同條ニハ審問手續ニ關スル故障ノ申立云々トアリテ本件ノ如キ審問手續ニ關係ナキ訴訟却下ノ裁決ニ對シ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ許シタルモノニ非サルヲ以テ之ヲ受理スルヲ得サルモノトス

○原告ノ主タル請求ニ對シテ裁判ヲ與ヘタル後追加裁判ノ申立アルモ單ニ判決理由ノ補充ヲ求ムルニ過キサルトキハ之ヲ受理スヘキ限ニ在ラス(國有山林下戻請求ノ訴ニ於ケル追加裁判ノ申立 明治三十六年第六十五號 明治三十八年五月二日決定)

〔理由〕右原告鈴木嘉市郎ヨリ被告農商務大臣男爵清浦奎吾ニ對スル國有林下戻請求ノ訴訟ニ付明治三十八年三月十八日當裁判所ノ與ヘタル判決ニ對シ原告ハ追加裁判ノ申立ト題スル書面ヲ提出シタリ其要旨ハ上荒井村カ謝罪ノ爲メ植付ヲ爲シタルコトハ被告ノ争ハサル所ナルニ拘ハラス尙ホ植立ヲ爲シタルヲ證スルニ足ラストセハ必ス其理由ニ付判決アルヘキ筈ナルニ何等ノ説明ナキハ判決ノ脱漏ナリ又甲第四號證ノ一、二ヲ以テ札山トシテ樹木ヲ植立タルハ民有ナリトノ證據ト爲シタルニ之ニ對シ説明ヲ與ヘサリシハ是亦裁判ノ脱漏ナリ依テ是等ノ點ニ付キ追加ノ判決ヲ求ムト云フニ在レトモ當裁判所ノ判決ハ原告ノ主タル請求ヲ網羅シタルモノニシテ原告ノ申立ハ要スルニ判決理由ノ補充ヲ求ムルニ過キサレハ受理スヘキ限リ在ニラス

○境界踏査ニ依リ官有地ニ編入セラレタル土地ト雖モ其處分タル先ニ地租改正ノ爲メ民有地ニ編入セル處分ヲ取消シタルモノニシテ地租改正處分ノ範圍内ニ屬スルトキハ國有土地森林原野下戻法第一條ニ依リ行政訴訟ヲ提起シ得ルモノトス(國有地所及立木下戻事件不當處分取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十六年第三百三十八號 十八年五月二日宣告)

〔理由〕 按スルニ係争地ハ明治十一年境界踏査ニ依リ官有地ニ編入セラレタルモノナルモ此處分タル畢竟先ニ地租改正ニ依リ民有地ニ編入シタル處分ヲ取消シタルモノニ外ナラスシテ即地租改正處分ノ範圍内ニ屬スルモノト認ムレハ本件ハ國有土地森林原野下戻法第一條ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ルモノトス

○明治二十三年法律第六號ニ所謂行政廳トハ國又ハ地方公共團體ノ行政機關ヲ指稱セルモノトス從テ帝室ノ機關タル宮内大臣ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(不當處分取消官有地ヲ民有地ニ引直ノ訴 明治三十八年第三百十五號 明治三十八年十月三日裁決)

〔理由〕 原告ハ本件地所ノ下戻ヲ被告ニ對シ申請シタルニ不當ニモ却下ノ處分ヲ爲シタルヲ以テ明治二十三年法律第六號第五ニ依リ出訴スト謂フモ該法律ニ所謂行政廳トハ國又ハ地方公共團體ノ行政機關ヲ謂フモノナレハ帝室ノ機關タル宮内大臣ニ對シ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス隨テ本訴ハ受理スヘキ限リニ在ラス

○國有土地森林原野下戻法第一條ニ依リ地租改正ノ爲メ官有ニ編入セラレタル森林ノ下戻ヲ申請スルニハ其處分ノ當時所有又ハ分收ノ事實アリタルコトヲ要ス從テ其處分終了後下戻申請ノ權利ヲ讓受ケタル者ハ同法ニ依リ行政訴訟

ヲ提起スルコトヲ得ス(國有森林下戻ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十六年第五百九十九號 明治三十八年十一月十四日 宣告)

〔理由〕 國有土地森林原野下戻法第一條ニ依レハ地租改正又ハ社寺土地處分ニ依リ官有ニ編入セラレ現ニ國有ニ屬スル土地森林原野若クハ立木竹ハ其處分ノ當時之ニ付キ所有又ハ分收ノ事實アリタル者ハ此ノ法律ニ依リ云々主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得トアリテ之ヲ申請スルハ當時其事實ヲ有シタルモノナラサル可ラス然ルニ原告ハ明治二十九年ニ於テ係争地ニ關スル證文ノ權利ヲ讓受ケタル者ニシテ地租改正ノ當時所有又ハ分收ノ事實ヲ有シタル者ニアラサレハ下戻申請ノ權利ナク從テ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス

○部分林ノ處分ニ關シ不服ヲ訴フル事件ニ付テハ國有林野法其他ノ法令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(部分林分收權名義並分收部落訂正願却下處分ニ關スル訴 明治三十八年第三百三十號 明治三十八年十一月二十四日裁決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ明治三十八年五月九日原告カ提出セル官有山林部分訂正再願ニ對シ被告カ同年六月九日附雜第三二一號處分ヲ取消及熊本縣阿蘇郡山田村大字山田字今古閑千百十七番千百十八番國有林野分收林反別十五町步ニ於ケル收益分收合ヲ國ノ分收部合ニ對

スル民收部合七ノ割合トナシ且ツ其造林者名義ヲ原告ノ名前ニ訂正スヘシトノ判決ヲ乞フニ在レトモ本件ノ如キ部分林ノ處分ニ關シ不服ヲ訴フル事件ハ國有林野法其他ノ法令ニ於テ行政訴訟ヲ許セル規定ナキヲ以テ本訴ハ受理スル限ニ在ラス

○國有立木下戻ノ申請ニ對シ不許可ノ處分ヲ受クルモ法定ノ出訴期間ヲ經過スルニ於テハ出訴權ヲ失フモノトス(國有林立木下戻ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十五年第四百四十八號 三十九年二月十六日宣告)

〔理由〕 按スルニ本件處分書ハ高知大林區署ヨリ明治三十四年九月四日ニ書留郵便ヲ以テ原告ニ對シ發送シタルコトハ乙第一號證ノ二ニ依リ明瞭ナリ而シテ原告ハ高知市ニ居住スルモノナレハ別ニ反證ナキ限リハ遅クモ其翌日即チ明治三十四年九月五日ニ於テ接受シタルモノト認ムルヲ相當トス然レハ原告カ本件訴訟ヲ提起シタルハ明治三十五年三月二十二日ナルヲ以テ其間日數百九十八日ニシテ民事訴訟法第六十七條ノ伸長日數ヲ控除スルモ法定ノ出訴期間ヲ經過シタルヲ以テ原告ハ出訴權ヲ失ヒタルモノトス

○甲者カ乙者ヨリ山林ヲ買得シ賣買ノ登記ヲ受ケタル後小林區署長ノ爲メニ其ノ一部ヲ國有ニ編入セラレタルヲ不當トシ之カ回復ヲ要求スルハ國有土地森林

原野下戻法ニ所謂脫落地ニ關スル請求ニアラス從テ甲者ハ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノトス(國有土地下戻請求ノ訴 明治三十七年第四百四十五號 明治三十九年五月十一日宣告)

〔理由〕 原告ハ本訴ハ國有脫落地ニ付テノ請求ナルカ故ニ明治三十二年法律第九十九號第一條第三項ニ依リ適法ナリト主張スルモ本訴ノ山林タルヤ甲第一號證ニ依レハ原告カ訴外人某ヨリ之ヲ買受ケタル當時登記簿ニ賣買ノ登記ヲ受ケタルモノニシテ原告ハ其ノ一部ヲ棚倉小林區署長心得某ノ爲メニ侵害セラレ國有ニ編入セラレタリトシテ之カ回復ヲ求メントスルニ外ナラサルヲ以テ法律ニ所謂脫落地ニ付テノ請求トハ認ムルヲ得ス故ニ原告ハ法律第九十九號第一條第三項ニ依リ本訴ヲ提起スルヲ得サルモノトス

○神社ノ訴訟ハ氏子總代三名以上ノ連署ヲ要ス(國有林下戻請求ノ訴 明治三十七年第五百七十號 月十九日判決)

○神社ノ訴訟ニシテ氏子總代ノ連署ヲ缺ク場合ニ裁判所カ期間ヲ指定シ其手續ヲ爲スヘキ旨ヲ命シタルモ當事者ニ於テ該期間内ニ之ヲ行ハサルトキハ其訴訟ヲ却下スヘキモノトス(同上)

〔理由〕 本訴ハ神社ノ訴訟ニシテ氏子總代三名以上ノ連署ヲ要スルモノナルニ依リ明治三十

九年四月十八日三週間内ニ其手續ヲ爲スヘキ旨ヲ達シタルニ原告ハ右期間内ニ之ヲ爲サ、ルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却下スヘキモノトス

○大字代表者ノ訴訟ハ起訴ニ關スル村會ノ決議ヲ要スルモノトス(國有林下戻處分取消請求ノ訴 明治三十七年第九十五號
明治三十九年五月二十二日裁決)

○大字代表者ノ訴訟ニシテ起訴ニ關スル村會ノ決議ヲ缺ク場合ニ裁判所カ期間ヲ指定シ村會決議書ヲ提出スヘキ旨ヲ命シタルモ當事者ニ於テ該期間内ニ之ヲ提出セザルトキハ其訴訟ヲ却下スヘキモノトス(同上)

〔理由〕 本訴ハ大字代表者ノ訴訟ニシテ訴訟提起ニ關スル村會ノ決議ヲ要スルモノナルニ依リ明治三十九年四月二十三日三週間内ニ村會決議書ヲ提出スヘキ旨ヲ達シタルニ原告ハ右期間内ニ提出セザルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス

(同一判例 國有林下戻不當處分取消ノ訴 明治三十七年第四百十九號
明治三十九年九月二十七日裁決)

○國有土地森林原野下戻法第七條ニ依ル行政訴訟ハ行政官應カ下戻ノ申請ヲ却下シタル處分ニ對シテ之ヲ提起スルモノナレハ訴訟前テ先ツ行政處分アルコトヲ必要トス(官地民有ニ引直ノ訴 明治三十六年第六百十五號
明治三十九年七月五日宣告)

〔理由〕 按スルニ國有土地森林原野下戻法第七條ニ於ケル行政訴訟ハ行政官應カ下戻申請ニ關シ與ヘタル不許可ノ處分ニ對シテ提起スルモノナレハ訴訟前行政處分アルコトヲ要スルヤ勿論ナリ而シテ乙第一號證ニ依レハ原告カ被告ニ戻下ヲ申請シタル地所ハ羽後國北秋田郡長木村大字芦田字大茂内澤一番ノ内原野三町五反五畝七步同國同郡同村同大字同字二番ノ内原野三町八反三畝四步ノ二筆ナルコト明カニシテ本件訴狀ニ記載セル同字四番乃至二十一番ノ十八筆ニ付テハ行政處分ノアリタルコトヲ認ム可キ證據無シ然ラハ本件ハ前記下戻法ニ依リ出訴スルコトヲ得サルモノニシテ他ノ法律勅令ニ於テモ本件ノ如キモノニ出訴ヲ許シタル規定無キヲ以テ本件ハ受理ス可キ限ニ在ラス

○原告ノ訴訟代理人カ代理委任狀ヲ提出セザル場合ニ裁判所ニ於テ期間ヲ指定シ之ヲ提出スヘキ旨ヲ命シタルモ代理人カ該期間ヲ徒過シタルトキハ其提起セル訴訟ハ之ヲ却下スヘキモノトス(上地官林及立木下戻申請ニ係ル不當處分取消下戻ノ訴 明治三十七年第四百三號
明治三十九年七月十日裁決)

〔理由〕 本件ニ付テハ原告ノ代理委任狀ヲ提出セザルニ依リ明治三十九年四月十八日三週間内ニ之ヲ提出スヘキ旨ヲ達シタルニ右期間内ニ提出セザルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依

リ本訴ハ之ヲ却下ス

○國有林下戻訴訟ノ原被兩造ニ對シ主參加ノ訴ヲ提起セントスル者ハ國有土地森林原野下戻法第一條及ヒ第六條ニ依リ先ツ農商務大臣ニ下戻ヲ申請シ其處分ヲ受ケタルコトヲ必要トス國有林下戻不當處分取消請求事件參加ノ訴明治三十七年第六百八十二號
三十九年十二月八日決定

〔理由〕 參加人供述ノ要旨ハ原被告間ニ權利拘束トナレル訴訟ノ目的物タル新潟縣南魚沼郡土樽村字與添地六千九百九十四番國有林ハ往古ヨリ參加村ニ於テ原告村ト共有シテ自由ニ處分收益シ來リタル事實ニシテ明治三十六年九月二十日附ヲ以テ農商務大臣ニ提出シタル追申書理由ノ通り原告土樽村一個村ニ於テ下戻ヲ受クヘキモノニアラス參加村ト共有ニ下戻ヲ受クヘキ性質ノモノニ屬ス依テ參加人ハ本訴ノ目的物ニ付其一部即チ共有ノ事實アリシコトヲ主張シ共有トシテ下戻ヲ受クヘキ爲主參加訴訟ヲ提起スト云フニ在レトモ主參加ノ訴ハ一箇獨立ノ訴ナレハ國有土地森林原野下戻法第一條及第六條ニ依リ農商務大臣ニ下戻ヲ申請シ其處分ヲ受ケタル後ニアラサレハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得サルモノナルニ本件ハ法定期間經過後農商務大臣ニ追加申請ヲ爲シタルニ止マリ適法ハ申請ヲ爲サス從テ農商務大臣ノ處分

無カリシモノナレハ受理スヘキ限リニ在ラス

○部分林仕付權ヲ有スル數人カ民事ノ確定判決ニ基キ各自ノ仕付權ヲ確定シ之ヲ部分林臺帳ニ登錄セシムル爲メ大林區署長ニ對シテ其査定ヲ求メタルモ不許可處分ヲ受ケタルヲ不當ト爲ス事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(國有林野部分林仕付權査定處分不服ノ訴 明治四十年第五十九號
明治四十年五月二十日判決)

〔理由〕 本訴ノ要旨ハ熊本縣菊池郡旭野村大字辨利字中小川千九百九十五番一等官林舊反別一町六反歩外五筆ノ國有林野ニ對シ原告等ハ各部分林仕付權ヲ有シ祖先以來公簿ニ之カ名受ヲ爲シ來リタル事實ニシテ原告ノ内原口幹吾ノ仕付權ニ關シテハ明治三十六年中訴外人永田重次外數名トノ間ニ民事訴訟起リ爭訟ノ結果原告原口幹吾ニ仕付權アルコトヲ確定セラレ右永田重次等ニ對シ民收權全部ノ造林者トシテ原口幹吾ヲ部分林臺帳ニ登錄スヘキ手續ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ受ケ其判決確定シタリ依之原告等ハ各自ノ部分仕付權ヲ確定シ之ヲ部分林臺帳ニ登錄セシムル爲メ被告熊本大林區署長ニ對シ之カ査定ヲ求メタルニ被告ハ明治四十年一月三十一日附ヲ以テ不許可ノ處分ヲ與ヘタリ依テ明治二十三年法律第六號第五並ニ明治三十二年法律第八十五號國有林野法第七條ノ規定ニ基キ本訴ヲ提起シタリト云フニ在レトモ明

治二十三年法律第六號第五並ニ國有林野法第七條ノ規定ハ何レモ本訴請求ノ如キ場合ニ適用スヘキモノニアラサルノミナラス他ニ斯ノ如キ場合ニ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナキヲ以テ本訴ハ受理スヘキ限リニ在ラス

○國有林下戻ノ申請ニ對シ不許可ノ處分アリタル場合ト雖モ其申請ヲ爲シタル者ニアラサレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(土地國有林下戻請求ノ訴 明治三十七年第二百七十四號 四十年六月三日宣告)

〔理由〕 本件請求ノ目的ニ付被告ニ下戻ノ請求ヲ爲シ不許可ノ處分ヲ受ケタルハ福島縣西白河郡矢吹村大字大和久代表者矢吹村長ニシテ原告ハ曾テ下戻ノ申請ヲ爲シタルコトナキハ原告ノ提出セル訴狀及口頭審問ニ於ケル原告ノ陳述ニ依リテ明ナリ從テ原告ハ國有土地森林原野下戻法第六條ニ所謂「下戻申請ニ對シ不許可ノ處分ヲ受ケタル者」ニ非サレハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス

(五) 土地收用ニ關スル件

○鐵道線路ニ當ル土地ニ對シ土地收用法ヲ適用シタルヲ違法ナリト主張スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(違法行政處分取消請求ノ訴 明治三十年第十二號 明治三十年三月六日裁決)

○土地收用ニ關スル審査委員會ノ裁決ヲ取消サンコトヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(違法行政處分取消請求ノ訴 明治三十二年第四十三號 明治三十二年四月二十六日宣告)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ被告ハ長崎縣縣道改修工事ニ係ル土地收用ノ爲メ審査委員會ヲ開キ工事仕樣並補償金額ヲ裁決セリ然ルニ該裁決ハ起業者ト委員會トヲ混同シ違法ノ手續ニ依リ爲シタル不當ノ處分ナルヲ以テ之ヲ取消サレンコトヲ請フト云フニ在レトモ本件ノ如キハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ之ヲ受理スルノ限リニ在ラス

○共有者ノ一人カ内務大臣ニ訴願ヲ爲シ共有地ニ對スル收用審査會裁決ノ取消ヲ求メタル場合ト雖モ其訴願ニシテ訴願人ノ持分ニ對スルモノナルトキハ他ノ共有者ヨリ該裁決取消ノ行政訴訟ヲ提起スル妨ト爲ラス(土地收用審査會裁決取消ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十九年第四十八號 明治四十年七月二日宣告)

〔理由〕 被告ハ本件ノ係争地ハ原告並川島康三郎外一名ノ共有地ナルヲ以テ共有者ノ所有權ハ其共有物件全體ニ對シ各相共通シ不可分のモノナレハ各自此共有物件ニ對スル權利者ニシテ恰モ一己人ノ所有物件ト敢テ異ルコトナキモノナリ然ルニ一方ニハ川島康三郎ノ名義ヲ以テ收用審査會ノ裁決不服ノ訴願ヲ内務大臣ニ提起シ其取消ヲ求メ一方ニハ原告ノ名義ニテ

該裁決ノ爲メニ權利ヲ侵害セラレタルモノトシテ本訴訟ヲ提起シ該裁決ノ取消ヲ求ムト雖モ此事件ニ付キ訴訟訴訟ノ二途ニ出ツルコトヲ得サルハ行政裁判法第十七條第三項ニ依リ明カナルヲ以テ本件ハ全然訴權ナキモノナリト主張シ原告ハ元來共有權ハ偶一箇ノ所有權カ數人ニ歸屬スル状態ヲ指稱スルニ過キスシテ共同シク所有權ノ主體ナルヲ以テ從テ其權利ノ防護伸張ニ付キ一人ノ或行爲カ他ノ共有者ノ訴權ノ廢滅ヲ惹起スヘキ別段ノ規定ナキ限り本件係爭地共有者ノ一人タル川島康三郎ノ訴願カ本訴訟ニ毫末ノ支障ナキハ殆ト云フヲ竣クサルヘク行政裁判法第十七條第三項ノ規定ニ至リテハ如此共有ノ關係ヨリ其行爲ノ當事者ヲ異ニスル場合ヲ包含スルモノニアラサルナリ況ンヤ訴願ハ既ニ終末ヲ告ケタルヲ以テ此點ヨリモ被告ノ主張ハ理由ナキモノナリト主張セリ

按スルニ本件ニアリテハ原告並ニ訴願人カ各自係爭地タル共有物件ニ對スル權利者タルコト勿論ナリト雖モ共有者ノ共有物ニ對スル所有權ハ被告主張ノ如ク不可分ノモノニアラス而シテ本件係爭地共有者ノ一人ナル川島康三郎カ係爭地ニ對スル土地收用審査會ノ裁決ノ取消ヲ求ムル訴願ニアリテハ訴願人ト他ノ共有權者トノ間ニ何等代理關係ノ存在ヲ認ムヘキモノナキヲ以テ該訴願ハ訴願人ノ持分ニ對スルモノト認メ得ヘキノミナラス訴願人ト本訴訟ノ原告

トハ別人ナルヲ以テ行政裁判法十七條三項ニ依リ本件原告ニ訴權ナシトノ被告ノ主張ハ理由ナキモノトス

(六) 北海道未開地處分ニ關スル件

○未開ノ土地ヲ無償ニテ貸付セラレタシト請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許ス
ノ法令ナシ(土地無償貸付ノ訴 明治三十一年第二十四號
明治三十一年三月五日裁決)

(理由) 本訴ノ要旨ハ原告ニ於テ北海道石狩國空知郡奈江村字奈井江ノ未開地一萬二千坪無償貸付ノ儀ヲ北海道廳長官ニ請願セシニ詮議ノ限ニアラストシテ却下セラレタルニ由リ之ヲ許可スル樣裁判アランコトヲ乞フト云フニ在レトモ本件ハ法律勅令ニ於テ行政訴訟ヲ許サレタルモノニアラサレハ當裁判所ニ於テ受理スヘキ限ニ在ラス

○國有未開地處分法ニ基ク北海道廳長官ノ返地處分ニ對スル行政訴訟ノ出訴期限ハ行政裁判法第二十二條ヲ適用ス(不當返地處分取消請求ノ訴 明治三十一年第十
八月十日
二十七日裁決)

○訴願ヲ經スシテ直チニ行政訴訟ヲ提起シタル事件ニ關シテハ訴願法第八條第三項ヲ適用セス(同上)

〔理由〕 本訴ノ要旨ハ北海道河西支廳ニ於テ明治三十三年三月十五日原告ニ貸付ナレタル本件ノ地所ヲ明治三十六年九月十七日原告ニ對シ返還ヲ命ジタルハ不法ニ付明治三十九年三月十二日被告ニ該命取消ノ訴願ヲ提起シタルニ同年六月十二日ヲ以テ該訴願ヲ却下シタルハ不當ニ付右返還命令及被告カ爲シタル却下裁決ノ取消ヲ要求スト云フニ在レトモ原告カ被告ニ對シ爲シタル訴願ハ其期限ヲ經過シタリシコトハ原告モ明認ズル所ニシテ而シテ原告ハ訴願法第八條第三項ニ依リ被告ニ於テ宥恕スヘキモノナリト云フモ本件ノ場合ニ於テ被告カ宥恕スヘキ事由ナキモノト認メ之ヲ許容セザリシハ不當ニ非ス然レハ本訴ハ適法ノ手續ヲ經タルモノニ非サルカ故ニ行政裁判法第二十七條ニ依リ却下スヘキモノトス

○北海道未開地貸付出願ニ對スル道廳支廳長ノ却下處分ヲ違法トシ其取消ヲ求ムル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(違法處分取消ノ訴願) 明治四十年第十百二十一號
明治四十年十月二十六日裁決

〔理由〕 本訴ノ要旨ハ原告ノ爲シタル北海道未開地貸付出願ニ對シ被告カ之ヲ却下シタルハ違法ノ處分ナルヲ以テ其取消ヲ求ムト云フニ在レトモ本案ハ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノナリ

第六 恩給扶助料

(一) 官吏、軍人、教員恩給ニ關スル件

○戊辰ノ役王師ニ從ヒ戰死シタル者ノ跡相續人ニ對シテ恩給ヲ下賜セラレシコトヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(戊辰ノ役從軍戰死者跡相續人扶助料請求ノ訴願) 明治二十九年第十百二十三號
明治三十年一月十八日裁決

○戊辰ノ役王師ニ從ヒ戰死シタル者ノ跡相續人ニ對シ舊藩カ下與シタル祿米ヲ政府ニ於テ廢止シタルハ違法ナリト主張スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(戊辰ノ役從軍戰死者跡相續人扶助料請求事件ノ判決ニ對スル補充判決ノ申立) 明治二十九年第十百二十三號
明治三十年二月三日裁決

○恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ官吏恩給法第十七條ニ定メタル期限内ニ具申書ヲ提出スルコトヲ要ス(官吏恩給金請求ノ訴願) 明治三十年第六十三號
明治三十年六月十日裁決

○恩給局ノ裁決ニ對スル行政訴訟ハ恩給局長ヲ對手トスヘシ(同上)

○疾病ノ原因及ヒ其輕重ニ關シ恩給局カ與ヘタル裁決ニ對シテハ行政訴訟ヲ提

起スルコトヲ得ス(恩給ニ關スル訴 明治三十四年第五號 明治三十四年五月二十日宣告)

〔理由〕 本訴ハ疾病ノ原因及其輕重ニ關スル恩給局カ與ヘタル裁決ノ取消ヲ請求スルモノナレハ軍人恩給法第四十一條第二項但書ノ規定ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス

○軍人恩給法第四十一條ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルニハ先ツ恩給局ノ裁決ヲ受ケサルヘカラス(恩給權障害回復ノ訴 明治三十六年第四百四十四號 明治三十六年十一月二十四日裁決)

○巡查看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ給與金ニ關シテハ當該行政官廳ノ裁定ヲ經其裁定ヲ違法ナリトスル場合ニアラサレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(權利傷害ノ訴 明治三十六年第四百九十四號 明治三十六年十二月八日裁決)

〔理由〕 原告ハ廣島縣巡查奉職中疾病ニ罹リ明治三十六年六月二十七日辭職願ヲ差出シタル處被告ハ其辭表ニ對シ原告ヲ懲戒處分ニ付シ免職シタルハ原告カ巡查看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ得タル權利ヲ傷害シタル違法ノ處分ナルヲ以テ該處分ヲ取消シ其權利ヲ回復セラレンコトヲ求メ本訴ヲ提起セリ按スルニ巡查看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ給與金ニ關シテハ同法第二十三條及明治三十四年勅令第四百四十八號ニ依リ當該行政官廳ノ裁定ヲ經其裁定

ヲ違法ナリトスル場合ノ外同法第二十五條ニ依リ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス而シテ原告ハ未タ當該行政官廳ノ裁定ヲ經サルニ依リ本訴ハ適法ノ手續ニ違背セルモノトス

○官吏恩給法第十七條及ヒ軍人恩給法第四十一條但書ノ規定ハ出訴權ニ對スル一ノ除外例ヲ成スモノナレハ其適用ハ右兩法ニ止マリ官吏遺族扶助法ニ依レル出訴權ニ之ヲ及ホスコトヲ得ス(官吏遺族扶助料請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯 明治三十六年第五百四十八號 明治三十七年七月五日宣告)

〔理由〕 被告抗辯ノ要旨ハ本件ハ渡邊富彦ノ死亡ハ公務ニ原因シタルモノナリヤ否ヤノ事實問題ニ基クモノニシテ法律解釋又ハ適用ニ涉ルモノニアラサレハ官吏恩給法第十七條ノ例ニ準シ行政廳ノ裁決ヲ以テ終審確定ト爲サルヘカラサルカ故ニ原告ハ行政裁判所ニ出訴スル權利無キモノナリト云フニ在リ原告陳述ノ要旨ハ官吏恩給法ト官吏遺族扶助法トハ相關聯スルモノナルコト被告陳述ノ通ナルモ恩給法第十七條ニハ但書ノ規定アルニ拘ラス之レト同時ノ發布施行ニ係ル遺族扶助法第十八條ニ其規定無キヲ以テ見レハ恩給法ノ但書ヲ遺族扶助法ニ適用スヘキモノニアラサルコト明カニシテ原告ハ出訴權ヲ有スルコト勿論ナレハ被告ノ抗辯ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ按スルニ官吏遺族扶助法第十八條ニ依レハ行政上ノ處分

ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ニ對シ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シアリテ何等ノ制限ヲ付スルコト無ケレハ原告ハ同條ニ依リ出訴權ヲ有スルヤ勿論ナリ而ルニ被告ニ於テハ官吏恩給法第十七條及軍人恩給法第四十一條但書ヲ援用シテ論辯スル所アルモ該但書タル出訴權ニ對スル一ノ除外例ナルヲ以テ其適用ハ該兩法ニ止マリ官吏遺族扶助法ニ依レル出訴權ニマテ及フモノト解釋スルヲ得サルモノトス

○國務大臣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ縱令其裁決ニ對シテ不服アルモ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノトス(巡查退隱料請求拒否ニ關スル訴 明治三十七年第三百六號 明治三十七年七月七日裁決)

〔理由〕 原告請求ノ趣旨ハ原告ハ宮城縣巡查ヲ退職シ退職給助年金三十二圓ヲ受ケ爾後臺灣總督府ニ於テ俸給ヲ受クル官職ニ就キタルニ依リ右年金給助ヲ停止セラレタレトモ明治三十四年法律第三十八號第十四條末項ニ依リ一部ノ給與ヲ受クル權利アルヲ以テ宮城縣知事ニ之カ請求ヲ爲シタル處之カ支給ヲ拒否セラレタリ依テ被告内務大臣ニ訴願シタルニ原告ノ訴願相立タストノ裁決ヲ與ヘラレタリ原告ハ之ニ服スル能ハサルヲ以テ本訴ヲ提起シ被告ノ裁決ヲ取消シ年金四十三圓四十六錢七厘ノ支給ヲ求ムト云フニ在レトモ本件ノ如ク原告ハ内務大臣ニ訴願ヲ爲シタル場合ニ於テハ行政裁判法第十七條末項ノ規定ニ依リ當裁判所ニ出訴スルヲ得サルモノトス

ヲ得サルモノトス

○巡查退隱料ノ請求ヲ拒否セラレタル者カ内務大臣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(巡查退隱料不法拒否ニ關スル訴 明治三十七年第十二百二十四號裁決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ原告ハ岐阜縣巡查ヲ奉職シ明治三十四年九月ニ至リ依願免官トナリタレトモ在職年數ヲ通算スレハ十一年以上ニ達シタルヲ以テ被告知事ニ退隱料ノ請求ヲ爲シタル處之カ支給ヲ拒否セラレタリ依テ内務大臣ニ訴願シタルニ原告ノ訴願ハ期限ヲ經過シタルトノ理由ヲ以テ却下セラレタルニ付キ原告ハ之ニ服スル能ハサルヲ以テ本訴ヲ提起シ被告ハ原告ニ對シ巡查退隱料年額金三十八圓ヲ支給スヘキ處分ヲ爲スヘシトノ判決ヲ求ムト云フニ在レトモ本件ノ如ク原告ハ内務大臣ニ訴願ヲ爲シタル場合ニ於テハ行政裁判法第十七條末項ノ規定ニ從ヒ當裁判所ニ出訴スルヲ得サルモノトス

○行政處分ニ由リテ恩給權ヲ侵害セラレタリトスル者カ恩給局ニ具申裁決ノ手續ヲ經ルコトナク内閣ノ裁定ニ對シテ直ニ出訴スルハ違法ナリ(扶助料請求ノ

訴 明治四十年第八十七號 明治四十年九月十九日裁決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ原告ノ實子高橋正樹ハ明治三十七八年戰役ノ際清國城廠兵站病院ニ於テ死亡シタルニ因リ扶助料ノ請求ヲ爲シタルニ内閣ニ於テ權利ナキモノト裁定相成リタル旨ノ通知ヲ同年五月二十三日高知縣廳ヨリ受ケタリ然レトモ該裁定ハ不當ナルヲ以テ之ヲ取消シ原告ハ軍人恩給法ニ依リ扶助料ヲ受クヘキ權利アリトノ判決ヲ請フト云フニ在レトモ軍人恩給法第四十一條第二項ニ依レハ「行政上ノ處分ニ由リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(下略)」トアリテ行政裁判所ニ出訴スルニハ先テ恩給局ニ具申シ其裁決ヲ受クルコトヲ必要トス然ルニ本件ハ内閣ノ裁定ニ對シ直チニ出訴シタルモノニシテ恩給局ニ具申裁決ノ手續ヲ經サルモノナレハ適法ノ手續ニ違背セルモノトス

○行政處分ニ由リ軍人恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトシテ行政裁判所ニ出訴スルニハ先ツ恩給局ニ具申シ其裁決ヲ經ルコトヲ要ス(恩給ニ關スル訴訟)
明治四十一年第二號
 明治四十二年二月六日裁決

〔理由〕 本件ハ原告ニ於テ明治四十年一月恩給請求書ヲ提出シタル處同年五月二十一日附ヲ

以テ恩給ヲ受クル權利ナシトノ通達ヲ受ケタルニ付キ軍人恩給法第四十一條第二項及ヒ明治二十四年閣令第二號ニ依リ同年十月五日恩給局ニ具申書ヲ提出シタルニ青森聯隊區司令部ハ之ニ附箋シテ返戻セラレタレトモ其附箋ノ理由ニ服スル能ハサルヲ以テ出訴ニ及ヒタリト云フニ在レトモ軍人恩給法第四十一條第二項ニ依レハ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトシテ行政裁判所ニ出訴スルニハ先以恩給局ニ具申シ其裁決ヲ經ルコトヲ要ス然ルニ原告ノ具申書ハ青森聯隊區司令部ノ附箋ヲ以テ返戻セラレタルモノニシテ恩給局ノ裁決ヲ受ケタルモノニアラス然ラハ本件ハ適法ノ手續ニ違背セルモノニシテ當裁判所ニ於テ受理スヘキ限ニ在ラス

第七 雜

(一) 雜件

○避病院新設ノ爲メ縣知事ノ許可シタル場所變更ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(避病院認可書取消ノ訴 明治二十三年十一月十五日裁決)
 〔理由〕 静岡縣知事ニ於テ町長ノ出願ヲ容レ掛川町郭内へ避病院新設ヲ許可シタルモ該地ハ不適當ナルニ付其場所ノ變更ヲ請求スルニ在リト雖本件ノ如キ事項ニ對シテハ法律勅令ニ行

政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ原告ハ之ヲ訴求スルノ權利ナキモノトス

○町村制實施前ヨリ成立存在セシ町村聯合會ニアラサレハ明治二十二年三月法律第十一號ニ從ヒ町村制實施後存續スヘキモノニアラス(聯合町村費賦課一件ニ關スル不當ノ裁決取消ノ訴 明治二十三年第七號 明治二十三年十二月十六日宣旨)

〔理由〕 被告カ耶麻外六郡全町聯合町村會ノ開設ハ福島縣町村制實施以前ニ成立セシト云フモ縣知事カ明治二十二年三月十六日附ヲ以テ本件ニ關シ下セシ訓令ヘ知事ト郡長トノ間ニ於ケル事務ノ訓條ニ止リ明治十九年福島縣甲第二十七號布達ヲ以テ定メタル公式ヲ履マサルモノナレハ人民ニ於テ之ヲ周知スルニ由ナク隨テ之ニ服從スルノ義務ナキハ勿論ナルノミナラス南會津郡郡長カ該會開設ノ爲メ始メテ部内ニ發シタル告示ハ福島縣ニ於テ町村制實施ノ日即明治二十二年四月一日ナルヲ以テ耶麻外六郡全町聯合町村會ハ町村制施行以前ニ成立存在セシモノト謂フヲ得サルヲ以テ明治二十二年三月法律第十一號ニ依リ町村制施行以後ニ在テ該會ノ存續スヘキ理由ナシ故ニ該會議ニ於テ七郡聯合町村費ヲ評決シ之ヲ賦課セシハ違法ノ處置ナルヲ以テ原告ニ於テ其賦課ヲ受クヘキ理由ナキモノトス

○舊藩ノ爲シタル年賦金契約ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(舊静岡藩證書金

額下渡請求ノ訴 明治二十三年第二十二號 明治二十三年十二月十六日裁決)

〔理由〕 明治元年十二月中原告カ舊静岡藩ト契約シタル年賦金ハ同藩家名再興以後ノ負債ニ屬スヘキモノニ付大藏省ヨリ該金及利子ノ下渡ヲ受ケタシト云フニ在レトモ本件ハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキニ依リ出訴スルヲ得サルモノトス

○舊藩ノ爲シタル年賦金契約ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(舊静岡藩證書下渡金違算ノ分請求ノ訴 明治二十三年第二十三號 明治二十三年十二月十六日裁決)

〔理由〕 原告カ舊静岡藩ト契約シタル年賦金ハ明治九年八月二十二日東京府達ニ掲載シタル秋田甚兵衛ノ通帳金高割ニ類推シ其分合ニ當ル金額ノ下渡ヲ受クヘキモノナルニ違算ノ儘下付シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ本件ハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキニ依リ出訴スルヲ得サルモノトス

○舊藩ノ爲シタル年賦金契約ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(舊静岡藩證書金額下渡請求ノ訴 明治二十三年第二十四號 明治二十三年十二月十六日裁決)

〔理由〕 明治元年十二月中原告カ舊静岡藩ト契約シタル年賦金ハ同藩家名再興以後ノ負債ニ屬スヘキモノナルニ國債局ニ於テ當時ノ帳簿記載ノ年月日ニ依リテ同藩家名再興以前ニ係ル

モノト否トテ區別シ其證書記載ノ金額ヲ下渡サ、ルハ不當ナリト云フニ在レトモ本件ハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ出訴スルヲ得サルモノトス

○町村制第四條ノ規定ニ基キ町村所屬ノ土地ニ付キ縣參事會ノ議決ニ因ル處分ニ對シテハ同制中行政訴訟ヲ許スノ明文ナシ(六方野所屬變更ノ訴 明治二十三年三月十三號 明治二十四年二月九日裁決)

〔理由〕 原告訴求ノ要旨ハ千葉縣千葉印旛兩郡ニ跨ル字六方野原旭村小名木地先圖面甲部ノ土地ヲ明治二十三年十二月三日千葉縣第四百四十八號ヲ以テ千葉郡都村ニ編入セラレタルモ同地ハ往古ヨリ草稅ヲ上納シ明治十三年拂下ニ由リ民有地ニ歸シタル以後原野ヲ開墾シテ生産地ト爲シタル等旭村所屬ノ地タルハ明瞭ナルニ千葉縣參事會ノ議決ヲ以テ其緣故ナキ千葉郡都村ニ編入シタルハ不當ナルニ依リ其議決ヲ取消シ旭村へ編入センコトヲ要スト云フニ在リト雖町村制第四條ノ議決ニ依リテ處分シタルモノハ同制中訴訟ヲ爲シ得ルノ規定ナキモノナレハ本件ノ事項ニ對シ原告ハ行政訴訟ヲ提起スルノ權ナキモノトス

○町長カ家屋ノ建築届ヲ返戻シタルヲ不當トスル事件ニ付テハ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(不當ノ職務取扱ノ訴 明治二十四年第十九號 明治二十四年五月十二日裁決)

○積立米下渡請願ニ對スル大藏大臣ノ訓示ニ對シテハ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(舊松山藩卒族積立米下渡請願ニ對スル訓示不服ノ訴 明治二十四年第二十二號 明治二十四年五月二十二日裁決)

○金祿下賜願ヲ却下シタル指令ニ對シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(金祿下賜拒絕ノ指令取消ノ訴 明治二十四年第三十號 明治二十四年九月十七日裁決)

○出訴期限ヲ經過シタル行政訴訟ハ之ヲ受理セス(違法處分取消ノ訴 明治二十四年第四十一號 明治二十四年九月二十二日裁決)

○町村有土地ノ賣却讓與ニ關シテ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(共有草山並ニ山林讓與ノ稟請ニ對スル不當處分ノ取消要求訴 明治二十四年第四十號 明治二十四年九月二十八日裁決)

○堰路水掛地ノ地價更正ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(立楳井堰水掛地地價更正不等處分取消ノ訴 明治二十四年第四十八號 明治二十四年九月二十九日裁決)

○古物商取締條例第五條ニ基キ警察官カ爲シタル物品引揚ノ處分ニ對シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(古物商條例違反事件伊丹警察署ノ物品引揚命令取消ノ訴 明治二十五年第三十三號 明治二十五年四月二十七日裁決)

〔理由〕 本訴ノ要旨ハ原告カ明治二十三年十月三十一日以降同二十四年七月二十五日迄ニ伊

丹村平民多田龜太郎ヨリ達摩形八角時計外七十八點並ニ醬油樽等ヲ代金百三十五圓ニテ買取
リ制規ノ通り之ヲ明細帳ニ記載シ尙龜太郎ヲシテ其姓名ヲ自署セシメ置キタレハ違法反則ノ
廉ナキニ被告伊丹警察署ハ之ヲ古物商條例第五條ニ背クモノト認メ該物品ヲ無代價ニテ引揚
ケラレシニ由リ之ヲ不當ト思料シ明治二十三年法律第百五號訴願法第一條第六項ニ基キ兵庫
縣知事ニ向テ該命令ノ取消ヲ訴願セシモ同知事ハ右命令ヲ不當ニアラスト裁決セラレシハ原
告ノ服従スル能ハサル所ナルヲ以テ更ニ本訴ヲ提起シ該命令ノ取消ヲ請フト云フニ在リト雖
本件ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタルモノニアラサルカ故ニ原告ハ行政訴訟ヲ
提起スルヲ得サルモノトス

○ 郡長及村長カ人民ヨリ差出シタル後見人届ヲ却下シタルコトニ關シ行政訴訟
ヲ許スノ法令ナシ(後見届不當處分取消ノ訴 明治二十五年第三十八號
明治二十五年五月二十日宣告)

〔理由〕 本訴ノ要旨ハ亡齋藤久右衛門ハ明治二十三年八月十九日死去シ嗣子忠治ノ存スルニ
拘ハラス一二ノ親戚共謀シテ小吹幸次郎ナル者ヲ相續人トシテ入籍セシメ二千餘圓ノ財産ヲ
奪掠シタルニ因リ更ニ親屬會議ヲ開キ原告ヲ嗣子忠治ノ後見人ト定メ同年十二月十六日其旨
被告村長ニ届出爾後原告ハ忠治ノ後見人トシテ相續回復ノ訴訟ヲ起シ遂ニ其目的ヲ達シタリ

而シテ今ヤ其裁判執行ニ際シ被告等カ二年前ニ受理シ置キタル後見人届書ヲ却下シタルハ人
民ノ權利ヲ侵害シタルモノナリ依テ右却下處分ノ取消ヲ請フト云フト雖本件ハ法律勅令ニ行
政裁判所ニ出訴ヲ許シタルモノニアラサルカ故ニ原告ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノト
ス

○ 一郷ニ在住スル人民各自ノ所有權ヲ主張スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法
令ナシ(舊南關郷鄉備ノ利益金毎戸分割ノ決議認可請求ノ訴 明治二十五年第百
六號
日裁決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ舊南關郷鄉備金ハ明治二十三年組合町村ノ共有財産トシテ維持シ
來リ本年三月ニ至リ組合町村ノ議決ヲ以テ各町村ニ分割シタレハ本村ハ六月十七日ノ村會ニ
於テ毎戸ニ分割スヘキ決議ヲ爲シ郡長ノ認可ヲ求メタルニ郡長ハ不認可ノ指令ヲ爲シタルニ
因リ縣知事ニ訴願シタルニ縣知事ハ郡長ノ處分ハ相當ナリトノ裁決ヲ爲シタリ然レトモ該金
圓ハ町村固有ノ財産ニアラスシテ今ヨリ七十年前郷民ノ祖先カ熱血ヲ搾リ以テ海岸ヲ開墾シ
其地ヨリ年々産出シタル餘米ノ殘額即チ純益ナレハ其當時ヨリ本郷ニ在住スル郷民ノミ共同
私有スル財産ニシテ則チ其勞働者ノ子孫カ恩典ヲ受クヘキモノナリ故ニ其後ニ於テ他方ヨリ

移住シタル現今ノ住民ハ總テ所有權アラサルナリ依テ町村制第八十二條ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラサルヲ被告カ同制第八十一條第二項ヲ引證シ裁決シタルハ不法ナルニ依リ之レカ取消ヲ請求スト云フニ在リテ七十年來本村ニ在スル郷民各自ノ所有權ヲ主張スルモノナレバ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル法律勅令ノ規定ナキヲ以テ受理スヘキモノニアラス

○築港局カ會計法ニ違反セル處分ヲ爲シタリト稱スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(違法處分取消ノ訴) 明治二十五年第四百三十一號
明治二十五年十一月三十日裁決

〔理由〕原告請求ノ要旨ハ明治二十三年四月以來「ボートランドセメント」製造及販賣ヲ營業ト爲シ明治二十五年十月四日臨時橫濱築港局ニ於テ築港用ノ「セメント」七千噸ヲ購買スルトノ報ニ接シ十月三日入札加入ノ旨ヲ同局ニ要請セシニ願書採用相成爾後入札當日ニ近ツクモ官報其他新聞紙等ヲ以テ購入ノ旨公告之レナク翌十月四日突然法定ノ手續即チ公告シテ競争ニ付スルノ方案ヲ廢止シ淺野總一郎ト隨意契約ヲ締結シテ需用ヲ充タスコトニ決定シタル由ヲ聞キ十月五日築港局ニ出頭眞否ヲ確カメシニ果セルカナ築港局ハ擬キニ一旦採用シタル願書ヲ却下シ需用品七千噸ハ淺野總一郎ヲシテ供給セシムルノ隨意契約ヲ締結シ現時物件ノ授受ヲモ將ニ結了セントスルモノナレトモ原告會社ハ明治二十二年四月三十日勅令第六十四號

會計規則第六十九條ノ要求スル資格ヲ得有シ從テ同年法律第四號會計法第八章第二十條ノ保護ヲ享受セラルヘキモノナレハコソ入札加入ヲ出願シタル次第ナリ同條ニ法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付ス可シ云々トアリテ築港局ハ同條但書第一項ヨリ第十四項ニ明記シタル場合ノ外ハ必ス公告シテ競争ニ付セサル可カラス然ルニ築港局ハ該法律ヲ度外視シ寸毫ノ公告ヲモセス私カニ淺野總一郎ト隨意契約ヲ締結セシ如キハ違法ノ行爲タル容疑ス可カラサル義ト確信ス故ニ原告カ法律規則ニ因テ得タル權利ヲ蹂躪セラレ之レカ救濟ヲ請求スルモノナレハ會計法ニ違反スル該處分ヲ取消シ相成リタシト言フニ在レトモ本件ハ法律勅令ニ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタルモノニアラサルカ故ニ原告ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス

○豫戒命令ノ取消請求ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(豫戒命令取消ノ急訴) 明治二十五年第四百十五號
明治二十五年十二月二十七日裁決

〔理由〕原告請求ノ要旨ハ明治二十五年十二月二十一日ヲ以テ被告警視總監カ原告ニ對シ執行シタル豫戒命令ハ被告カ誤認ニ出テタル失當ノ命令タルヲ免レス抑モ豫戒命令ノ要タルヤ公安ヲ持スルニ在リ按スルニ同令第一條第三項ハ平素居ルニ所ナク喰フニ食ナキノ徒其衣食住

ノ資ニ充テシカ爲メ暴威ヲ振ヒ濫リニ良民ヲ苦シムル所ノモノヲ戒ムルニ外ナラス原告ハ未
曾テ財物等ヲ他人ニ強請シ或ハ勸告書ヲ送り他人ノ行爲ヲ妨ケタルコトナキモ原告ハ曩キニ
衆議院議員選舉干涉ノ件ニ付子爵品川彌二郎ニ對シ告訴シタルコトアルヲ以テ或ハ被告カ原
告ヲ過激粗暴ノ徒ナリト想像シタルモ知ル可ラスト雖モ之ヲ告訴シタルハ原告自己即チ國民
ノ權利ヲ全フセントスルニ在テ畢竟干涉官吏ニ責罰ヲ加ヘントノ運動ニ過キサレハ安寧秩序
ヲ保持スヘキ豫戒令ヲ發スルノ原素トハ成ラサルナリ如何ニ行政權ヲ敷衍スルニ制限ナシト
スルモ猥リニ自由權ヲ檢束スルハ憲法ヲ無視シタルモノナリ速カニ該命令ヲ取消シ國民ノ本
分ヲ盡サントス被告ハ如何ナル理由アリテ該命令ヲ發シタルヤ裁判ヲ仰クト云フニ在レトモ
本件ハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキモノナレハ當裁判所ニ於テ受理スヘキモノニア
ラス

〔同一判例〕 豫戒命令取消請求ノ訴 明治二十八年第五十五號
明治二十八年八月七日裁決

○蠶絲業組合取締規約蠶種検査規程等ニ對スル縣知事ノ認可ヲ取消サンコトヲ
請求スルニ付キ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ認可取消請求ノ訴 明治二十五年第百
四十八號
四月二十八日裁決

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ明治二十五年三月被告ノ認可セシ岐阜縣美濃國蠶絲業組合取締所
規約蠶種検査規程第八條同第九條及同縣飛彈國蠶絲業組合取締所規約蠶種検査規程第四條同
第九條及取締所規約附則第三章第十六條ノ各條ハ他國ノ行商者ヲ羈束スル不當ノ認可ナルヲ
以テ該認可ノ取消ヲ請フト云フニ在リト雖本件ハ法律勅令中行政訴訟ヲ許スノ規定ナキニ依
リ出訴スルヲ得ルノ限リニ在ラス

○縣知事カ藝妓營業地制限ノ縣令ヲ發シテ藝妓營業者ノ居住スヘキ場所ヲ定メ
タルハ現ニ該業ヲ營ム者ニ對シテ爲シタル特別ノ行政處分ニアラス又縣令ヲ
發シタルヲ以テ營業免許ニ關スル處分ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス單ニ藝妓
營業者ノ居住スヘキ場所ヲ一定セシモノナリ而シテ縣知事ノ發シタル縣令ハ
居住及ヒ移轉ノ自由ヲ制限シタルモノト稱シ其取消ヲ求ムルコトニ關シテ行
政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(藝妓營業地制限ノ縣令取消請求ノ訴 明治二十五年第
十八號
十月十日宣告)

〔理由〕 原告ハ被告カ明治二十五年廣島縣令乙第三十號ヲ發シタルハ違法ナリト云フト雖廣
島縣知事カ右縣令ヲ發シタルハ原告等ニ對シ特ニ處分ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス而シテ原

告等ハ數年來營業ヲ爲シ來ルモノナレハ該縣令ノ效力ハ原告人共ニ對シ及ホス能ハサルモノナリト云フモ被告ハ縣令ヲ以テ藝妓營業者ノ居住スヘキ場所ヲ一定シタルマテニシテ原告等ノ營業免許ニ關スル處分ヲ爲シタルモノニアラス又原告ハ被告ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ制限シタリト云フモ該件ニ關シテハ行政訴訟ヲ提起シ得ルノ規定ナキヲ以テ其請求ハ採用スルヲ得サルモノトス

○ 拂下ケタル地所ノ引渡ヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(地所引渡請求ノ訴 明治二十七年第二十三號
明治二十七年四月十日裁決)

〔理由〕 原告江夏泰輔ヨリ被告北海道廳長官北垣國道ニ對スル地所引渡請求ノ訴ヲ訴狀ニ就テ審査スルニ原告ハ明治二十二年十月空知農場拂下ヲ被告廳ニ請願シ拂下ノ指令ヲ得タリ依テ其指令ノ趣旨ニ基キ地積實測ノ上引渡ヲ請願セシニ本年二月二十四日附ヲ以テ明治二十五年十二月札幌製糖會社ニ達濟ナレハ再ヒ實測ノ上引渡スヘキ理由ナシトテ願書ヲ却下シタルハ不當ナルヲ以テ其指令ノ取消ヲ請フト云フニ在レトモ本件ハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル事件ニアラサルヲ以テ之ヲ受理スルノ限ニ在ラス

○ 一私人間ニ於ケル土地所有權ノ爭ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(散田前起

返リ地所有權ニ關スル不當指令取消ノ訴 明治二十七年第三十九號
明治二十七年七月四日裁決

〔理由〕 原告請求要旨ハ宮城縣名取郡館腰村大字植松舊高二十三貫六十一文ノ地所改正合段別十六町三段二畝十五歩ハ安政四年度ヨリ原告共ノ持地ナリシヲ明治六年一月中井新三郎ニ於テ我所有地ナリトノ虛辭ヲ以テ更ニ歟下年季及持地ニ被成下度旨出願シ縣廳モ亦新三郎名義ニ變換セシヲ以テ明治十七年其筋ノ裁判ヲ請ヒタレトモ曩ニ縣廳カ地券臺帳ヲ書換ヘ地券狀ヲ新三郎ニ下付セシ爲メ原告等所有權アルノ確證ハ彼ノ不正手段ヨリ成立シタル無效證ニ打消サレ敗訴ト爲レリ因テ請願規則ニ遵ヒ明治二十年名取郡役所宮城縣廳大藏省等へ請願ノ末明治二十二年內閣へ請願セシニ是レ亦願意聞届難キ趣ノ指令アリタレトモ不服ナルユエ該指令ヲ取消シ地所ハ原告共ノ所有地ナリトノ判決ヲ請フト云フニ在レトモ本件ハ官民區分ノ查定ニ關スルモノニアラサレハ法律勅令中行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ受理ス可キモノニアラス

○ 確定裁判ニ依リ土地臺帳ヲ更正シタルコトノ當否ヲ爭フ事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(違法處分權利毀損ノ訴 明治二十七年第三十一號
明治二十七年九月十九日裁決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ被告ニ於テ大阪市東區谷町四丁目第二番地ノ二ニ對シ甲第四號證

ノ如ク市街宅地所有境界裁判確定ニ依リ土地臺帳ヲ更正シタルハ原告ノ權利ヲ毀損シタルモノナリト云フニ在レトモ本件ノ如キハ法律勅令中出訴ヲ許シタルモノニアラサルヲ以テ之ヲ受理スルヲ得サルモノトス

○村會議員ノ無届不參ヲ理由トシ村會カ其議員ニ對シ過怠金ヲ科シタルヲ不當トシ其取消ヲ求ムル事件ニ關シテ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(過怠金取消ノ訴
明治二十七年第四十二號
明治二十七年九月二十四日裁決)

〔理由〕 原告陳述ノ要旨ハ原告ハ明治二十七年三月六日中枝村會ニ出席ノ筈ナリシニ椎茸教師原告ノ試作地ニ出張ニ付積込ノ爲メ同地ニ參ラサルヲ得サルヲ以テ同日午前八時村役場ニ至リ口頭ニテ議長植野長十郎ニ其旨ヲ申出タルニ早ク歸リテ出席ノ心組ナラハ届書ニ及ハスト申サレタリ依テ之ヲ差出サスシテ參リタル處教師延引ノ爲メ積込方ヲ手間取り午後五時三十分ニ至リテ會場ニ出頭セリ然レトモ原告ハ既ニ遅刻ノ届出ヲ爲シ而シテ之ヲ聞届ラレタルコトナレハ無届ニテ不參セシ者ニアラス故ニ村會ニ於テ原告ヲ無届不參者ト爲シ過怠金一圓ヲ科シタルハ不當ナレハ之カ取消ヲ請求スト云フニ在レトモ本件ハ法律勅令中出訴ヲ許シタルノ規定ナキヲ以テ受理スヘキ限ニ在ラス

○市區改正ノ爲メ移轉料ノ下付ヲ請求スルコトニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(市區改正ニ付移轉料請求却下不服ノ訴 明治二十七年第五十一號
明治二十七年九月二十四日裁決)

〔理由〕 原告訴求ノ要旨ハ原告家屋ノ軒ハ市區改正ノ線路ニ掛ルヲ以テ被告ニ對シテ移轉料下渡ノ請求ヲ爲シタルモ不當ニモ其移轉料ヲ下付セサルニ因リ右不法ノ處置ヲ取消シ原告ニ速ニ移轉料ヲ下付スヘシトノ裁判ヲ請求スト云フニ在レトモ本件ノ如キハ法律勅令中出訴ヲ許シタルモノニ非ラサルヲ以テ之ヲ受理スルノ限ニ在ラス

○町村組合共有財産ヲ分割セントシ共有財産管理規定ヲ改正スルヲ以テ公益上ノ利害ニ關スルモノト論定スルヲ得ス(共有財産管理規程改正ニ關スル訴ニ對スル妨訴抗辯 明治二十七年第五十九號
明治二十七年十一月二十日宣告)

〔理由〕 被告ハ本訴下新川郡總町村組合共有財産管理規程改正タルヤ該財産ヲ分割セントシ及去ル二十三年來同一共有ノ實アル所有區域ヲ今變更セントスルハ一郡ノ公益ヲ害スル議決ト認メタルヲ以テ町村制第六十八條ニ依リ再議ニ付シタルモノナレハ行政裁判所ニ出訴スヘキモノニアラスト云フト雖原告提出第七號證ニ依レハ公衆ノ利益ヲ害スルモノトシテ再議ニ付シタルモノト認メ難ク且同第六號證共有財産管理規定改正案ハ該財産ノ分割保存及ヒ所

有權ニ關スルモノナレハ之ヲ以テ公益上ノ利害ニ關スルモノト爲シ論スヘキモノニアラス依テ被告ハ原告ノ出訴ニ對シ本案ノ答辯ヲ爲スヘキモノトス

○見繼山拜借願ヲ詮議ニ及ヒ難シトシテ認許セサル指令ノ取消ヲ請求スルニ付
キ行政訴訟ヲ許ス法令ナシ(不當處分取消ノ訴 明治二十八年第六號
明治二十八年二月五日裁決)

〔理由〕 原告等陳述ノ要旨ハ青森縣東津輕郡蟹田村大字小國字館下五十七番見繼山段別二十五町一段〇〇二步ハ原告等カ官廳ノ許可ヲ得天明八申年ヨリ自費ヲ以テ樹木ヲ栽植保護シ今日ノ繁茂ヲ致シタルモノナレハ地盤ハ官有ナルモ樹木ハ悉皆原告等ノ所有ナリ又其地盤ニ對シ一ノ地上權ヲ獲得シアルコトハ爭フヘカラサル事實ニシテ即原告等ノ見繼山ナリ故ニ原告等ハ明治二十六年十月二日地料金額等ノ指示ヲ受ケタル上見繼山拜借願ヲ被告大林區署長ニ差出シタルニ被告ハ明治二十七年十一月一日願ノ趣詮議ニ及ヒ難シトノ不當ナル指令ヲ下シタリ依テ其指令ヲ取消サレンコトヲ請求スト云フニ在レトモ本件ハ法律勅令中行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ原告等ハ出訴スルコトヲ得サルモノトス

○證約金ノ徵收ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(煙草稅則違犯證約金徵收ニ對スル不服ノ訴 明治二十八年第十九號
明治二十八年二月二十七日裁決)

〔理由〕 原告訴求ノ要旨ハ原告ハ雇人ノ過失ヨリ無印紙ノ煙草ヲ賣却及所持シタルヲ以テ煙草稅則違反ノ刑ニ處セラレタリ而シテ違反ノ廉ハ小賣營業ニ關スルノミニシテ毫モ製造業ニ關セサルハ該宣告書ニ於テ明カナリ然ルニ被告ハ證約金ノ内百圓ヲ徵收ストノ通知書ヲ原告ニ發シタルトモ前陳ノ如ク違反ノ廉ハ小賣ニ付テノ違反ニシテ製造ニ付テノ違反ニアラサルヲ以テ之ニ服從スル能ハス依テ被告カ明治二十七年十二月十八日附ヲ以テ發シタル證約金徵收ノ通告ヲ取消サレンコトヲ請フト云フニ在レトモ本件ノ如キ證約金ノ徵收ニ對シテハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定アラサルヲ以テ之ヲ受理スルノ限ニ在ラス

○官有溜池ヲ一私人ニ拂下ケタルヲ取消ス事件ニ關シテ行政訴訟ヲ許スノ法令
ナシ(官有溜池拂下取消請求ノ訴 明治二十八年第二十四號
明治二十八年四月八日裁決)

〔理由〕 原告訴求ノ要旨ハ埼玉縣武藏國北足立郡石戸村大字下石戸下字臺原千四百九十六番溜井段別五畝十七步及同字千四百九十八番溜井段別一段九畝二步ノ兩地ハ數百年來官有地ニシテ上手ノ用惡水路竝ニ根除堀等ヨリ流下スル雨水ヲ貯ヒ雨量多キトキハ上手ノ惡水ヲ落シ少ナキトキハ下手ノ用水トナルヲ以テ原告等關係人民ハ年々相集リ周圍ノ草ヲ蒔リ土ヲ浚ヒ以テ耕作ヲ助ケ來リタル處被告縣知事ニ於テ突然一私人タル伊藤源三郎ハ拂下タルニ付其取

消ヲ出願シタレトモ詮議ニ及ヒ難キ旨ヲ以テ願書ヲ却下セリ然ルニ伊藤源三郎ノ拂下願書中ニハ溜井周圍ノ田地ハ他ニ用水路ノ便宜ヲ得タル如ク申立アリ又村内協議セシニ他ニ故障ナキ旨ノ申立アリテ其願書ハ全ク虚偽ノ事實ニ基キタルモノナレハ被告ニ於テ拂下ヲ取消スヘキハ當然ナルニ漫然原告等ノ出願ヲ却下シタルハ不當ナルニ付キ被告ニ於テ前記溜井ノ拂下ヲ取消スヘキ様判決アラシコトヲ請フト云フニ在レトモ本件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル條項アラサルヲ以テ之ヲ受理スヘキ限ニ在ラス

○法人タル一村ニ對シテ爲シタル處分ニ付テハ村民ノ一部ヨリ行政訴訟ヲ起スノ權利ナキモノトス(命令取消ノ訴ニ關スル妨訴抗辯 明治二十八年第七號 明治二十八年六月六日宣告)

○行政裁判法第二十二條ハ單ニ出訴期限ニ關スル規定ニ過キス(同上)

〔理由〕 本訴ノ争點ハ原告ハ本件被告ノ處分ニ對シテ行政訴訟ヲ提起スルノ訴權アルヤ否ニ在リ而シテ原告ハ第四號證ヲ以テ爲シタル被告ノ處分ハ法人タル國中村一村ニ對シテ爲シタル處分ナルヲ以テ村長タル原告ハ未タ何等ノ行政處分ヲ受ケサルモノト言ハサル可ラス故ニ原告ハ本件被告ノ行政處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起スルノ權ナキモノトス然ルニ原告ハ本訴ハ行政裁判法第二十二條ノ規定ニ依リ提起シタルモノナレハ正當ナル手續ナリト云フト雖

該規定ハ單ニ出訴期限ニ關スル規定ニ過キサレハ之ヲ以テ原告ニ訴權アルモノト言フヲ得ス

○甲者ノ土地貸下願ニ對シテハ官林區域内ナリトノ理由ニ依リテ其出願ヲ却下シナカラ後願ノ乙者ニ其土地ヲ貸下ケタルヲ不當トシ之カ取消ヲ請求スルニ付テハ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(貸下地不法處分取消ノ訴 明治二十八年第四十一號 明治二十八年六月十一日裁決)

〔理由〕 原告訴求ノ要旨ハ原告ハ元熊本縣平民ニシテ明治二十三年渡航セシヨリ爾來一意拓殖ニ志シ東奔西馳無人ノ野ヲ跋涉シ幾多ノ日子ヲ費シ頗ル本道土地ノ肥瘠ヲ詳ニシ明治二十五年一月石狩國空知郡字赤平ニ於テ一大沃土凡百五十萬坪ヲ發見セシヨリ右土地ヲ百戸分ニ分割シ一村ヲ設立セント企テ同志百名ヲ纏メ同年十二月迄ニ百戸分貸下願書ヲ北海道長官ニ提出セリ此際已ニ開墾ニ著手セシ者十名餘頗ル好結果ヲ得タリ明治二十六年三月北海道告示第二十一號ヲ以テ土地貸下規則ノ改正アリ由テ新則ニ基キ新ニ願出ヲ訂正シテ都合百通出願ニ及ヘリ其後地理課長ニ引渡ヲ請フ數次ニシテ十月ニ至リ漸ク七十五戸分ヲ引渡セリ猶ホ十一月ニ至リ屢々指令ヲ請フタル處該地ハ官林植民地トノ區域交渉錯雜シテ直ニ判明シ難キヲ以テ調査ノ上指令センコトヲ以テシ明治二十七年二月下旬ニ至リ該地ハ官林區域内ナルヲ以

テ貸下クルコトヲ得ストシテ却下セラレタリ然ルニ一方ニ於テハ官林區域内ナリト云フニ拘
ハラス富山縣人兜屋德平等ニ引渡ヲ爲シタルハ職權ヲ濫用シテ告示ノ先取權ヲ傷害シタル不
法ノ處分ナレハ之カ取消ヲ請求スト云フニ在レトモ本訴ノ如キハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シ
タル規定ナキヲ以テ受理スヘキ限ニ在ラス

○縣廳カ爰ニ民有タルノ允可ヲ與ヘタルモ後ニ至リ之カ錯誤ニ基クコトヲ發見
シタル時ハ該允可ヲ取消スノ處分ヲ爲スハ相當ナリトス(縣達取消請求ノ訴

明治二十八年六月二十一日(官告)

〔理由〕原告ニ於テ被告カ本件取消處分ノ基礎トスルハ明治九年ノ改租地圖官林臺帳添附ノ
地圖明治十六年ノ拂下圖明治十七年ノ部分木植付地圖ナルモ明治九年ノ改租地圖ハ實地ニ適
合セサルカ爲メ更ニ地押調査ヲ命シタルモノナルハ地押調査ニ關スル令達ニ依リテ知ルヲ得
ヘク官林臺帳ノ地圖ハ改租圖ヲ模寫シタルモノナリ拂下願ノ地圖及部分木植付地圖ハ改租圖
ニ依リタルニ過キス且被告ハ實地臨檢上官民林ノ區畫明瞭ナリト云フモ官林盜伐事件ニ付豫
審判事實地臨檢ノ際被告等カ指示セル官民ノ區畫ハ識別スルニ由ナカリシナリ然ルヲ原告ニ
對シ本件ノ取消ヲ達シタルハ不當ナリト云フト雖明治九年ノ改租地圖ハ村民各自ノ所有區分

ヲ明瞭ニセンカ爲メニ實測ヲ經テ調製シタルモノナレハ其地圖調製以後ニ於テ本件ノ土地カ
原告ノ所有ニ歸シタルノ證據ナキ上ハ官林ノ區域内ニアラスト謂フヲ得サルノミナラス原告
自身ニ調製シタル拂下願ノ地圖及部分木植付圖ニ依レハ原告ニ於テモ本件ノ土地ヲ以テ官林
ト認メタルヲ知ルニ足レリ然ラハ改租地圖及官林臺帳添附圖ニ示ス所ヲ以テ正確ナルモノト
認メサルヲ得ス而シテ原告ハ明治二十一年中原告ノ出願ニ對シ被告縣廳カ實地ノ踏査ヲ經テ
之カ允可ヲ與ヘ租稅ヲモ徵收シ來リナカラ之カ允可ヲ取消シタルハ個人ノ權利ヲ傷害シタル
モノナリト云フト雖前掲ノ如ク所有ノ證據ナキモノニ對シ爰ニ允可ヲ與ヘタルハ被告廳ノ錯
誤ニシテ其錯誤ヲ發見シタルニ依リ本件ノ取消ヲ爲シタルハ相當ノ處分ナリトス其他原被告
方陳辯スル所アルモ必要ナラサルヲ以テ之カ説明ヲ與ヘス

○町村有財産ヲ使用スル權利ヲ主張スル者ニアラサレハ町村制第百五條ニ依リ
出訴スルコトヲ得ス(基本財産不當處分ノ裁決取消請求ノ訴 明治二十九年第九十三號
明治二十九年十月八日裁決)
○基本財産ノ項目ヲ掲ケサル豫算表等ヲ村會ニ提出シタルコトニ關シ行政訴訟
ヲ許スノ法令ナシ(同上)

〔理由〕原告等訴求ノ要旨ハ明治二十八年中木戸村ニ於テ栗ノ木河普通水利組合ヨリ受ケタ

ル金三百七十五圓ハ基本財産トシテ寄附セラレ其目的ヲ以テ之ヲ受ケタルカ故ニ木戸村ノ基本財産タルヤ疑ナシ然ルニ本年ニ至リ町村制第八條第二項ニ則リ村長カ村會ニ提出シタル豫算表報告書及財産明細表ニ本件基金ノ項目ヲ掲ケサルヲ以テ該金額ヲ不當ニ處分シタルモノト見做シ順次村長郡參事會及府縣參事會ニ訴願シタル處孰レモ訴願法第九條ニ依テ之ヲ却下シタリ元來本件ハ木戸村有ノ財産ニ關スル訴願ナレハ町村制第五條ニ依テ受理裁決スヘキモノナルニ法令中訴願ヲ許シタル規定ナキヲ理由トシテ却下シタルハ不法ノ裁決ナリト云フニ在レトモ原告等ハ町村有財産ヲ使用スル權利ヲ主張スルニアラサレハ町村制第五條ニ依テ出訴スルヲ得サルノミナラス他ノ法律勅令ニ於テモ之ヲ許スノ規定ナキヲ以テ本訴ハ受理スヘキ限ニ在ラス

○誤謬地訂正願ニ對スル縣知事ノ處分ヲ取消サンコトヲ請求スル事件ニ關シテ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(不當處分取消ノ訴 明治二十九年十一月二十六日裁決)

〔理由〕 右原告今井七右衛門外一名ヨリ被告大分縣知事平山靖彦ニ對スル不當處分取消ノ件ヲ訴狀ニ就テ審査スルニ原告等請求ノ要旨ハ大分縣宇佐郡四日市町大字城井ノ一部字西今井ニ稻荷神社ノ祭資田ト稱ヘ從來其作徳米ヲ以テ祭典ノ費用ヲ支辨シ來レル耕地アリ然ルニ一

部ノ關係人城林太郎外六名ヨリ誤謬地訂正願ト題スル虛構ノ願書ヲ被告縣知事ニ差出シ縣知事ハ其事實ヲ確メシテ漫然謂フカ儘ニ願意ヲ聞届ケシニ依リ城林太郎等ハ之ヲ奇貨トシ直チニ共有地賣買ノ登記ヲ爲シ稻荷神社祭資田タルノ權利ヲ失フニ至ラシメタリ是レ全ク縣知事カ職權ヲ濫用シタル處分ノ結果ニ外ナラサレハ其取消ヲ請求スト云フニ在レトモ本訴ノ如キハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ之ヲ受理スヘキ限ニ在ラス

○巡查免職ノ處分ニ對シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(巡查復職ノ訴 明治三十年三月十日裁決)

○拂下ノ土地ニ關シ拂下人以外ノ者ニ與ヘタル縣知事ノ指令ヲ取消サンコトヲ該土地ノ拂下人ヨリ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(不當指令取消請求ノ訴 明治三十年四月一日裁決)

○全國ノ渡船橋梁等ヲ無賃トスルコトヲ企圖スル團結ニ加盟スヘキコトヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(諸國公道ノ渡船場及有賃橋梁將來ノ無賃ヲ企望シ該同盟ニ團結スルノ不服ヲ獎勵シ入團ヲ請求スル訴 明治三十年四月十五日裁決)

○土地ヲ取戻シ損害ノ賠償ヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(拜領地取戻並損害賠償ノ訴 明治三十年十一月二十九日裁決)

○軍人ノ待遇ヲ不相當ナリト主張シ之ヲ相當ニセラレタシト請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(軍人待遇ニ關スル訴 明治三十年十二月一日裁決)

○一個人ノ不法行為ヲ具申シタルニ内務大臣カ之ヲ處分セサルハ不法ナリト主張スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(忌避復權ノ訴 明治三十二年第三十八號 明治三十二年四月十四日裁決)

○[理由] 原告訴求ノ要旨ハ曩ニ原告ハ被告ニ對シ北海道商業新報發行不正認可取消及不正發行人常盤熊吉加藤知徳外數名カ共謀シテ保證金ヲ竊取シタル件其他不法行為ヲ舉ケテ再三請フ所アルモ被告ニ於テ之ヲ容レサルハ原告ヲ忌避スルモノニシテ其責被告ニ在ルヲ以テ茲ニ忌避復權ノ訴訟ヲ提起シ公明ナル裁判ヲ求ムト云フニ在レトモ本件ノ如キハ法律勅令ニ於テ行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ之ヲ受理セス

○檢事總長カ告訴事件ノ抗告ヲ棄却シタルハ不法ナリト主張スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(忌避復權ノ訴 明治三十二年第三十九號 明治三十二年四月十四日裁決)

○[理由] 原告訴求ノ要旨ハ原告ハ明治三十一年十月二十六日及十一月十七日附ヲ以テ渡邊佐兵衛加藤知徳常盤熊吉等ニ新聞紙條例違犯及ヒ私印私書偽造詐欺取財ノ所爲アルモノト思量シ函館地方裁判所檢事正ニ對シ告訴シタルニ不起訴トナルヲ以テ更ニ函館控訴院檢事長ニ抗告狀ヲ提出シタルモ亦棄却セラレタリ依テ明治三十一年十二月二十六日附ニテ被告ニ抗告狀ヲ提供セシニ明治三十二年二月七日棄却ノ告知書ヲ送付セリ是レ被告ハ刑法ノ規律ヲ犯シタル不法ノ處分ニシテ畢竟原告ヲ忌避スル處置ニ出タルモノト信ス故ニ右不法不當忌避復權ノ審判ヲ求ムト云フニ在レトモ本件ノ如キハ法律勅令ニ於テ行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ之ヲ受理セス

○町費ヲ不正ニ支出シタルト主張シ之カ割戻ヲ請求スル事件ニ付キ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(不正支拂金割戻ノ訴 明治三十二年第五十四號 明治三十二年五月十日裁決)

○[理由] 原告訴求ノ要旨ハ山形縣飽海郡酒田町明治三十年度町費支拂金ノ内會議費中雜費金六百四圓餘ハ不正支拂ニシテ町村制第八十八條ニ悖戻スルモノナリ抑我々町民ハ同條ニ依リ其必要ナル支出及法令ニ依リ賦課セラル、支出ノ外他ニ町費ヲ負擔スルノ義務ナシ然ルニ前記雜費ハ料理屋貸坐舖飲食店等ノ諸拂ニシテ全ク公費ヲ濫用シテ飲食料ニ充テタルモノナレ

ハ該不正支拂金ノ鞫戻ヲ請フト云フニ在レトモ本件ノ如キハ町村制及其他ノ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ之ヲ受理スル限ニ在ラス

○町村組合ニ關スル事項ハ町村制第一百七條ノ規定ニ從ヒ組合規則ニ依リテ決スヘキモノトス(給料請求ノ訴 明治三十二年第四十九號
明治三十二年十月三十日宣告)

○町村組合規則ニ組合費ノ收支及會計事務ハ管理者總テ之ヲ掌ルトアル場合ニ於テ收入役カ管理者タル町村長ノ命ニ依リ組合ノ會計事務ヲ掌リタルコトアルモ組合ニ對シテ其給料ヲ請求スルノ權利ナシ(同上)

○町村組合規則ニ手當ヲ支給ストアルモ給料ヲ請求スルノ理由ト爲ラス(同上)

〔理由〕 本件原告被告所爭ノ要點ハ組合町村ノ收入役ハ組合會計事務ニ對シ給料ヲ請求シ得ルヤ否ニ在リ按スルニ該爭點ノ如キハ町村制第一百七條ノ規定ニ從ヒ組合規則ニ依テ其當否ヲ判斷セサル可ラス依テ乙一號證組合規則ヲ閱スルニ其第八條ニ組合費ノ收支及會計事務ハ管理者總テ之ヲ掌ルトアリテ即チ管理者タル村長ノ職責タルコト明瞭ナリ然ラハ原告ハ組合村長ノ命ニ依リ實際組合ノ會計事務ヲ掌リタルコトアルモ是レ單々管理者ト相對ノ關係ニシテ組合ノ與カリ知ル所ニ非サレハ之ニ向テ給料ヲ請求スルヲ得ス又乙二號證改正規則ヲ明治

三十年度ヨリ施行シタル結果始メテ收入役カ會計事務ヲ擔任スヘキコトニナリタルモ同第十

一條ハ手當ヲ支給スト云フニ過キサレハ是レ亦給料ヲ請求スルノ理由ト爲スニ足ラサルナリ

○法令ニ特別ノ規定ナキ場合ニ於テハ訴訟ノ經由ハ總テ訴訟法第二條ノ規定ニ從フヘキモノトス(縣參事會裁決不服ノ訴 明治三十二年第二百十四號
明治三十二年十二月二十七日裁決)

○適法ニ訴訟ヲ經由セサル行政訴訟ハ之ヲ受理セス(同上)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ原告カ大分縣參事會ニ訴訟ヲ提出シタルハ明治三十二年十月二十五日ナリ而シテ大分縣參事會カ與ヘタル裁決ハ十一月二日附ニシテ其裁決書ノ送付ヲ受ケタルハ十一月十日ナリ夫レ如斯久シク期間ノアル間ハ官署ニ留メ置キ訴訟期限ヲ經過セシメテ後與ヘタル大分縣參事會ハ社會臣民ノ權利伸張ヲ妨害シタルモノナルコトハ免レサル事實ナリ何トナレハ若シ訴訟書類ニ不準備ノ廉アルトキハ受理スルノ必要ナキ故其當時書類ノミヲ下渡シ人民ニ期間ニ關係アルモノハ成ルヘク之ヲ注意スルハ素ヨリ行政廳ノ本務ナルニモ拘ハラス久シク參事會ニ書類ヲ留メ置キ出訴人ノ權利ヲ消滅セシメタルハ不當ノ處置ナリ依テ大分縣參事會ノ裁決全部ヲ取消シ正當ナル裁判ヲ請フト云フニ在レトモ訴訟法ハ訴訟ニ關スル普通法ナルヲ以テ他ノ法令ニ特別ノ規定ナキ以上ハ訴訟ノ經由ニ就テハ訴訟法第二條ノ規

定ニ從ハサルヘカラス而シテ郡制ニ於テハ訴願經由ニ關スル特別ノ規定ナキニ由リ縣參事會ニ於テ訴願法第二條第一項ノ手續ヲ履マサル不適法ノ訴願ナリトシ本件訴願ヲ却下セシハ不當ニアラス然ラハ本件ハ適法ニ地方上級行政廳ニ訴願シテ其裁決ヲ經タルモノト言フヲ得サルニ付當裁判所ニ於テ之レヲ受理スルノ限ニ在ラス

○ 稅務管理局長カ甲者ノ所有ニ屬スヘキ開墾地ヲ乙者ノ申告ニ依リ乙者ノ所有地ト處分シタルハ不當ナリト主張シ其處分ノ取消ヲ求ムル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(開墾地不條理ノ處分取消ノ訴 明治三十三年第二十六號 明治三十三年五月十一日裁決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ下總國小金佐倉牧々ニ於ケル開墾事業ハ明治元年ノ頃素ト窮民救助授産ノ爲メニ設ケラレタルモノニシテ右開墾地ハ富民力民ノ各所持地及窮民小作地ノ三種ニ區別セラレ原告共ハ窮民志願ノ者ニシテ土地ノ割渡ヲ受ケテ開墾シ三ヶ年ノ開業入費ヲ小作税ノ名義ヲ以テ十ヶ年賦ニ悉皆償却シ了リタルモノナレハ原告共カ開墾シタル土地ハ悉皆原告共ノ各所有地トナルヘキモノナルニ被告東京稅務管理局長ハ富民ニ屬スル三井八郎右衛門外三十五名ヨリ原告共カ開墾シタル内原告各一戸ニ付開墾地五反五畝歩ヲ割渡スルノ外其他ノ開墾地ハ自分等ノ所有地ナリトシテ申告シタルヲ許容シ明治三十二年十二月十五日附ヲ

以テ右三十六名ノ所有地ト處分シタルハ不當ナルヲ以テ其處分ノ取消ヲ求ムト云フニ在レトモ本件ノ如キハ行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ本訴ハ受理スヘキ限ニ在ラサルモノトス

○ 訴訟費用ノ計算ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(不法訴訟費用要求取消ノ訴 明治三十四年第三十三號 明治三十四年三月二十九日裁決)

○ 織物同業組合正副組長及ヒ評議員就任認可ノ當否ニ付キ法律勅令中行政訴訟ヲ許スノ規定ナシ(違法認可取消ノ訴 明治三十四年第四百七十號 明治三十四年十月二日裁決)

○ 寺ノ檀家總代選定届書ヲ却下シ更ニ其選定ヲ命シタル郡長ノ訓令ヲ不當トシテ之カ取消ヲ求ムル事件ニ付キ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(芳證寺檀家總代届書却下ノ訓令取消ノ訴 明治三十四年第四百四十號 明治三十五年二月十九日裁決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ熊本縣天草郡御領村曹洞宗芳證寺檀家總代十二名ハ適當ニ選定セラレタルモノナルニ天草郡長山中清馬ハ明治三十四年六月二十七日右檀家總代ノ選定届書ヲ却下シ更ニ檀家總代ヲ選定スヘキ旨ヲ訓令シタル該訓令ハ不法ナルヲ以テ其取消ヲ求ムト云フニ在レトモ本件ノ如キハ法律勅令ニ行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ受理スヘキ限ニ在ラ

ス

○村役場備附地圖閱覽請求ノ拒絕ニ對シテハ行政訴訟ヲ許サス(地圖閱覽請求ノ
 訴 明治三十五年第二百一號
 明治三十五年六月三十日裁決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ原告所有ノ土地ヲ役場備附ノ地圖ニ依リ明ニセン爲メ其地圖ノ閱
 覽ヲ村長ニ求ムルモ之ヲ拒絕シ閱覽ヲ許サス依テ郡長ニ請願スルモ處分ノ限リニアラスト云
 ヒ次テ縣知事ニ請願スルモ是亦同一ノ旨趣ヲ以テ却下セラレタリ依テ町村制第百二十條ニ依
 リ行政訴訟ヲ提起スト云フニ在レトモ該條ニハ本件ノ場合ニ對シ出訴ヲ許シタル規定ナキノ
 ミナラス其他法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル條項アラサレハ之ヲ受理スヘキ限リニ在ラス

○選舉權アリト主張シ衆議院議員ノ選舉人名簿ニ登錄スルコトヲ請求スル事件 明治三十五
 ニ付キ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(衆議院議員選舉人名簿ニ關スル訴 明治三十五
 年第二百五十六號
 年十月六日裁決)

〔理由〕 原告ハ衆議院議員選舉權アル者ナレハ該議員選舉人名簿ニ登錄セラル、様裁判セラ
 レタシト云フモノナリ然ルニ本訴ハ其方式ニ於テ缺クルトコロアルノミナラス其事柄モ行政
 訴訟ヲ爲スヲ許サレタルモノニアラサレハ受理スヘキ限ニ在ラス

○貴族院議員ノ選舉人名簿ニ登錄スルコトヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許
 スノ法令ナシ(貴族院議員選舉人名簿ニ關スル訴 明治三十五年第二百五十五號
 明治三十五年十月十日裁決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ原告ハ貴族院議員ノ選舉權アルモノナレハ該議員選舉人名簿ニ登
 録セラル、様裁判セラレタシト云フモノナリ然ルニ本訴ハ其方式ニ於テ缺クル所アルノミナ
 ラス其事柄モ行政訴訟ヲ爲スヲ許サレタルモノニアラサレハ受理スヘキ限リニ在ラス

○縣令ノ取消ニ付テハ行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(縣令取消願ニ對スル不當指
 令取消請求ノ訴 明治三十四年第二百八十七號
 明治三十五年十一月二十六日裁決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ原告ハ明治三十四年十月四日附ヲ以テ被告ニ對シ兵庫縣令汚物掃
 除法施行細則取消ノ請求ヲナシタルニ被告ハ右請求ヲ受理セストノ指令ヲ與ヘタルヲ以テ右
 指令ヲ取消シ更ニ該請求書受理ノ上縣令取消ノ手續ヲ爲スヘシトノ判決ヲ請求スト云フニ在
 レトモ本件ノ如キ縣令取消ニ就テハ法令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ原告ヨリ出訴
 スルヲ得サルモノトス

○出訴期限ヲ經過シタル行政訴訟ハ之ヲ受理セス(登録稅下戻ノ訴 明治三十六年
 第八百號
 十一日裁決)

○訴狀ノ記載不分明ニシテ更ニ要領ヲ得サルトキハ行政裁判法第二十七條ニ所謂適法ノ手續ニ違背セルモノトス(地所勝本請求ノ訴 明治三十六年第二百八十二號) 明治三十六年十月二十二日裁決)

○典獄カ看守ニ對シテ爲シタル免職ノ處分ヲ違法トシ其取消ヲ求ムル事件ニ關シ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(違法處分取消ノ訴 明治三十八年十一月十二日裁決)

〔理由〕 本訴ハ明治三十八年八月二十二日被告典獄カ原告ニ對シ爲シタル免職ノ處分ヲ違法トシ之レカ取消ヲ乞フモノナルモ法律勅令中之ニ付キ行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ受理スヘキ限ニ在ラス

○村役場書記カ村長ニ對シ數回諸所ニ出張セル旅費及ヒ日當ヲ請求シタルモ其下渡ナキコトヲ不當トスル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(旅費日當請求ノ訴 明治三十八年第三百四十三號) 明治三十八年十一月二十二日裁決)

〔理由〕 本件ハ原告カ明治三十四年以來數回諸所へ出張シタル旅費及日當ヲ請求シタルニ理由ナク下渡サレサルニ依リ之ヲ下渡スヘキ旨判決アラシコトヲ請フト云フニ在レトモ本件ノ如キハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタルノ規定ナキヲ以テ受理スヘキ限リニ在ラス依テ本訴ハ

行政裁判法第二十七條ニ則リ之ヲ却下ス

○復祿不許可ノ處分ヲ違法トスル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(復祿請求ニ關スル違法處分取消ノ訴 明治三十九年第二號) 明治三十九年三月七日裁決)

〔理由〕 原告ハ明治三十年法律第五十號ノ公布ニ依リ復祿ノ請求ヲ爲シタルニ被告ハ明治三十八年九月十一日却下シタルヲ以テ右處分ヲ取消シ更ニ原告ノ請求ヲ許容スヘシトノ判決ヲ求ムルモ本件ノ如キ復祿不許可處分ヲ不當トスル事件ハ法律勅令中行政訴訟ヲ爲スコトヲ許シタル規定ナキヲ以テ受理スル限ニ在ラス

○登録商標ノ抹消處分ヲ不法トシ之カ取消ヲ請求スル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(登録商標抹消處分取消ノ訴 明治三十九年第二十八號) 明治三十九年三月九日裁決)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ被告農商務省特許局長カ明治三十八年十二月二十五日原告所有ニ係ル登録第九七一號商標ヲ抹消處分ニ及ヒタルヲ以テ不法ナリトシ之レカ取消ヲ求ムルニ在レトモ本件ノ如キハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ受理スルノ限ニ在ラス

○府縣知事カ或寺院ヲ廢止シ且其寺有不動産ヲ國庫ニ歸屬セシメタル處分ヲ違法トシ之カ取消ヲ求ムル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナ

シ(廢寺不動産官沒不法處分取消ノ訴 明治三十九年第三十一號
明治三十九年三月九日裁決)

〔理由〕 原告ハ觀音寺ハ眞言宗ノ寺院ニシテ寛永十七年ノ創建ニ係リ本尊ハ十一面觀世音菩薩ナリ文久三年火災ニ罹リ本堂及什寶燒失セル以來今日ニ至ル迄未タ本堂再建ニ着手セスト雖一箇ノ寺院トシテ檀徒ヲ有シ住職ヲ置キ以テ人格ヲ有シ佛體及寺有不動産ヲ管理シ來レリ然ルニ被告ハ明治三十八年十二月中甲第一號證ノ如ク廢寺ト爲シ且寺有地十五筆ハ民法第二百三十九條第二項ニ依リ國庫ノ所有ニ歸屬スヘキモノトノ處分ヲ與ヘタリト雖此處分ハ全ク法律ニ背キタルモノニシテ爲メニ原告ノ權利ヲ侵害シタルモノナリ依テ被告カ下シタル原告觀音寺廢寺處分及筑波郡豐村大字青木第四百七番字新道上田二畝八歩外十四筆ノ地所ヲ國庫ノ所有ニ歸セシメタル處分ヲ取消ヲ求ムト云フモ本件ノ如キハ法律勅令中出訴ヲ許シタル規定ナキヲ以テ原告ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス

○縣知事ニ對シ官有荒蕪地貸渡ノ許可ヲ出願セル者カ却下ノ處分ヲ受ケタル場合ニハ縣參事會ニ訴願シ得ヘキ規定ナケレハ縱令參事會ニ訴願シ裁決ヲ經ルモ其出訴期限ハ最初ノ却下處分ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算セサルヘカラス(官有荒蕪地使用許可不當ノ訴 明治三十九年第五十三號
明治三十九年五月十一日裁決)

〔理由〕 原告訴求ノ要旨ハ原告ハ明治三十七年七月二十八日附ヲ以テ宮城縣廳ニ官有荒蕪地砂寄地貸渡ノ許可ヲ出願シタルニ宮城縣知事ハ明治三十九年一月十九日附ヲ以テ却下ノ處分ヲ爲シタルニ依リ縣參事會ニ訴願シタルニ是レ亦却下ノ裁決ヲ受ケタルヲ以テ其處分及裁決ノ取消ヲ請求スト云フニ在レトモ本件ノ如キ場合ニ縣參事會ニ訴願スヘキ規定ナキヲ以テ本件ノ出訴ニ付テハ最初ノ却下處分ヲ受ケタル日ヨリ其期限ヲ算定セサル可カラス然レハ原告ハ右處分書ノ交付ヲ受ケタル明治三十九年一月二十二日ヨリ法定ノ期間六十日ニ民事訴訟法第六十七條ヲ適用シ里程ニ對スル伸長日數十三日ヲ加ヘ七十三日以内即チ明治三十九年四月五日マテニ出訴セサル可カラサルニ原告カ本訴ヲ提起シタルハ本年四月十日ナレハ既ニ出訴期限ヲ經過シタルモノナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ却下スヘキモノトス

○蠶病豫防事務所出張所長カ原告製造ノ原種用蠶種ニ對シテ與ヘタル検査行爲ハ蠶病豫防法施行規則ノ規定ニ違背スルヲ以テ蠶病豫防法第二十二條ニ該當スヘキモノト主張スル事件ニ付テハ同法其他ノ法令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(蠶種検査違法罪施行ノ訴 明治三十九年第五十九號
明治三十九年六月十一日裁決)

〔理由〕 原告訴訟ノ要旨ハ明治三十八年十月中山梨縣南都留郡蠶病豫防事務所瑞穂出張所長

菊崎順作カ原告製造ノ原種用蠶種ニ與ヘタル検査行爲ハ蠶病豫防法施行規則第三十四條及第十三條ノ規定ニ違背スルヲ以テ蠶病豫防法第二十二條ニ相當スルモノナリト謂フニ在レトモ本件ノ如キハ蠶病豫防法其他ノ法令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ受理スルノ限ニ在ラス

○行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得サルモノナレハ其再審ノ申立ハ受理スヘキ限ニ在ラス(官有荒蕪地使用許可不當ノ訴ノ裁決ニ對スル再審ノ申立 明治三十九年第五十三號
明治三十九年六月十三日裁決)

〔理由〕 明治三十九年第五十三號官有荒蕪地使用許可不當ノ訴ニ付明治三十九年五月十一日當裁判所カ爲シタル裁決ニ對シ原告ハ明治三十九年五月二十二日附ヲ以テ再審ノ申立ヲ爲シタルモ行政裁判法第十九條ニ「行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス」トアルヲ以テ本申立ハ受理スルノ限リニ在ラス

○現實區有財産ニアラサル土地ニ付キ町村長ニ對シテ其使用權ヲ請求スル事件ハ町村制第五條ノ範圍内ニ屬セス從テ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノトス(庄屋役地區有確認使用權許可請求ノ訴 明治三十八年第三百十二號
明治三十九年七月九日裁決)

〔理由〕 原告ハ本訴ノ土地ヲ佐賀縣東松浦郡玉島村大字平原ノ區有ト確認シ其使用權ヲ許可スヘシトノ裁判ヲ請フモ本件ハ未タ現實區有財産ニ非サル土地ニ對シテ其使用權ヲ請求スルモノナレハ町村制第五條ノ規定ノ範圍外ニ屬シ隨テ原告ハ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノトス

○陸軍大臣カ官報ヲ以テ受特別賜金者ヲ變更シタル處分ヲ不當トシ其取消ヲ請求スル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(特別賜金下付發令不當訂正處分取消請求ノ訴 明治三十九年第八十九號
明治三十九年十一月七日裁決)

〔理由〕 本訴ハ被告カ明治三十九年六月二十九日ノ官報ヲ以テ明治三十八年七月三日本欄六〇頁下段初行受特別賜金者(青森市大字造見三百九十六番地ノ二近藤きん)ヲ秋田縣北秋田郡阿仁合町銀山七十七番地ノ乙近藤靜夫ニ訂正ストノ處分ハ不當ナレハ其取消ヲ請フト云フニ在レトモ本件ノ如キハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ受理スルノ限ニ在ラス

○法定ノ印紙ヲ貼用セサル訴狀ハ不適法ノモノナルヲ以テ受理スヘキ限ニ在ラス(違法處分ニ對スル訴 明治三十八年第三百七號
明治三十九年十二月十九日裁決)

〔理由〕 原告カ明治三十八年六月十五日附ヲ以テ提出シタル本訴狀ハ法定ノ印紙ヲ貼用セサル不適法ノモノナルヲ以テ受理スヘキ限リニ在ラス依テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴ハ之ヲ却下ス

同一判例 訴願ノ件 明治四十年第三十號 權利被傷害事件ノ訴 明治三十九年第九十九號 俸給ヲ正當ノ理由ナク減額シタル訴 明治四十年第二百五十三號 明治四十年六月十九日裁決 日裁決

○私費ヲ以テ橋梁ヲ架設シ橋錢ノ徵收ヲ許可セラレタル者カ期間滿了前廢業ヲ

届出テタル場合ニ於テ當該行政廳カ右ノ許可指令ニ基キ該橋梁ヲ無償ニテ官有ト爲ス旨ノ命令書ヲ發シタルヲ不當トシ其取消ヲ求ムル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(不當命令取消ノ訴 明治四十年第六十一號 明治四十年六月二十二日裁決)

〔理由〕 本訴ノ要旨ハ原告ハ明治三十二年二月十日附ヲ以テ十勝國河西郡帶廣村國道ヲ貫流スル札内川ヘ私設橋梁ヲ架設シ其費用ノ辨償ニ充ツル爲メ橋錢徵收ノ件ヲ被告北海道廳長官ニ出願シタルニ同年十一月十八日附ヲ以テ八箇條ノ條件ヲ附シ滿五箇年間出願ヲ許可セラレ其後更ニ同三十九年十二月三十日迄私設橋梁設置期間ノ延長ヲ許可セラレタリ而シテ原告ハ同三十九年十二月二十一日附ヲ以テ該橋梁設置ノ廢業ヲ届出タルニ被告ハ同三十二年十一月

十八日附指令第一條ヲ不當ニ解釋シ同四十年四月十二日附ヲ以テ右指令第一條ニ基キ該橋梁ヲ無償ニテ官有トスル旨ノ命令書ヲ發シタルニ依リ之カ取消ヲ求ムル爲本訴ヲ提起スト謂フニ在レトモ本件ノ如キ場合ニ於テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ許シタル法律勅令ナキヲ以テ本訴ハ受理スヘキ限ニ在ラス

○河川法ヲ施行セラレサル河川ノ廢川敷地ノ下戻ヲ受ケタル反別中起訴者ノ村落ニ屬スル地所ナキノ故ヲ以テ當該行政官廳カ引渡ヲ爲サ、ル部分ニ付キ大字村境ヲ訂正シタル上更ニ引渡ノ申請ヲ爲シタルニ對シ不許可ノ決定アリタルヲ不當トシ其引渡ヲ求ムル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(廢川敷地引渡請求ノ訴 明治四十年第六十四號 明治四十年六月二十二日裁決)

〔理由〕 原告訴求ノ要旨ハ愛知縣海西郡八開村大字川北地内佐屋川廢川敷地十町七反九畝七步ノ内七町七反六畝二十九步ハ既ニ原告等ニ引渡ヲ了セラレタルモ残り三町二畝八步ニ對シテハ川北地内ニ屬スル地所ナキノ故ヲ以テ引渡ヲ了セザリシニ依リ大字境界ヲ訂正シ被告知事ニ之カ引渡ヲ申請シタル處許可シ難シトノ決定ヲ與ヘラレタルハ不當ニ付之カ引渡ヲ求ムト云フニ在レトモ佐屋川ニハ河川法ノ施行ナキヲ以テ本件ノ如キハ同法ニ依ルヲ得ザルハ勿

論其他ノ法律勅令中出訴ヲ許シタル規定ナキヲ以テ原告ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス

○行政廳ノ處分ニ對スル抗爭ハ訴願ノ方法ニ依ルヘキモノトス故ニ此方法以外ニ於テ苦情若クハ不服ヲ唱フルモ之ヲ以テ適式ナル訴願ト同視スルヲ得ス(非常特別稅納稅告知書取消ノ訴 明治四十年第四百二十五號
明治四十年十月三十日宣告)

〔理由〕 本訴ノ要旨ハ八王子稅務署長德久並男カ明治四十年三月十九日附ヲ以テ發シタル非常特別稅告知書ハ不當ノ賦課ナルヲ以テ其取消ヲ求ムト云フニ在レトモ原告ノ訴狀ニ依レハ原告カ八王子稅務署ヨリ納稅通告書ノ交付ヲ受ケタルハ明治四十年三月二十三日ニシテ之ニ對シ被告ニ訴願ヲ爲シタルハ同年八月八日ナルヲ以テ訴願提起期間ヲ經過シタルコト明カナリ原告ハ訴願法第八條ニ規定セル六十日ノ訴願期間ハ處分ニ對シ何等抗爭ヲ爲サスシテ六十日ヲ經過シタル場合ニ適用シ本件ノ如ク其處分ニ對シ抗爭シタル結果特別稅法違犯被告事件起リ豫審ノ審理ヲ受ケタルモ原告ハ免訴ノ決定ヲ受ケタル場合ニ適用スヘキモノニアラス假リニ之ヲ適用スルモノトスルモ此ノ如キ場合ニハ同條末項ニヨリ宥恕スヘキ事由ト認メ之ヲ受理スヘキモノナリト主張スレトモ行政廳ノ處分ニ對スル抗爭ハ訴願ノ方法ニ依ルヘキモノ

ナルカ故ニ此方法以外ニ苦情若クハ不服ヲ唱フルトモ之ヲ以テ適式ナル訴願ト同一視スルコト能ハサルハ辯ヲ俟タス又宥恕スヘキ事由ノ有無ハ當該官廳ノ自由裁量ニ屬スルヲ以テ本件ニ付期間經過ヲ宥恕セザリシトテ不服ヲ訴フルヲ得ス要スルニ處分後六十日以内ニ提出セザリシ本訴訴願ヲ却下シタル處分ハ正當ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ所謂適法ノ手續ニ違背スルモノニ該當スルニヨリ却下スヘキモノトス

○裁判所カ原告ニ對シ期間ヲ指定シテ訴狀ニ相當印紙ヲ貼用シ且豫納金ヲ納入スヘキ旨ヲ命シタルモ原告ニ於テ該期間内ニ補正ノ手續ヲ爲ササルトキハ其訴願ヲ却下スヘキモノトス(權利回復ノ訴 明治四十年第九十三號
明治四十年十一月五日裁決)

〔理由〕 原告カ明治四十年七月三十日附ヲ以テ提出セル權利回復ノ訴ト題スル訴狀ハ相當印紙ノ貼用ナキヲ以テ當裁判所ハ九月十六日ヲ以テ同月三十日迄ニ非常特別稅法ノ規定ニ從ヒ訴狀ニ金七圓ノ印紙ヲ貼用スヘク且ツ行政訴訟豫納金手續ノ規定ニ從ヒ金二圓ヲ納入スヘク通達シタルニ原告ハ右期限ヲ經過スルモ尙補正ノ手續ヲナサ、ルヲ以テ本訴ハ不適法ニシテ受理スヘキ限ニ在ラス

○耕地整理發起ノ認可ニ對シテハ耕地整理法其他ノ法律勅令中行政訴訟ヲ許シ

タル規定ナシ(不當認可取消請求ノ訴 明治四十年第百六十八號
明治四十一年一月二十七日裁決)

〔理由〕 本訴ノ要旨ハ原告等ノ隣村ナル三妻村落合島次郎外二十八名カ同村外二个村ノ聯合耕地整理ヲ發起シテ恣ニ原告等ノ所有地ヲ其整理地區内ニ編入シ且ツ原告等ノ耕地ニ於ケル水害防禦用ノ堤塘ヲ取崩シテ更ニ其下方ニ排水溝渠ヲ新設スルノ設計ヲナシ其認可ヲ被告農商務大臣ニ申請シ明治四十年一月四日發起認可ヲ得タリ然ルニ右認可申請書ニ添附セル原告三坂新田區民ノ同意書ナルモノハ全ク變造ニ係ルコトヲ發見セルノミナラス右耕地整理施行ノ曉ハ原告等耕地ニ於ケル堤防ハ破却セラレ非常ノ水害ヲ被ルニ至ル可キハ必然ナルヲ以テ被告ノ與ヘタル認可取消ノ判決ヲ求ムト云フニ在レトモ耕地整理發起認可ニ對シテハ耕地整理法其他法律勅令中行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナキヲ以テ本訴ハ受理スヘキモノニ非ス

○舊庄屋役地中個人名義アルモノ、登記取消ヲ求ムル事件ニ付テハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(庄屋役地ニ付個人名義アル登記名面取消請求ノ訴 明治四十一年第二十二號
明治四十一年二月十四日裁決)

〔理由〕 本訴ノ要旨ハ公簿上個人所有名義ノ東松浦郡鬼塚村大字山本字小森二百四十九番田一畝一步外五十五筆ノ地所ハ當テ舊庄屋稻葉半九郎外二名ノ所有名義ナリシ庄屋役地ナルヲ以テ庄屋ノ廢止セラレタル今日ニ於テハ實質上村有ニ屬スルコト明カナレハ被告村長ニ對シ前示土地ニ付個人名義アルモノ、登記取消ヲ求ムト云フニ在レトモ本件ノ如ク町村有ノ財產使用ノ權利ニ關セサルモノハ法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ受理スル限ニ在ラス

第二類 地方制度

(一) 町村境界争論ニ關スル件

○町村制第五條ハ町村互ニ境界ヲ争フ場合ヲ規定シタルモノナレハ郡長カ發シタル村界變更ノ訓令ヲ不當ナリト主張スル場合ニ適用スヘキモノニアラス(違法訓令取消請求ノ訴 明治二十七年第四十一號
明治二十七年十月二日裁決)

○町村ノ境界ヲ定ムル爲メニ發シタル郡長ノ訓令ヲ取消サンコトヲ請求スル事件ニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(同上)

〔理由〕 原告請求ノ要旨ハ原告村ノ内大字寺畑六百一番畑ト六百二番畑トハ小貝川ヲ通シテ本村ニ繼續シ引テ筑波郡十和村大字川又地内ニ差込地トナリ居ルヲ以テ曩ニ被告郡長現場へ出張ノ節ニ於テ現時ノ境界ニ倣ヒテ境界標ヲ建テタル事實アリ又明治十五年地籍調ノ際ニ於テモ關係村總代立會ノ上同所ニ境杭ヲ建テ明治二十年ニ至リテモ立會ノ上再調査ヲ爲シタルニ付キ兩村ノ境界ハ既ニ確定シ十和村ニ於テモ之レニ對シ會テ異議ヲ唱ヘタルコトナカリ然ルニ被告ハ明治二十七年一月十六日附ヲ以テ原告村大字寺畑ヨリ十和村大字川又地内ニ差込

ミ居ル土地ハ飛地ナルヲ以テ之レヲ十和村ニ引繼クヘキ旨訓令シ爲メニ兩村ノ境界ヲ錯亂セシメタルノミナラス既定ノ界線ヲ變更セシメントセリ又茨城縣知事ハ本件ニ關スル原告ノ訴願ニ對シ法律勅令ニ明文ナシトノ理由ヲ以テ之ヲ却下セラレタレトモ原告ハ兩村ノ境界ヲ確メンカ爲メニ違法ノ訓令ヲ排除センコトヲ請求スルモノナレハ法律ノ允許セル當然ノ請求ナリト確信ス即チ町村制第五條中ニ所謂町村ノ境界ニ關スル争論トハ其争論ノ監督應ト人民ノ間ニ生スルト一私人ノ間ニ生スルトヲ問ハス苟モ町村ノ境界ニ關スル以上ハ均シク之ヲ網羅スルモノナレハ原告ノ請求ハ適法ノモノナリト信ス依テ明治二十七年六月十四日茨城縣知事ノ與ヘタル不法裁決ト同年一月十六日被告ノ發シタル違法訓令トヲ取消シ兩村境界ハ現存境界ノ如ク小絹村大字寺畑地盤ノ盡クル所ナリト判決アラシコトヲ請フト云フニ在レトモ町村制第五條ハ町村ノ境界ニ關スル争論ハ郡參事會之ヲ裁決ス云々トアリテ市町村互ニ境界ヲ争フ場合ヲ規定シタルモノナレハ本件ノ場合ニ適用スヘキモノニアラス又其他ノ法律勅令ニ依ルモ本件ニ付行政訴訟ヲ許シタル規定アラサルヲ以テ之ヲ受理スルノ限リニ在ラス

○原被立會ノ上調製シタル圖面ニ依リ境界明確ナル以上ハ縱令爾後納稅シタル事實アルモ論地ヲ自己ノ地域内ナリト主張スルノ證據ト爲スニ足ラス(縣參事

會裁決不服ノ訴 明治二十八年第四十四號
明治二十九年五月九日宣告

〔理由〕 原告ニ於テ被告カ自己ノ地盤ナリト主張スル本件論地ハ長方形ノ芝生地ナリシヲ明治九年原告被告兩村協議ノ上分屬ト爲シ兩村村長及地主總代立會甲第二號證ノ如キ圖面ヲ調製シ尙明治十一年四月中雙方ニ於テ其境界ニ捺印シ明確ノモノト爲リテ原告村ニ屬スルモノハ字升形第四千三百七番ニ該當スル原野ナルコトハ甲第三號證及甲第四號證ニ照スモ一目判定スルヲ得可ク且之ニ對スル租稅其他公課ヲモ今日マテ納メ來リタルモノニテ論地ト被告村地盤トハ嚴然タル區別ヲ爲シ明劃ナル境域存在シ其以北ニ一樹ノ植付ナキハ兩村共甲第二號證乙第三號證ニ服從シ互ニ相侵サ、ルノ結果ナリ被告カ論地内トシテ舉證セル所ハ悉ク被告村大字出沼地内ニシテ全ク論地トハ地盤ヲ異ニスルモノナルニ茨城縣參事會ハ同一ノ箇所カ兩地ノ地盤ニ編入セラレアルモノ、如ク認定シ被告提出ノ乙第一二號證ヲ以テ裁決ノ資ニ供シタルハ不法ナル趣主張スト雖甲第二號證成立ノ當時即チ明治九年被告村ニ於テ調製シ茨城縣廳ニ納付セシ地圖及其副本ナル乙第三號證ニ據レハ共ニ二重線中ニ松並木ノ形容ヲ畫キ一見シテ兩村ニ異議ナキ官有地即チ甲第一號證中ノ四千二百九十八番及四千三百十九番ニ適合スルモノヲ示シ且之ニ論地外ヨリ連續シ來ル朱點線ヲ施シアルニ拘ラス恰モ甲第二號證ニ被

告村村長及地主總代ノ連署アルカ如ク明治十一年四月原告村當時ノ村長會根項作及地主總代ノ連署ヲ以テ村界ニ後來紛議ナキ爲メ之ヲ承認シ境界線ニ捺印シタルモノナリ茲ニ因テ之ヲ觀レハ甲第二號證中朱點ヲ施シタル境界線モ亦確實ナリト信スルニ足ラス又甲第三號證地引帳ハ明治九年甲第四號證土地臺帳ハ明治十二年ノ調製ニシテ地圖調製ノ當時及其後年ニ係ルモノナレハ假令爾來納稅シタル事實アリトスルモ本件論争ニ付テハ證據ト爲スヘキモノニアラス又論争地ハ元一區ノ芝生地ナリシヲ兩村ニ分屬セシメ其原告村ニ屬シタル部分ニシテ被告カ論地内トシテ舉證セル所ハ悉ク被告村大字出沼地内ナレハ全ク論地トハ地盤ヲ異ニスルモノナリトノ主張ハ分割ノ事實ヲ認ムヘキ實地ノ形跡及證據ナキヲ以テ其根據ナキモノトス而シテ原告被告兩村ノ境界ハ論地外西方ニ於テ甲第二號證乙第三號證共ニ男池北畔ノ朱點線ヲ以テ雙方認諾シ來リ尙其實地ニ在リテハ幾箇ノ土塚ヲ築キ以テ兩證圖面ノ朱點ニ適合スル境界線ヲ表示シ延テ論地ニ入り一直線ノ空壕ハ原告モ其成立ヲ認メタル乙第十三號證ノ二行方郡長飯島矩道ヨリ縣廳ニ差出シタリトスル出沼村字原並木敷圖面中南北ニ横ハル地域ニ遠シ壕中尙七座ノ土塚存在スルモノハ即チ兩村ノ境界ナリト認メサルヲ得ス加之鑑定人ノ鑑定ニヨリ元祿三年ノ成立ニ係ルコトノ明ナル乙第一二號證中百里海道迄段々塚ヲ築キ云々或ハ

百里海道迄ハ兩村御林境目堀切六七十間ニ一塚宛ヲ御築被成云々ト記載シアルハ論地ノ實況ヲ知ルニ足ルモノナリ故ニ本件論地ハ被告玉川村大字出沼字原千三百二十七、千三百七十七千三百七十八ニ該當シ原告手賀村被告玉川村ノ境界ハ手賀村字唐ヶ崎四千二百九十八番即松樹ノ竝立セル官有地ノ南側ニ沿ヒ土塚ノ現在スル空塚ナリトス

○ 郡參事會ハ何時ニテモ町村ノ境界ヲ變更スルノ議決ヲ爲スコトヲ得(争論地籍決定ノ訴 明治三十年第三十六號
明治三十年十二月一日宣告)

○ 郡參事會カ町村境界ヲ變更スルノ議決ヲ爲スニ當リ關係町村會ノ意見ヲ聞カサルモ其議決ハ無効ニアラス(同上)

○ 町村ノ境界ヲ變更スル郡參事會ノ議決ニ對シ訴願及訴訟ヲ許スノ法令ナシ(同上)

〔理由〕 原告ハ最初旭村ヨリ町村制第五條ニ依リ本件地籍決定申請書ヲ提出セシトキ郡參事會ニ於テハ必ス先ツ其裁決ヲ爲スヘキニ却テ同制第四條ヲ濫用シ境界變更ヲ議決シ以テ裁決ノ理由ヲ構造シ而カモ關係村タル旭村ノ意見ヲモ聞カス是レ法律上全ク無効ノ議決ナリ故ニ先ニ原告ヨリ郡參事會ニ申請セシカ如ク本件濱地ヲ以テ原告村倉部區ノ所屬ナリト判決セラ

レシコトヲ請フト云フト雖町村制第四條第二項ニ町村境界ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル町村會及ヒ地主ノ意見ヲ聞キ郡參事會之ヲ議決ストアルヲ以テ見レハ郡參事會カ町村境界ノ變更ヲ必要ト認ムルトキハ訴願ノ有無ニ關係セス何時ニテモ之ヲ議決スルノ權アリ故ニ假令原告村ヨリ訴願提出ノ後ニ於テ境界ヲ變更ストモ之ヲ以テ無効ノ議決ナリト云フヲ得ヌ又同條ニ關係町村會ノ意見ヲ聞キ云々トアルモ其意見ヲ聞カサレハ無効ナリトノ規定ニアラス而シテ該議決ニ對シテハ訴願及訴訟ヲ許スノ規定ナシ然ラハ本件郡參事會カ爲シタル境界變更ノ議決ハ有效ニシテ且確定ノモノト謂ハサルヘカラス而シテ本件争論地タル一町二反歩ノ濱地ハ明治二十九年十月二十一日ヲ以テ石川郡參事會カ町村制第四條ニ依リ出城村字竹松ノ所屬ニ變更シタルコト丁第一號證乃至丁第四號證ニ據テ明カナリ然ラハ該濱地ハ已ニ郡參事會ノ議決ニ依リ其所屬確定シタルモノナレハ右議決以前ニ在リシ境界ノ争論ハ自カラ消滅シタルモノナリトス

○ 地籍未定ノ地カ甲乙孰レノ村ニ屬スヘキヤノ争ハ町村制第五條ニ所謂町村ノ境界ニ關スル争論ニアラス(村界争論事件 明治三十五年第五號
明治三十六年三月十八日宣告)

○ 神領地ト村域トハ各別箇ノ性質ヲ有シ必ス隨伴又ハ合體スヘキモノニアラサ

レハ他ニ證憑ナキ限りハ神領地ヲ以テ村域ト認ムルコトヲ得ス(同上)

〔理由〕 當事者間ニ於ケル立證ハ孰レモ村界又ハ所屬地籍ヲ證明スルモノナクシテ係争地ハ地籍未定ノモノナルヲ以テ町村制第五條ニ該當スル争論ニアラス然ルニ長野縣參事會ハ之ヲ受理シテ飯繩山ハ天保十三年裁許ノ時ヨリ戸隱神領ヲ離レ飯繩神領ニ歸シタルモノニシテ現今ノ芋井村ハ舊廣瀬村外六ヶ村ト荒安村トヲ以テ成立シタルモノナレハ戸隱神領ヲ包有スヘキ理ナシトノ理由ヲ以テ直ニ飯繩神領ヲ被告村ノ地籍ト裁決シタルモ領地下村域トハ各別箇ノ性質ヲ有シ必隨伴又ハ合體スヘキモノニアラサレハ他ニ證憑ナキ限ハ領地ヲ以テ村域ト認定シ能ハサルモノトス而シテ天保十三年ノ裁許ニ付テハ乙第一號證ニ對シ同十五年ノ事件ニ付テハ乙第二號證ニ對シ説明シタル如ク所屬地籍ヲ定メタルモノニアラサルヲ以テ同參事會ノ裁決ハ證據ノ認定ヲ誤リ且違法ノモノトス又郡參事會ハ本件ハ原告被告ニ於テ地籍ヲ判明ナラシムルニ足ルモノナシト事實ヲ認メタルニモ拘ハラズ之ヲ町村制第五條ニ依ル村界ノ争論トシ裁決シタルハ適法ノモノニアラス

○原告村ノ舊戸長又ハ大字總代カ文書ヲ以テ係争地ノ被告村ニ屬スルコトヲ認諾シタル場合ト雖モ其認諾ハ村界ニ關スル地籍ニ何等ノ效力ヲ及ホサス(村界

争論ノ訴 明治三十六年第四百十八號
明治三十八年十二月四日宣告

〔理由〕 甲第一號證ノニナル貞享元年ノ明細帳甲第二號證ノ一ナル天保十五年謄寫ノ狸森村繪圖甲第十三號證明和元年ノ狸森村指出明細帳ハ被告之ヲ認メサルモ當裁判所ハ鑑定人三名ノ意見ニ依リ真正ニ成立セシモノナリト認ム而シテ右甲第一號證ノニナル明細帳ヲ閱スルニ其前文ニ數多ノ地付森及山野ヲ掲載シ其末文ニ「右者此度小白府狸森兩村地付林並ニ山野入會山ニ拘リ里方六ヶ村及山論ニ六ヶ村ヨリ御公訴仕」トアレハ該前文掲載ノ地付林及山野ハ小白府村狸森村内ノモノニシテ里方六ヶ村ナル長谷堂村即チ被告村等カ右地付林及ヒ山野ニ付狸森村即チ原告村等ニ對シ訴訟ヲ爲シタル末此明細帳ノ成立セシコトヲ知ルニ足レリ又其地付林及ヒ山野ヲ二箇ニ區別シテ掲載シ一ハ之ヲ結フニ「右是迄ハ小白府村地付林山野ニ御座候」ト記載アレハ他ノ一ハ狸森村内ノ地付林及ヒ山野ナルコトヲ知ルニ足レリ又其狸森村内ノ山野六ヶ所ハ即チ本訴係争山ナレハ係争山カ狸森村即チ原告村ノ山ナルコト知ルヘキナリ又甲第二號證ノ一ナル狸森村繪圖ニ依レハ本訴係争山ハ狸森村境界内ニ在リ又甲第十三號證狸森村指出明細帳ニ本訴係争山ハ狸森村内ノ山トシテ記載シ且其末尾ニ記載セル同村周圍ノ境界書ニ依レハ係争山カ狸森村境界内ニ屬スルコトヲ知ルニ足レリ以上ノ諸證ニ依リ本訴

係争山ハ古來狸森村即チ原告村内ノ地籍ナリト認ムルヲ相當トス被告ハ本訴係争山ヲ以テ被告村ノ地籍ナリト主張シ數多ノ證據ヲ提出スルモ其主要ノモノハ乙第一、乙第二、乙第三、乙第四、乙第七、乙第八、乙第九、乙第十一、乙第十四、乙第十五、乙第二十八等ノ諸證ニ過キス然ルニ乙第一安永九年ノ裁許狀ニ柴草山ト稱スル入會山ヲ長谷堂村即チ被告村内ノ山トシテ記載セルモ同裁許狀及ヒ原被ノ陳述ニ依レハ該柴草山ト本訴柴草山トハ入會村ヲ異ニシ且ツ其位置果シテ本訴柴草山ニ該當スルモノト認メ難キヲ以テ本訴ノ證ト爲スヲ得ス又其乙第七弘化三年長谷堂村御林反別書上帳ニ係争山ナル字倉角山字今内山ヲ記載セルモ又其乙第十四弘化三年ノ長谷堂村隔間山反別並御拂代書上帳ニ係争山字倉角山ノ役永ヲ南館村ヨリ年々上納ノ旨記載セルモ又其乙第二十八明和元年ノ長谷堂村明細帳ニ本訴係争山カ長谷堂村狸森村等八个村ノ入會山ナル旨ヲ記載セルモ孰レモ其記載或ハ一部分ニ止リ或ハ彼此符合セス或ハ不明確ナル等信ヲ措キ難キノミナラス甲第十三號證明和元年ノ狸森村指出明細帳ニ本訴係争山ヲ同村即チ原告村内ノ山トシテ記載セルヲ以テ被告ヨリ別ニ立證ナキ限リハ右乙第七乙第十四乙第二十八ノ諸證ハ本訴係争山カ古來被告村内ノ山タルコトヲ證スルニ足ラス又其乙第十五享保十三年ノ山方差出帳ニ本訴係争山ヲ記載セルモ同帳ハ長谷堂村狸森村連署差出シ

タルモノニシテ別ニ係争山カ長谷堂村内ノ山タルコトヲ明記セサルノミナラス係争山ノ内今内山倉角山ノ如キハ反テ「狸森村御林」ト記載シアレハ該證ヲ以テ本訴係争山カ古來被告村内ノ山タルコトヲ證スルニ足ラス又其乙第八明治八年ノ柴草茹取場拜借願乙第九明治八年ノ雜稅取調書乙第十一明治二十三年ノ誓約書ニ長谷堂村ヲ本訴係争山ノ地元トシテ記載セルモ明治八年又ハ明治二十三年ニ成立セシモノナレハ之ヲ以テ係争山カ古來被告村内ノ山タルコトヲ證スルニ足ラス又狸森村戸長若クハ大字狸森總代カ該諸證ヲ以テ被告村内ノ山タルコトヲ認諾シタリトスルモ其認諾ハ村界ニ關スル地籍ニ何等ノ效力ヲ及ホスヘキモノニアラス況ンヤ甲第四十一號證甲第三十六號證甲第三十七號證甲第四號證乙第十九號證等ニ依レハ原告カ右乙第八、乙第九、乙第十一ノ諸證ヲ以テ被告村内ノ山タルコトヲ認諾シタリト認ムヘカラサルニ於テヤ又乙第二、乙第三、乙第四ノ諸證ニ記載スル山漆實役ハ係争山ニ對シ納メタルコトヲ知り得ヘキ記載ナキヲ以テ本訴ノ證ト爲スニ足ラス其他ノ乙號諸證皆被告ノ主張ヲ證スルニ足ラサルヲ以テ本訴係争山ハ古來長谷堂村即チ被告村内ノ地籍ナリト認ムルヲ得ス

(二) 道府縣會議員選舉ニ關スル件

○ 府縣會議員ノ選舉ハ匿名投票ナルヲ以テ自選投票アリト斷定シ得ト雖モ之ヲ

以テ既ニ適法ノ手續ヲ經テ結了シタル選舉ニ對シ其效力ヲ爭フコトヲ得ス(縣會議員選舉效力ニ係ル裁決不服ノ訴 明治二十四年第六十二號 明治二十五年一月十二日宣告)

〔理由〕 原告ハ自己ノ爲セル投票中ノ被選員數ヨリ推シテ當選者中ニ自選投票アリト断定シ其投票ヲ無効ニ歸セシメンコトヲ請求スト雖モ府縣會議員ノ選舉ハ府縣制第三條ニ依リ匿名投票ナルヲ以テ當然ノ手續ヲ經テ選舉ヲ結了シタル以上ハ該選舉ニ對シテ自選他選ノ別ヲ爭フコトヲ得サルモノトス

○ 縦合地租十圓以上ヲ納租スヘキ地所ノ所有權ヲ得タルヨリ縣會議員選舉ノ當日マテ一年以上ニ及フモ自己ノ名義ヲ以テ一年以來直接國稅十圓以上ヲ納租シタルモノニアラサレハ被選權ヲ有セス(縣會議員選舉不當取消請求ノ訴 明治二十四年第五十九號 二十五年一月二十六日宣告)

〔理由〕 原告ニ於テ明治二十三年七月三十日地所ヲ買受ケ他ノ所有地ト合計シ金十圓以上ヲ納租ス可キ義務ヲ負擔シ即チ縣會ノ被選人タル權利ヲ完備シタルモノナリト主張スト雖モ府縣制第四條府縣内市町村ノ公民中選舉權ヲ有シ其府縣ニ於テ一年以來直接國稅十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會ノ被選權ヲ有ストアレハ假令地所ノ所有權ヲ得タルヨリ議員選舉ノ當日マテ

一年以上ニ及フモ直接國稅十圓以上ヲ一年以來納ムル者ニアラサレハ被選權ヲ有スル者ト言フ可ラス然ルニ原告ハ地所ヲ買受ケタル當時ニ在テ其納租期內自己ノ名義ヲ以テ納租シタルニアラス故ニ明治二十四年八月二十日開キタル縣會議員選舉會ニ於テハ未タ被選人タルノ資格ヲ有セサルモノナリ依テ該選舉ハ原告ニ對シ不當ノ處分ナキヲ以テ之ヲ取消ス可キ理由ナシトス

○ 府縣制第三條ニ郡會及郡參事會ノ會同云々トアルハ郡制第三十三條及第五十三條ニ準據シテ選舉會ヲ開クノ意ナリトス從テ定數ニ充タサル出席者ヲ以テ郡會及郡參事會ノ會同會ヲ開キテ執行シタル府縣會議員ノ選舉ハ違法ナリ(縣會議員選舉取消請求ノ訴 明治二十四年第八十八號 明治二十五年三月三十一日宣告)

〔理由〕 被告ハ府縣制第三條ニ郡會郡參事會會同云々トアルハ郡會員郡參事會員其人ノ會同ヲ以テ選舉スルノ規定ニシテ其出席員數ノ多寡ハ固ヨリ同制ノ間フ所ニアラス故ニ羽咋郡役所ニ於テ開設シタル選舉ハ有效ノモノナリト云フト雖抑府縣制第三條ニ郡會郡參事會會同云云トアルハ該會カ會同シテ府縣會議員選舉會ヲ開クノ規定ナレハ郡制第三十三條及第五十三條ニ準據シテ決議ヲ爲シ得ヘキ定數ノ出席者アルニ非サレハ其會同會ヲ開キ及其選舉ヲ執行

スルヲ得サルモノタリ依テ本件ノ如ク僅ニ六名ノ出席員ヲ以テ郡會郡參事會ノ會同會ヲ開キ縣會議員ヲ選舉シタルハ適法ノ處置ニアラサルモノナレハ其選舉ヲ有效ナリト云フヲ得サルモノトス

○選舉會結了ノ後ニ至リ無効ノ投票アリシコトヲ主張スルニハ其投票ヲ爲スノ當時ニ於テ無効トナルヘキ原因ノ存在セル確證アルコトヲ要ス(投票ノ效力ニ關スル秋田縣參事會ノ裁決不服ノ訴 明治二十四年第八十四號 明治二十五年四月八日宣告)

〔理由〕 本件所爭ノ要點ハ三浦盛徳得點中一票ノ裏面ニ記入セル文字ハ選舉會ニ於ケル投票點檢ノ以前ヨリ存在セシモノナルヤ否ヤニ在リトス而テ被告ハ選舉會閉會ノ後選舉人ノ申立ニ依リ更ニ之ヲ調査セシニ果シテ其記入アルヲ發見シタル以上ハ假令議事録ニ此事ヲ記載セストモ是即チ選舉ノ效力ヲ爭フヘキ證據物ナリ隨テ秋田縣參事會カ該票ヲ無効ト認定セシハ不當ノ裁決ニ非スト云フト雖元來選舉會場ニ於テ既ニ投票ヲ點檢シ當選人ヲ報導シ議事録ヲ作り閉會ヲ告ケ渾テ式ノ如ク選舉ヲ結了シタルヲ以テ投票ハ總テ廢紙ト見做シ閉會後ニ之ヲ封緘シタルモノナレハ若シ閉會後投票無効ノ原因アリト主張スル者ハ確固タル證據ナカルヘカラス即チ三浦盛徳得點ノ一票裏面ニ記入セル文字ハ其投票ノ當時既ニ記入セルコトヲ證明

セサルヘカラス然ルニ秋田縣參事會ノ裁決ニ依ルモ被告ノ陳辯ニ依ルモ管ニ裏面ノ文字今日現在スト云フニ止マリ其投票ノ當時ニ記入セシ證據ナキモノナレハ無効ノ投票ト爲スヲ得サルモノトス

○縣會議員ヲ選舉スルハ府縣制第三條ニ依ル郡會議員ノ任務トス(縣會議員選舉ノ件不服ノ訴 明治二十四年第六十九號 明治二十五年四月九日宣告)

○大地主ニシテ郡會議員タル者ハ郡制第十二條ニ依リ代人ヲ以テ其權利ヲ行フコトヲ得ヘキモノトス(同上)

○大地主ニシテ郡會議員タル者ハ代人ヲ以テ縣會議員選舉ノ投票ヲ爲スコトヲ得(同上)

○府縣制第三條中投票ハ選舉人自カラ會長ノ面前ニ於テ云々トアルハ郡制第十八條第四ト同一ノ意義ニシテ大地主ニ許與シタル特權ヲ減殺スルモノニアラス(同上)

〔理由〕 明治二十四年八月十五日吉田郡ニ開キタル縣會議員選舉會ハ原告ニ於テ第一會場ニ於テ渡邊環ノ當選ハ其奸計暴行ノ所爲ニ由テ得タル無効ノモノナリト云フト雖モ別ニ奸計暴

行ヲ爲シタル舉證ナキ以上ハ其事實アリタルモノナリト認ムルヲ得ス第二縣會議員選舉會ニ於テハ大地主ト雖モ代人ヲ以テ投票ヲ爲サシムルコトヲ得ルノ特權ヲ許與シタルノ明文ナキニ由リ之ヲ有スルモノニアラスト云フト雖モ縣會議員ヲ選舉スルハ郡會議員ノ任務ナルコト府縣制第三條ニ規定スル所ナリ而シテ大地主ニシテ郡會議員タル者ハ代人ヲシテ其權利ヲ行ハシムルコトヲ得ルハ又郡制第十二條ニ規定スル所ナリ既ニ代人ヲシテ郡會議員ノ權利ヲ行ハシムルコトヲ得ルモノナレハ即チ其任務ナル縣會議員選舉ノ投票ニ至リテモ代人ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得ルハ當然ニシテ郡會ニ於テ他ノ任務ヲ行フト何ソ擇ハン故ニ府縣制第三條中投票ハ選舉人自ラ云々ハ郡制第十八條第四ト同一ノ意義ニシテ一般投票者ノ行爲ヲ示シタルニ止リ大地主ニ許與シタル特權ヲ減殺スルモノニアラス依テ本會ノ選舉ハ違法ノ所爲ナキモノトス

○豫告シタル閉會時間前ニ選舉會ヲ終了スルハ違法ニアラス故ニ遲參ノ爲メ投票ヲ行フコトヲ得サリシ理由ヲ以テ其選舉會ヲ取消スコトヲ得ス(縣會議員選舉取消ノ訴 明治二十四年第七十六號 明治二十五年四月十三日宣告)

〔理由〕 原告ハ既定ノ閉會時刻午後第三時ヲ自由ニ變更シテ午後第二時二十分ニ選舉會ヲ結

了シタルハ其有スル投票權ヲ行フコトヲ制限シタル違法ノ選舉會ナリト云フト雖モ甲第二號證ノ縣會議員選舉會ノ開閉時刻ヲ示シタルハ開會中ノ時間ヲ豫告スルモノナルコトハ甲第三號證ニ於テ參集時限ヲ午前第九時ト明記シタルニ依リテモ知ル可クシテ閉會ノ時刻午後三時マテヲ以テ投票ノ時刻ト爲シタルモノニアラサルコト明カナリ且該選舉ハ郡會郡參事會會同シテ有效ニ終了シタルモノナレハ原告自ラ遲參ノ爲メ投票權ヲ行フコトヲ得サリシヲ以テ違法ノ選舉會ナリト云フト得ス依テ明治二十四年七月二十日小縣郡役所ニ於テ執行シタル縣會議員選舉會ハ取消スコキ理由ナキモノトス

○被選人中投票ニ記載セル氏名ノ者ナクシテ最モ能ク類似スル氏名ノ者アル場合ニハ其最モ能ク類似スル氏名ノ者ヲ指示シタルモノト認定スルヲ至當トシ被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノト爲シ其投票ヲ無効トスルハ不當ナリトス(縣會議員選舉取消ノ訴 明治二十四年第七十九號 明治二十五年四月二十二日宣告)

〔理由〕 被告ハ本件縣會議員選舉ニ於ケル投票中小野順太小野寺順及小野寺順吉ト記載シタル三票ハ各其人ヲ指示シタルモノナリト云ヒ又此三票ハ何人カ何人ヲ選舉シタルモノナルヤ判然セサルヲ以テ府縣制第三條第二ノ二ニ依リ無効ニ決シタリト云フト雖此三票ニシテ果シ

テ各其人ヲ指示シタルモノナリトセハ之レヲ以テ府縣制第三條第二ノ二ニ該當スルモノトナシ無効トスルヲ得サルモノタルナリ然ルニ既ニ之ヲ無効ト爲シタル以上ハ被告ハ此等ノ投票ニ適合スル被選舉人ノ無キコトヲ認メタルモノト言ハサルヲ得ス抑法律ニ所謂被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノト爲シ投票ヲ無効トスル場合ニ方リテハ現投票ニ付之レカ査定ニ注意シ被選人中投票ニ記載セル氏名ノ者ナク而シテ却テ之レニ最モ能ク類似スル氏名ノ者アルカ如キ場合ニハ其投票記載ノ氏名ハ被選人中其最モ能ク類似スル氏名ノ者ヲ指示シタルモノナリト認定スルヲ至當ト爲ス即チ本件投票ノ如キハ被選人中投票ニ記載セル氏名ノ者ナキヲ知ル以上ハ被選人中之レニ最モ能ク類似スル小野寺順太ノ氏名ヲ記載セントシテ其氏名中字ヲ脱落シ或ハ字畫ヲ誤リタルモノト認定スルニ足ルヘキヲ以テ府縣制第三條第二ノ二ニ該當スルモノトナスヲ得ス

○郡ニ於テ行フ縣會議員選舉會ニハ郡會議員及郡參事會員共ニ半數以上會同スルコトヲ要ス(縣會議員選舉取消ノ訴 明治二十五年第四百二十六號 明治二十六年四月六日宣告)

○郡會及郡參事會ノ會同會ニ於テ郡會議員ニシテ郡參事會員ヲ兼スタル者ヲ郡會議員及郡參事會員ノ出席定數ニ複算シタルハ違法ナリ(同上)

〔理由〕 被告温井重次郎ハ郡會議員ニシテ郡會ノ互選ニ依リ郡參事會員ト爲リタル者ナレハ郡會ニ在テハ郡會議員ノ資格ヲ有シ郡參事會ニ在テハ郡參事會員ノ資格ヲ有スルハ勿論ナリ故ニ温井重次郎ヲ郡參事會員ノ數ニ加ヘ又郡會議員ノ數ニ加ヘ選舉ヲ行フタルハ違法ニアラスト云フト雖縣會議員ノ選舉ハ府縣制第三條ニ依リ郡ニ在テハ郡會及ヒ郡參事會會同シテ之ヲ行フモノナレハ郡制第三十三條及ヒ第五十三條ニ準據シテ兩會各會議ヲ開キ議決ヲ爲シ得ヘキ定數即チ半數以上ニ達セサレハ兩會會同シタルモノト謂フヲ得ス而シテ此定數ハ出席者ノ人員ヲ以テ定ムヘキモノニシテ郡會議員ニシテ郡參事會員ノ資格ヲ兼有スルモノヲ各會員トシテ之ヲ二箇ニ計算スルヲ得サルニ依リ本件温井重次郎ノ一人ヲ以テ郡會議員及ヒ郡參事會員ノ定數ニ複算シタルハ其當ヲ得タルモノニアラス

○郡會及郡參事會會同シ法定ノ手續ニ從ヒ縣會議員ノ選舉ヲ執行シタル後ニ至リ其會同員中ニ無資格者アルコトヲ發見スルモ其選舉ハ取消スヘキモノニアラス(縣會議員選舉取消ノ訴 明治二十六年第七十六號 明治二十六年十二月十三日宣告)

〔理由〕 原告等ニ於テ縣會議員選舉ノ際龜田甚作ハ郡參事會ノ裁決ニ依リ既ニ郡會議員タルノ資格ヲ失ヒタルモノナレハ其選舉ニ參與セシムヘカラス隨テ其爲シタル投票ハ無効ナリト

云フト雖モ府縣制第三條ニ府縣會議員ノ選舉ハ郡ニ在テハ郡會及ヒ郡參事會同シ郡長ヲ會長トシ之ヲ行フヘシトアルヲ以テ之ヲ見レハ府縣會議員ノ選舉ハ市町村會議員ノ選舉ト其方法ヲ異ニシ即チ郡會ト郡參事會ノ會同ニ於テ執行スヘキモノナレハ郡會及ヒ郡參事會カ議決ヲ爲スニ必要ナル定足數ノ會同ヲ以テ執行シタル選舉タル以上後日ニ至リ其會同員中ニ無資格者アルコト發覺スルモ其當時ニ遡ホリ選舉ノ效力ヲ左右スルヲ得ス故ニ本訴ノ如キ龜田甚作カ郡會議員タルノ資格ヲ以テ當時縣會議員ノ選舉ニ加ハリタルモ其選舉ハ取消スヘキノ理由ナキモノトス其他原被告ニ於テ辯論スル所アルモ此裁判ニ必要ナキヲ以テ之カ説明ヲ與ヘス

○郡會議員ノ資格ノ有無ヲ裁決スルハ郡制第二十五條ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬ス(縣會議員選舉取消ノ訴 明治二十六年第四百二十二號 明治二十七年七月十日宣告)

○郡制第二十四條ハ郡會ノ議決ヲ以テ郡會議員ノ資格ノ有無ヲ確定シ得ルノ規定ニアラス(同上)

○郡會カ郡會議員ニ對シ無資格者ナリトノ議決ヲ爲スモ郡參事會ニ於テ裁決ヲ爲ス迄ハ依然郡會議員ノ職ヲ行フコトヲ得故ニ其者カ參與シテ行ヒタル縣會

議員ノ選舉ハ無効ニアラス(同上)

〔理由〕 原告ニ於テ郡制第二十四條ハ郡會議員資格ノ確定ヲ郡會ノ議決ニ一任シタルヲ以テ郡會カ町田長秀藤原龜之助ノ無資格者ナルコトヲ議決シ之ヲ郡長ニ通知シタル以上ハ郡長ハ之カ行政上ノ處分ヲ爲スヘキハ當然ナルニモ拘ハラズ郡會ノ議決ヲ更ニ郡參事會ノ裁決ニ付シタルハ不當ナリ又郡會ニ於テ無資格者ト決定シタル右兩人ヲ縣會議員ノ選舉ニ參與セシメタルハ無効ノ選舉ナリト云フト雖郡制第二十五條ニ郡會議員ハ被選權ノ有無云々郡參事會之ヲ裁決ストアレハ第二十四條議員ノ資格如何ヲ裁決スルノ權ハ郡參事會ニ存スルモノナレハ同制第二十四條ノ議決ヲ以テ無資格者ナルコトヲ確定シ得ヘキモノニアラス然ラハ本件ノ場合ニ於テ郡長カ右兩人ノ資格ニ關スル郡會ノ議決ヲ執行セスシテ郡參事會ノ裁決ニ付シタルハ不當ナリト謂フヲ得ス隨テ未タ無資格者ト決セサル右兩人ノ參與シテ行フタル縣會議員ノ選舉ハ無効ナリト云フヲ得ス故ニ明治二十六年十月十二日附秋田縣參事會ノ裁決ハ取消スヘキモノニアラス

○縣會議員選舉ニ當リ當初ノ選舉會成立セサル場合ニ於テハ更ニ縣知事ノ告示ニ依リ選舉會ヲ招集スヘキモノトス(違法縣會議員取消ノ訴 明治二十八年第四百一十一號 明治二十九年六月三日宣告)

○選舉會長カ縣知事ノ告示ヲ待タヌシテ招集シタル縣會議員選舉會ハ法律上有効ノモノニアラス(同上)

○訴願出訴ノ目的ヲ達センカ爲メ起訴後申立テタル不服ノ理由ハ其相手方ニ於テ答辯ノ義務アリ(同上)

○應議通牒ハ法律ノ規定ヲ左右スルノ效力ナキモノトス(同上)

〔理由〕 本訴所争ノ要點ノ一ハ縣會議員ノ選舉會ヲ再回招集スル場合ニ於テハ府縣制ノ規定ニ基キ更ニ縣知事ノ告示ヲ要スルヤ否ニ在リ依テ審按スルニ府縣制第七條ニハ府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ云々トアリテ其選舉ヲ行フニハ府縣知事ノ告示ヲ必要ト爲セリ故ニ本件ノ如キ市會及市參事會會同不成立ノ爲メ當初ノ選舉會成立セサル場合ニ於テハ更ニ縣知事ノ告示ニ依リ選舉會ヲ招集セサルヘカラス然ルニ被告カ其告示ヲ待タヌシテ招集ヲ爲シタルハ府縣制規定ノ手續ヲ盡シタルモノト言フヲ得ス從テ明治二十八年四月二十七日ヲ以テ行フタル選舉會ハ法律上有効ノモノニアラス然ルニ被告ハ本件再回招集云々ニ付テハ初メヨリ訴願ナキモノナレハ此點ニ付テハ答辯スヘキ限ニ在ラス然レトモ強テ之レカ答辯ヲ爲ストキハ其再回招集ノ手續ハ被告第一號證ノ如ク監督官應ノ命令ニ依リタルモノ

ニシテ被告ノ發意ニ出テタルモノニ非スト云フト雖原告カ本訴ヲ提起スルニ際シ初メテ再回招集云々ヲ申立テタルハ訴願出訴ノ目的ヲ達センカ爲メ一ノ不服ノ理由ヲ追加シタルモノニ過キサレハ訴願ノ際ニ其申立ナシトノ理由ヲ以テ被告ニ答辯ノ責務ナシト言フヲ得ヌ又被告第一號證ハ石川縣廳內務部長ノ發シタル應議通牒ニ止マリ之レヲ以テ法律上ノ規定ヲ左右スルノ效力アルモノト爲ヌヲ得ス

○郡會及郡參事會會同シテ行フ縣會議員ノ選舉會ハ其出席者兩會共ニ各會議ヲ開キ議決ヲ爲シ得ヘキ定數ニ達スルコトヲ要ス(縣會議員當選確認並違法處分取消ノ訴 明治二十九年第四百十五號 明治三十年四月三十日宣旨)

○縣知事ハ縣會議員選舉ノ效力ニ關シテ縣參事會ノ裁決ヲ求ムルノ權ヲ有ス(同上)

○縣參事會ハ訴願アラサル時ト雖モ府縣制第十四條ニ依リ縣會議員選舉ノ效力ニ關シテ裁決ヲ爲スコトヲ得(同上)

〔理由〕 原告ハ縣會議員ノ選舉ハ郡會及郡參事會各過半數ノ出席ヲ要セス各會ヲ通シテ過半數ノ出席者アレハ其選舉ハ有效ナリト謂フト雖モ府縣制第三條ニ依レハ縣會議員ノ選舉ハ郡

ニ在テハ郡會及郡參事會同シテ執行スヘキモノナレハ郡制第三十三條及第五十三條ニ據リ其出席者兩會各會議ヲ開キ議決ヲ爲シ得ヘキ定數即チ半數以上ニ達スルニアラサレハ兩會會同シタルモノト謂フヲ得ス然ルニ本件ノ選舉タル郡參事會員ノ定數四名ノ内一名ノ出席者アルノミニテ選舉ヲ執行シタルモノナレハ適法ノ選舉ト云フヲ得ス又原告ハ凡ソ裁決ナルモノハ訴願者又ハ異議者ナカル可ラス然ルニ縣參事會カ訴願ニ依ラス自ラ裁決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フモ縣參事會ニ於テハ縣知事ヨリ事件ノ送付ニ依リ府縣制第十四條ノ規定ニ基キ裁決ヲ與ヘタルモノニシテ而シテ縣知事ハ其選舉ニシテ苟モ違法タルヲ認知スルニ於テハ之ニ對スル相當ノ處置ヲ爲スヘキハ固ヨリ其監督上ニ屬スル權能ニシテ必スシモ訴願其他ノ手續ヲ要セサルモノトス隨テ被告ノ處置ハ違法ナリト謂フヲ得ス其他陳述スル所アルモ本訴裁判上必要ナキヲ以テ説明ヲ與ヘス

○縣知事ハ縣會議員被選權ノ有無ニ關シ縣參事會ノ裁決ヲ求ムルノ權ヲ有ス(縣會議員被選權ノ有無ニ關スル訴 明治三十年第四十八號
明治三十年十月二十二日宣告)

〔理由〕 原告ハ被告縣參事會ニ於テ原告ニ對スル選舉效力ノ訴願若クハ被選權ノ有無ニ關スル縣會ノ議決アラサルニ之カ裁決ヲ爲シタルハ最モ不當ト謂ハサルヘカラスト云フモ縣參事

會ハ縣知事ノ請求ニ依リ府縣制第十四條ノ規定ニ基ツキ裁決ヲ與ヘタルモノニシテ而シテ縣知事カ其當選ニシテ苟モ違法タルヲ認知スル場合ニ於テ之ニ對スル相當ノ處置ヲ爲スハ固ヨリ其監督權ニ屬スル任務ニシテ必スシモ訴願若クハ縣會ノ議決ヲ待ツヲ要スヘキモノニアラス從テ被告ノ裁決ハ違法ナリト謂フヲ得ス

○縣會議員選舉ノ投票ニハ被選人ノ姓ト名トヲ併記スルコトヲ要セス(縣會議員選舉效力ニ關スル裁決不服ノ訴 明治三十年第三十五號
明治三十年十月二十七日宣告)

○投票ノ記載ハ不完備ナルモ被選人ノ何人タルヲ認メ得ルニ於テハ之ヲ有效トス(同上)

〔理由〕 原告主張スル要點ハ凡ソ權利義務ニ關係ナキ普通社交上ノ稱呼往復等ヲ除クノ外公法上私法上ニ於テ人ノ同一ヲ表スルニハ其姓名ヲ明記セサルヘカラサルコトハ現行ノ法令並ニ慣行ノ命スル所ニシテ即チ府縣制第三條第二項ハ姓ト名トヲ併記セヨト命シタルモノナルヘシ而テ同項一及三ニ人名ノ文字アリ四ニモ亦氏名ノ文字アリ總テ投票ニ人名ヲ記スヘキコトハ同條項ノ必要條件トシタルモノナリ同項ノ二ニ被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノト規定シアルハ例セハ姓名ヲ併記セサルモノ又ハ想像ノ人名ヲ記シ或ハ故人ノ姓名ヲ記シタルモ

ノ、如キ其他投票ヲ一見シテ直ニ何人ヲ指シタルヤヲ判別シ難キモノ等ノ規定ナリト信ス故ニ本件大久保君ト記シタル投票ハ府縣制第三條第二項ノ二ニ該當スルモノニシテ無効タルコト明カナリト云フニ在レトモ府縣制第三條第二項ノ二ニ依レハ被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノトアリテ投票ハ必ス姓名併記ノモノニ限ルト命シタル法意ニ非ス亦想像若ハ故人ノ姓名ヲ記シ或ハ投票其物ヲ一見シテ直ニ何人タルヲ確認シ難キモノ、ミニ限リタル狹義ノモノニモ非ス換言スレハ該條項ノ規定ハ投票ノ完備セルト否トニ拘ラス何人ヲ指シタルモノナルヤ確ト認メ難キモノヲ無効トスルノ法意ニ外ナラス然ラハ投票其物ハ不完備ナルモ果シテ何人ヲ指シタルモノナリト確認シ得ラル、ニ於テハ之ヲ有効トスル固ヨリ違法ノコトニアラス本件大久保君ト記シタル投票ハ事實不完備ニシテ且秩父郡其他同縣内ニ大久保姓ヲ冒シ被選權ヲ有スル者數名有リト雖モ同縣各郡ニ於テ本年四月執行シタル縣會議員選舉會ニ於テ秩父郡ヲ除クノ外大久保姓ノ者ニシテ投票ヲ得タル者ハ同縣下ニ一人モ有ラス殊ニ秩父郡ニ在リテモ大久保姓ノ投票ハ大久保已之作ノ得票十箇ト本件係争投票一箇トニ止マリ他ニ一票タモ有ル無シ而シテ之レニ加フルニ大久保已之作ノ經歷上ニ於テモ得票上ニ於テモ係争投票ハ同人ヲ指シタルモノト確認シ得ルニ足レリト謂フヘシ又原告ハ係争投票ノ效力ニ關シテ選舉會

ノ議ニ付シタルニ之ヲ無効トスル者十一名之ヲ有効トスル者十名アリテ既ニ無効ト決セリ左スレハ右十一名ノ内ニハ大久保君ト記シタル投票者アルヤ數理ニ於テ明ナリト云ヘトモ果シテ其無効トスル十一名ノ内ニハ係争投票ヲ爲シタル者カ之ニ加ハリタルヤ否視認スルニ由ナキモノトス以上ノ事項ニ徴スレハ被告カ爲シタル裁決ハ取消スヘキモノニアラス

○郡會及郡參事會會同シテ行フ縣會議員ノ選舉會カ再回ノ招集ニ係ル場合ニ於テ郡制第三十三條ノ但書ヲ適用シテ其選舉ヲ執行シタルハ適法ナリ(違法縣會議員選舉取消ノ訴 明治三十年第九十八號 明治三十一年一月二十七日宣告)

○縣會議員ノ選舉會ニ郡會ノ議事規則ヲ適用セサルモ違法ニアラス(同上)
〔理由〕原告ハ第一本件選舉會ハ郡會議員二十四名中僅十名ノ出席ニシテ半數ニ滿タス郡會不成立ナルニ拘ラス郡制第三十三條但書ヲ適用シ強テ選舉ヲ執行シタルハ選舉法ノ規定ニ違背シタル無効ノ選舉ナリ又郡制第三十三條ハ郡會ナル合議體カ同制第二十六條ニ據リ與ヘラレタル事項ニ付會議ヲ開キ議決ヲ爲ス場合ニ關スル規定ニシテ郡會カ單立シテ其權域内ノ行動ヲ爲ス場合ニノミ適用セラレ郡參事會ト會同シテ縣會議員ノ選舉ヲ行フ場合ニマテ適用セラルヘキ條項ニ非スト云フト雖モ郡會ハ單立シテ行動スル場合ト否トニ拘ハラス總テ郡制第

三十三條ノ規定ニ違背セサルニ於テハ正當ニ成立セルモノト謂ハサルヘカラス論争ノ事件ハ縣會議員選舉ノ爲メ一旦郡會ヲ招集セシモ議員半數ニ滿タズ不成立トナリ更ニ再回招集ヲ爲シタルモ尙ホ議員半數ニ滿タサルヲ以テ郡制第三十三條但書ヲ適用シテ郡參事會ト會同ヲ爲シ選舉ヲ執行シタルモノナレハ郡會ノ成立ニ毫モ瑕瑾アルコトナシ從テ其選舉ハ無効ニアラス又原告ハ郡會ノ議事ト縣會議員ノ選舉トハ其性質全ク殊別ニシテ之カ法制上ノ用語モ亦劃然區別アリト云フト雖モ本件ニ就テハ郡制第三十三條ノ外他ニ依ルヘキノ規定ナキヲ以テ同條但書ハ單ニ議事ノミニ限ルモノト解釋スルヲ得ス第二原告ハ邑樂郡會ノ開閉ハ原則トシテ邑樂郡會ノ議事規則ニ依據セサルヘカラス若シ會長ニ於テ時間ヲ便宜變更セントスレハ之ヲ招集狀ニ特記スルカ或ハ出席議員ニ宣告シテ選舉錄ニ明記セサルヘカラス然ラサレハ時間變更ノ效力ナシト主張スレトモ本件ハ邑樂郡會ニ非スシテ郡會ト郡參事會ト會同シテ行フ一種ノ選舉會ナルヲ以テ郡會ノ議事規則ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

○投票ニ記載シタル被選人ノ人名カ候補者ト其名ヲ同ウシテ姓ヲ異ニスルモ該候補者ヲ指シタルモノト認メ得ルニ於テハ之ヲ有效トシテ其得點中ニ算入スヘキモノトス(縣會議員當選不當裁決取消ノ訴 明治三十年第四百二十號 明治三十一年二月三日宣告)

○戸主ニアラス且戸數割若クハ戸別割ノ賦課ヲ受ケサルノ事實ヲ以テ一家ヲ構ヘタルモノニアラスト謂フヲ得ス(同上)

〔理由〕 本件争フ所ノ要點ハ二點ニシテ第一點ハ村木澤村荒井彦四郎ト記載シタル投票ハ遠藤彦四郎ニ對スル有效ノ投票ト認メ得ルヤ否ニ在リ而シテ選舉會長ハ之ヲ無効ノ投票ト定メタルモ同人ハ元來村木澤村ノ住民ニシテ同村中他ニ彦四郎ト稱スル者ナク又荒井姓ノ者モナキ事實ニ徴スレハ該投票ハ遠藤彦四郎ニ對シ爲シタルモノト認メ得ルヲ以テ之ヲ有效投票トシテ同人ノ得點ニ算入スヘキモノトス第二點ハ同人ハ町村制第七條ニ依レル一戸ヲ構ヘタル者ナルヤ否ニ在リ而シテ被告ハ同人カ戸數割若クハ戸別割ヲ納メサル事實ヲ以テ一戸ヲ構ヘサル唯一ノ證據ナルカ如ク論スルモ同人ハ彦市ノ嗣子ニシテ戸主ニ非サルモ三十年來戸主ト別居シテ獨立ノ生計ヲ營ミ居ルノ事實ハ被告提出ノ證據ニ由ルモ之ヲ認定シ得ルヲ以テ戸數割若クハ戸別割ノ賦課ヲ受ケサルノ事實ノミニ由リ一戸ヲ構ヘタルモノニアラスト云フヲ得ス

○郡會及郡參事會會同シテ行フ縣會議員ノ選舉會ハ郡會議員總數ノ半數以上及郡參事會員總數ノ半數以上出席スルニアラサレハ成立セス(不法裁決取消ノ訴

明治三十年第四百四號
明治三十一年二月五日宣告

〔理由〕 原告ハ郡制第三十三條郡會議員ノ定足數ハ本件ノ如キ郡會及郡參事會同シテ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ同時ニ名譽職參事會ノ資格ヲ有スル郡會議員ノ數ヲ控除シタル數ナラサルヘカラスト主張スルモ郡制第三十三條ニ議員半數以上トアルハ郡會議員總數ノ半數以上ヲ云フモノナリ而シテ本件ノ如キ郡會及郡參事會同シテ選舉ヲ行フ場合ニ於テモ此法律上ノ總數ハ他ニ別段ノ規定アラサル以上ハ變更スルヲ得サルモノト解釋セサルヘカラスト然ラズ本件選舉會ニ於テ郡參事會員ハ三名出席シテ成立シタルモ郡會ノ出席者ハ八名ニシテ總數ノ半數ニ達セサルハ兩會會同シタルモノト謂フヘカラスト隨テ被告方其選舉ヲ不適法ト認メタルハ違法ノ處置ニアラス

○再選舉ハ前選舉カ違法ナリトノ裁決確定スルヲ待テ行フコトヲ要ス(縣會議員選舉ニ關スル不法裁決取消ノ訴 明治三十年第四百十九號 明治三十一年三月十日宣告)

○前選舉ノ效力確定以前ニ於テ執行シタル再選舉ハ有效ニアラス(同上)

〔理由〕 本件第一回選舉ハ告示第三百三十六號ニ依リ明治三十年十月十八日之ヲ行フタルニ縣參事會ハ之ヲ違法トシ取消スヘキ旨裁決シタリ然レハ該裁決ノ執行ハ停止スルノ限ニ在ラス

ト雖更ニ第二回選舉ヲ行ハンニハ前選舉ノ效力確定後其結果如何ニ依リ行フヘキモノナリ而シテ右第一回選舉ノ效力ハ明治三十一年二月五日當廳ノ判決ニ依リ確定シタルモノナルニ其確定以前ニ於テ告示第五百一十一號ニ依リ明治三十年十一月十日第二回選舉ヲ行フタルハ未ダ再選舉ヲ行フコトヲ得サル場合ニ於テ執行シタルモノナレハ本件第二回選舉會ハ有效ニ成立シタルモノト認ムルヲ得ス從テ雙方ノ爭點ニ對シテハ別ニ説明ヲ要セサルモノトス

○市制第十五條ノ列記中ニハ執達吏ヲ包含セス故ニ執達吏ニシテ市參事會員ヲ兼スルハ同制第五十五條ノ規定ニ違背スルコトナシ(縣會議員選舉ノ效力ニ關スル縣參事會ノ裁決不服ノ訴 明治三十年第四百十六號 明治三十一年四月五日宣告)

○市制第五十一條第五十四條等ノ規定ニ從ヒテ選舉シタル市參事會員ハ其選舉ノ效力ニ關シテ異議ヲ生セサル以上ハ之ヲ無資格者ナリト謂フヲ得ス(同上)

〔理由〕 原告ニ於テ遠藤讓ハ執達吏ノ職ヲ奉シ其所屬長官ノ許可ナキニ拘ラス市參事會員トシテ縣會議員ノ選舉ヲ行ヒタルハ市制第十五條及同制第五十五條ノ規定ニ背キタルモノナリ且同人ハ甲府市公民ニモアラサル者ナレハ該選舉ハ效力ナキモノナル趣主張スト雖市制第十五條ノ規定ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ兼スルコトヲ得ストアリテ遠藤讓カ奉職セル

執達吏ハ同項列記中ニアラサルヲ以テ縦令所屬長官ノ指令ニ背クコトアリトスルモ該兩條ノ規定ニ背クモノト謂フヲ得ス又同人カ公民權ノ有無ニ至リテハ市制第五十一條ニ依リ甲府市會カ名譽職參事會員ヲ選舉スルニ方リ同制第五十四條ノ規定ニ隨ヒ之ヲ公民權アル者ト認メタルモノナレハ別ニ異議ノ生セサル限リハ單ニ本件ニ關スル原告ノ主張ノミヲ以テ無資格者ナリト斷定スヘキモノニアラス故ニ明治三十年十月七日遠藤讓カ甲府市參事會員トシテ選舉人タリシ山梨縣會議員ノ選舉ハ有效ニ成立シタルモノトス

- 一旦告示シタル選舉會開閉ノ時間ヲ變更スルニハ相當ノ手續ヲ以テ之ヲ公示スルコトヲ要ス(縣會議員選舉取消訴願ノ裁決不服ノ訴 明治三十一年第四十九號)
- 選舉時間變更ノ公示手續ヲ盡サズシテ其時間ヲ延長シ執行シタル選舉ハ無効ナリ(同上)

〔理由〕 被告ハ郡長カ選舉會開閉ノ時限ヲ告示シタルハ畢竟一ノ注意ニ過キサルモノナレハ郡會及郡參事會同シタル選舉會ノ議決ヲ以テ其時間ヲ延長スルハ縣知事カ告示シタル期日ニ違ハサル限リハ違法ニアラスト云フト雖モ郡長カ本件選舉會ニ付「午前九時開會午後四時迄」閉鎖スルト告示シタルハ選舉權ヲ行フヘキ時限ヲ公示シタルモノナリ而シテ其時間ノ變更ノ如キハ選舉權行使ノ上ニ重要ノ關係ヲ及ホスモノナルカ故ニ之ヲ有效ニ變更セシニハ更ニ相當ノ手續ヲ以テ之ヲ表示スルコトナカルヘカラス即チ本件ノ選舉ニ於テハ午後四時迄ニ閉鎖スヘキニ午後七時迄延長シ其時間ヲ變更シタルモノニシテ時間ノ延長ハ假令郡會議員及郡參事會員各半數以上會同ノ議決ニ依ルモノトスルモ其變更ハ單ニ出席者ノ議決ニ止マリ別ニ正當ノ手續ヲ盡サズシテ選舉ヲ執行シタルモノナレハ該選舉ハ有效ニ成立シタルモノト云フヲ得ス

- 家督相續ニ由リテ承繼シタル納稅額ト雖モ一ノ年ノ後ニアラサレハ縣會議員ノ被選舉資格ニ算入スルヲ得ス(縣會議員當選無効決定取消ノ訴 明治三十一年第七月九日宣告)

〔理由〕 本件ハ縣會議員選舉數日前ニ於テ家督相續ニ依リ承繼シタル土地ニ對スル納稅額ヲ縣會議員被選舉資格ニ算入スヘキヤ否ニ在リ原告ハ衆議院議員選舉法及同施行規則等ヲ援引シテ種々主張スル所アリト雖モ縣會議員ノ被選舉權ニ就テハ府縣制第四條第一項ニ規定シアルノミニシテ衆議院議員選舉法ノ如ク家督相續ニ由リ云々ノ規定ナキヲ以テ本件原告カ家督ニ由リ承繼シタル納稅額ハ縣會議員被選舉資格ニ算入スヘキモノニアラス故ニ被告カ原告ノ當

選ヲ無効トナシタルハ正當ナリ

○郡長カ縣會議員ノ選舉會場ニ於テ郡參事會員ノ辭職届ヲ受理シタルハ違法ニ
アラス(縣會議員選舉會取消ノ訴 明治三十一年第六十八號
明治三十一年十月二十六日宣告)

○郡制第五十三條ニ所謂會員半數以上云々ノ中ニハ郡長ヲ包含セス(同上)

○郡會及郡參事會同シテ行フ縣會議員ノ選舉會ニハ郡會ノ議事規則ヲ適用セ
ス(同上)

〔理由〕 原告ニ於テ第一九尾謙三郎カ郡參事會員ノ辭職届ヲ郡衙ニ提出セス一時限リ假設シ
タル選舉會場ニ於テ郡長ニ提出シタルハ違法ナリ隨テ其辭職ハ無効ナリト云フト雖選舉會場
ハ郡長執務ノ公署ナルヲ以テ之ニ提出シタレハトテ無効ナリト謂フヲ得ス而シテ同人ハ郡參
事會員ヲ辭スルモ尙郡會議員ノ資格ヲ有スルヲ以テ同人ヲ加算シテ定足數ニ達シタルモノト
シ選舉ヲ行フタルハ有效ノ選舉ナリトス第二郡制第五十三條ニ會員半數以上云々トアリテ府
縣制第四十六條ノ如ク名譽職會員ト規定シテアツタルヲ以テ會員中ニハ郡長ヲ包含スト云フト
雖モ府縣參事會員中ニハ名譽職會員ノ外府縣高等官ヲモ包含スルヲ以テ特ニ名譽職ノ文字ヲ
加ヘタルモ郡參事會ハ悉ク名譽職員ナルヲ以テ會員ハ名譽職員ノミヲ指シタルコト明瞭ナリ

而シテ該條ニ議長及會員トアレハ會員中ニ郡長ヲ包含セサルハ明瞭ニシテ毫モ疑ヲ容ルヘカ
ラス故ニ本件ニ於テ郡長ノ外會員四名ニ對スル二名即其半數出席シテ選舉ヲ行フタルハ違法
ニアラス第三選舉會ハ郡會及郡參事會有效ニ成立シタル後ニ開會セサルヘカラス然ルニ當日
午後三時ニ至リ選舉會ヲ開キタル事實ニ徴スレハ郡會ハ議事規則ニ違背シテ午後三時後ニ成
立シタリト云ヒ第四九尾謙三郎カ郡會議員ノ出席簿ニ捺印セスシテ郡會議員ノ職ヲ行フタル
ハ議事規則第一條ニ背反シタルモノナリト云フト雖郡會郡參事會カ郡制ノ規定ニ依リ有效ニ
成立シタルハ前段ニ説明セリ而シテ郡會ノ議事規則ハ本件ノ會同選舉會ニ適用スヘキモノニ
アラサレハ縱令該規則ニ背反シタルコトアリトスルモ之ヲ以テ選舉ヲ無効ト爲ヌヲ得ス

○小林隼人ヲ小林ハヤ人ト記シタル投票ハ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモ
ノニアラス(不當裁決取消ノ訴 明治三十二年第五百十五號
明治三十二年十一月二日宣告)

〔理由〕 原告ハ訴狀ニ於テ被告ノ決定ニ對スル不服ノ理由トシテ青森縣下ニ小林隼人ノ外別
ニ小林ハヤ人ナル者アルヤ否未タ知ル可カラサルニ被告カ其有無如何ヲ調査セス同一人ナリ
ト決定シタルハ不法ナリト陳述スルニ拘ラス本年十月十八日附ヲ以テ當裁判所ニ提出シタル
申請書ト題セル書面ヲ以テ青森縣下ニ小林隼人ノ外小林ハヤ人ナル者ナク唯小林隼人ノ隼文

字ヲ片假名ニテ記シタルノ一事ノミニ依リ其投票ハ無効ノモノナリト云ヘリ左レハ青森縣下ニ小林ハヤ人ナル者ナキハ原告被告共ニ爭ハサル事實トス而シテ隼文字ヲ片假名ニテ記シタルノ投票ハ府縣制第二十七條第三號ニ掲クル被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノニ非ス依リテ被告カ與ヘタル決定ハ取消ス可キモノニ非ス

○公民權停止ノ議決ニ對シ訴願ノ提起アリタルトキハ其議決ノ執行ヲ停止スヘキモノトス(不當決定取消ノ訴 明治三十二年第一百十七號 明治三十二年十二月十二日宣告)

○選舉會ニ於テ投票ノ査定ヲ誤リテ當選者ヲ決定シタル場合ニ在リテ該選舉ニ對スル訴願ノ議決ヲ爲スニ當リ縣參事會カ府縣制第三十六條但書ノ規定ヲ適用シタルハ違法ニアラス(同上)

〔理由〕原告ハ町村制第二十條ノ規定ハ町村行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會以上ノ處分若クハ裁決ニ對スル救濟手續ヲ規定シタルモノニシテ本件ノ如キ町村會ノ議決ヲ含蓄スルモノニアラスト云フト雖同制第二十條第五項ハ同條第二項ニ照シ之ヲ考フルニ廣汎ノ法意ニシテ郡長又ハ郡參事會以上ノ處分裁決ニ限ラス特ニ執行ヲ停止セストノ明文ナキモノハ總テ本項ニ依ルヘキモノト解釋セサルヲ得ス隨テ本件町村會ノ議決ハ本項ニ依ルヘキモノトス又

原告ハ本件ハ近藤壯吉當選ノ效力ニ關スル問題ナルニ被告ニ於テ府縣制第三十六條但書ヲ適用セシハ違法ナリト云フト雖本件ハ選舉會ニ於テ福地賢吉ノ有效投票ヲ無効投票ト議決シタルモノニシテ即投票ノ査定ヲ誤リタルモノナレハ被告ノ與ヘタル裁決ハ違法ナリト謂フヲ得ス

○明治三十二年法律第六十四號府縣制第六條第八號ニ所謂「其關係區域」トハ官吏吏員カ職務上選舉事務ニ關係スル區域ヲ謂フモノニシテ選舉區域ヲ指スノ意義ニアラス(不當決定取消ノ訴 明治三十二年第一百十六號 明治三十二年十二月二十二日宣告)

〔理由〕原告ニ於テ明治三十二年法律第六十四號府縣制第六條第八號ニ據レハ選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ其關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セストアリテ其ナル文字ハ選舉事務ノ四文字ヲ受ケ關係區域トハ明カニ選舉區域ヲ指シタルコト言フ故タス而シテ同制第四條第二號ニ選舉區ハ郡市ノ區域ニ依ルト規定セラレ其郡市全般ヲ通シテ一體ト爲シ別ツヘカラサルコト明カナリ然レハ關係區域トハ選舉區域内ニ各地便宜ニ設クル投票區域トハ其意義ヲ異ニシ選舉區域内ノ一體ヲ通シタル名稱ナリ故ニ木村竹雄ハ其選舉區タル中津輕郡内ニ於テハ被選舉權ヲ有セスト云フト雖該條ノ所謂其關係區域トハ官吏吏員カ職務上選舉事務ニ關係スル區

域ヲ謂フモノニシテ選舉區域ヲ謂フモノニアラサルナリ故ニ本件木村竹雄カ村長ノ職務トシテ關係スル區域内ニ在リテハ被選舉權ヲ有セサルモ職務上ノ管理區域外ニ在リテハ被選舉權ヲ妨ケラル、コトナキモノトス

○府縣知事ハ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選證書交付後ト雖モ府縣制第三十四條ニ依リ府縣參事會ノ裁決ニ付スルコトヲ得(縣會議員當選ニ關スル決定取消ノ訴 明治三十二年第九十三號
明治三十三年二月十四日宣告)

○名譽職參事會員ハ市制第六十九條ニ依リ市長ノ職務ヲ補助スヘキ者ナルヲ以テ府縣制第六條ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ナリ(同上)

○市制第六十九條ニ所謂市長ノ職務中ニハ市ノ固有事務ト他ノ委任事務トヲ問ハズ總テ之ニ包含ス(同上)

〔理由〕原告ニ於テ第一府縣制第三十四條ニ當選ノ效力ニ關スル異議云々トアルハ當選後未タ當選證書ヲ受ケス隨テ議員タル資格ヲ得サル場合ニ於ケル爭議ヲ決定スヘキ旨趣ニシテ本件ノ如キ既ニ當選證書ヲ受ケ隨テ議員タルノ資格ヲ得タル場合ニ於テハ第三十七條ニ依リ決定ヲ與フヘキモノナリト云フト雖モ第三十四條第三項ニ依レハ府縣知事ハ當選ノ效力ニ付キ

異議アルトキハ一定ノ期限内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得ルモノナレハ該法定期限内ニ在リテハ當選證書交付後ト雖モ第三十四條ニ依リ決定ニ付スルコトヲ得ルモノト解釋セサルヘカラス而シテ本件ハ右期限内ニ付議シタルモノナレハ法定ノ手續ニ違背セス第二原告ハ府縣制第六條中ニ選舉事務ニ關係アル吏員トハ其事務ノ執行ニ從事スル者ヲ指稱スル旨趣ニシテ市參事會員ノ如キ補助員ヲ包含スルモノニアラスト主張スレトモ補助員モ亦選舉事務ニ參與スル者ナレハ選舉事務ニ關係ナシト謂フヘカラス而シテ名譽職參事會員ハ市制第六十九條ニ依リ市長ノ職務ヲ補助スヘキ者ナレハ選舉事務ニ關係アル吏員中ニ包含スト斷定セサルヘカラス尙原告ハ市制第六十九條ニ市長ノ職務ヲ補助ストアルハ市長固有ノ職務ヲ補助ストノ謂ニシテ市制第七十四條ニ列舉スル委任事務殊ニ府縣會議員ノ選舉事務ヲ網羅セスト云フモ第六十九條ニハ單ニ市長ノ職務云々トアレハ其職務カ市ノ固有事務ナルト他ノ委任事務ナルトヲ問ハス苟モ市長ノ職務ニ屬スル以上ハ均シク之ヲ網羅スルモノト解釋セサルヘカラス然ラハ被告ニ於テ原告カ津市參事會員タルノ故ヲ以テ同市選舉區ニ於テ被選舉權ヲ有セスト決定シタルハ不當ナリト謂フヲ得ス

○成規ノ用紙ヲ用キサル投票アルトキハ其投票ヲ無効トスヘク選舉全部ヲ無効

トスヘキモノニアラス(縣會議員選舉取消ノ訴 明治三十二年第九十四號 明治三十三年二月十四日宣告)

〔理由〕 本件選舉ニ於テ原告被告ノ論争スル要點ハ府縣制第三十五條第一項ノ適用如何ニ在リ按スルニ本件ノ如キハ原被雙方ノ争ハサル事實ニ徴スルニ同制第二十七條第一號ニ該當スル場合ニ外ナラス然ラハ則チ選舉會ニ於テ決定セシ如ク該條ノ規定ヲ適用シテ成規ノ用紙ヲ用キサル投票其物ヲ無効トスルニ止ムヘク第三十五條ヲ適用シテ其選舉ノ結果如何ニ論及スヘキモノニアラサルナリ故ニ被告ノ裁決ハ法律ノ適用上ニ錯誤アリト雖結局選舉全部ヲ無効トスヘキモノニアラスト云フニ在ルヲ以テ之ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス

○投票ノ記載不完全ナルモノアルモ何人ヲ指シタルヤヲ確認シ得ルニ於テハ之ヲ有效トス(不當決定取消ノ訴 明治三十二年第九十號 明治三十三年二月二十一日宣告)

〔理由〕 原告ハ被告カ川野如矢ノ得票中十五票ハ全ク字畫ヲ爲サ、ルモノ若クハ僅カニ字畫ヲ具フルモ甚タ不明ニシテ川野如矢ヲ指示シタルモノト確認シ難キモノナルニ拘ハラズ同人ノ有效投票ニ算入シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ投票ノ記載不完全ナルモノアリト雖モ果シテ何人ヲ指シタルモノナリヤ確認シ得ラル、ニ於テハ之ヲ有效トスルハ固ヨリ不法ニアラス而シテ本件ノ係争投票ヲ閱スルニ姓名ノ内字畫ヲ爲サス或ハ他ノ文字ヲ記載アルモ之レ

何レモ一字ノミニ係リ他ノ三字ハ字畫明確ニシテ判讀シ得ヘク且ツ本件選舉區内ニ於テ川野ノ姓ヲ唱フルモノ又ハ如矢ト稱スル名ヲ有スルモノアリトノ事實徴スヘキモノナキノミナラス川野如矢ハ本件選舉ニ於テ既ニ五百餘箇ノ投票ヲ得タル事實ニ參照スレハ係争投票ハ何レモ川野如矢ヲ選舉シタルモノト認ムルニ餘アリトス依テ被告カ係争投票ヲ川野如矢ノ有效投票ニ算入シタルハ至當ナリトス

○選舉效力ニ關スル訴訟ニ對シ行政裁判所ノ確定判決アリタル以上ハ同一ノ選舉ニ對シ他ノ原告ヨリ出訴シタル同一ノ請求ハ之ヲ採用セス(縣會議員當選無効ノ異議申立ニ關スル決定不服ノ訴 明治三十二年第九十二號 明治三十三年三月七日宣告)

〔理由〕 原告ハ被告カ原告ニ對シ青森縣會議員ノ當選ヲ無効トシ次點者タル小林隼人ヲ當選者ト決定シタルハ不當ナルニ依リ該決定ヲ取消シ原告ノ當選有效ナリトノ裁判ヲ請フト云フト雖本訴所争ノ決定ニ關シテハ曩ニ山下兼次郎ナル者ノ提起セル明治三十二年第九十五號訴訟事件ニ對シ同年十一月二日ヲ以テ宣告シタル當裁判所ノ判決ニ依リ其決定ヲ適法ナリトシ原告ノ當選ヲ無効ナリト決定シ其判決ハ既ニ確定セリ而シテ本件ハ原告其人ヲ異ニスルモ要スルニ右第九十五號件ト同一ノ事件ニシテ原告ノ請求モ亦同一ノ請求ニ外ナラス左レハ本訴

請求ハ之ヲ採用スルノ限ニ在ラス

○府縣制第六條第七項ノ一ニ其府縣ノ官吏及有給吏員トアルハ府縣所屬ノ官吏及有給吏員ヲ指ス規定ニシテ郡市町村等ノ有給吏員ヲ包含セシムルノ法意ニアラス(縣會議員當選ノ效力ニ關スル不當決定取消ノ訴 明治三十二年第八十八號 明治三十三年三月七日宣告)

○府縣制第七條第八項ニ所謂其關係區域トハ官吏吏員カ職務上選舉事務ニ關係スル區域ヲ謂フモノニシテ選舉區域ヲ指スノ意義ニアラス(同上)

〔理由〕 被告ハ府縣制第六條第六項ノ一ニ明記シアル其ノ府縣ノ官吏及有給吏員ノ中ニハ町村ノ有給吏員ヲ包含スト云フト雖モ其ノ府縣ノ官吏及有給吏員トアルハ府縣所屬ノ官吏及府縣所屬ノ有給吏員ヲ意味スルモノニシテ被告主張ノ如ク其有給吏員中ニハ郡市町村等ノ有給吏員ヲ包含スルモノニ非ス故ニ原告等カ町村有給吏員ナルノ故ヲ以テ縣會議員ノ被選舉權ナキモノトシ原告等ノ當選ヲ無効トシタル被告ノ決定ハ其當ヲ得タルモノニアラス又被告ハ府縣制第六條第八項ノ所謂關係區域トハ選舉區タル郡市ノ區域内全般ヲ指示スルモノナリト云フト雖モ該條ノ所謂其ノ關係區域トハ官吏吏員カ職務上選舉事務ニ關係スル區域ヲ謂フモノニシテ選舉區域ヲ謂フモノニ非ス故ニ本件原告等ハ其町長若ハ村長ノ職務トシテ關係ス

ル區域内ニ在リテハ被選舉權ヲ有セサルモ職務上ノ管理區域外ニ在リテハ被選舉權ヲ妨ケラルコトナキモノトス而シテ原告等ハ其職務管理區域外ノ投票ニ因リ縣會議員ニ當選シタルモノナレハ其當選ハ有效ニシテ被告カ之ヲ無効ト決定シタルハ適法ノ處分ナリト云フヲ得ス

〔同一判例〕 縣會議員當選無効ノ決定取消ノ訴 明治三十二年第二百號 明治三十三年三月七日宣告

○町村制第六條ニ所謂町村住民トハ本籍ノ存スルト否トヲ問ハス現ニ其町村ニ住居スル者ヲ指ス(知事ノ裁決不服ノ訴 明治三十二年第七十八號 明治三十三年三月十二日宣告)

○本籍以外ニ轉籍セシコトナキヲ以テ必スシモ本籍地ノ住民ナリト謂フヲ得ス(同上)

〔理由〕 本件相爭フ所ノ要點ハ原告ハ大分縣會議員選舉人名簿並同縣速見郡會議員選舉人名簿調製ノ期日タル明治三十一年八月一日ヨリ前滿二年間藤原村ノ住民ナリシヤ否ニ在リ第一原告ハ元來藤原村ノ住民ニシテ町村制施行以來他ニ轉籍セシコトナキハ藤原村長ノ證明書ニ依リ明カナル事實ナリト云フト雖町村制第六條ノ所謂町村住民トハ其町村ニ本籍ノ存スルト否トニ拘ラス現ニ住居スル者ヲ指スモノナレハ原告カ他ニ轉籍セシコトナキ事實ヲ理由トシテ藤原村ノ住民ナリト言フヲ得ス第二原告ハ村長カ原告ノ家族吉野豐太郎ノ一戸ヲ構ヘタル

コトナキノ證明ヲ爲スニ拘ラヌ右豊太郎ヨリ明治三十年度戸數割及三十一年度前期戸數割ヲ徵收シ戸主タル原告ヨリ之ヲ徵收セサルハ職務上ノ粗漏過誤ナリト云フト雖其原告ヨリ徵收セサルハ當時原告カ藤原村ニ住民タルノ確證ナキ以上ハ之ヲ不當ト云フヲ得ス第三原告ハ村長カ明治二十五年以來別府町ニ移轉シタリト認メタル原告ニ對シテ三十一年度後半期村稅ヲ徵收シタルコトノ矛盾ヲ非難シ以テ藤原村住居ノ理由トナスモ是單ニ三十一年度後半期間ニ於ケル住居ノ證據トナルノミニテ二年間住居ノ證據トナラス其他原告提出ノ覺雲寺住職及吉野喜平外三十六名ノ證明書ハ隨意ニ作成シ得ヘキモノニ付有效ノモノト認ムルヲ得ス又明治三十一年四月村會議員選舉ニ當リ原告カ百三點ノ投票ヲ得タル事實アルモ之ヲ以テ爾後原告カ本件選舉人名簿調製ノ期日マテ間斷ナク住民ナリシト推定スルヲ得ス要スルニ原告ハ種々陳述スル所アルモ本訴ニ直接ノ關係ナキ辯論又ハ確證ナキ申立ニシテ本訴ノ主眼タル明治三十一年八月一日ヨリ前滿二年間藤原村ニ現住シタル事實ヲ確證シ得ヘキモノナシ依テ明治三十一年十月四日大分縣參事會ノ爲シタル裁決ハ取消スベキ理由ナキモノトス

○市參事會員ハ府縣制ノ規定ニ依リテ府縣會議員選舉事務ヲ管掌スル市長ノ職務ヲ補助スヘキ者ナルヲ以テ府縣制第六條第八項ニ所謂選舉事務ニ關係アル

吏員ナリ縣會議員選舉權ノ有無決定ニ關スル訴 明治三十二年第二百十七號
明治三十三年三月十六日宣告

〔理由〕 本件相爭フ所ノ要點ハ新潟市參事會員鈴木長藏ハ府縣制第六條第八項ニ該當スルヤ否ヤニ在リ按スルニ府縣制第六條第八項ハ官吏吏員ニシテ其職務ノ性質上選舉事務ニ關係ヲ有スル者ハ其職務ヲ現ニ執行スルト否トヲ問ハス絶對ニ被選舉權ヲ有セシメサルノ規定ナリ故ニ本項ハ之ヲ適用スルニ當リ選舉ノ公正ヲ妨クルノ虞アルト無キトニ依リ若クハ關係ノ現ニ成立スルト未成立トニ依リ被選舉權ヲ得喪セシムルノ餘地アルモノト解釋スルコトヲ得ス本件市參事會員ハ府縣制ニ依リ府縣會議員選舉事務ヲ管掌スヘキ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキ之ヲ代理スヘキハ市制第六十九條ノ明定スル所ナレハ其職務ノ性質上縣會議員選舉事務ニ關係アル吏員ナリト言ハサルヲ得ス依テ被告カ市參事會員タル鈴木長藏ヲ縣會議員選舉事務ニ關係ナキ吏員トシテ當選ヲ有效ト決定シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノトス其他雙方陳辯スル所アルモ裁判上必要ナキヲ以テ説明セス

○成規ノ用紙ヲ用キサル投票アル場合ニハ府縣制第二十七條第一號ヲ適用シテ其投票ヲ無効トスヘク同法第三十五條ヲ適用スヘキモノニアラス(縣會議員選舉ノ效力ニ關スル訴 明治三十二年第二百二十五號
明治三十三年三月十六日宣告)

〔理由〕 本件係争ノ縣會議員選舉ニ關スル原告ノ主張ハ第一河合村投票所ニ於テ選舉管理者カ府縣制第十八條ノ規定ニ違背シテ郡會議員選舉ノ投票用紙ヲ選舉人ニ交付シタルカ爲ニ其内十一名ノ投票ハ無効トナレリ然ルニ次點者タル原告ト當選人ト得票ノ差ハ十八票ニ過キサルハ更ニ同投票所區域内ノ全選舉人ヲシテ投票ヲ行ハシムルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキモノナリ第二選舉立會人六名ノ内四名ハ河合村ノ投票全部ヲ無効トスルノ意見ヲ述ベタルモ選舉長ハ多數決ニ從ハスシテ違法ノ投票十一票ノミヲ無効トシ他ハ有效ト決シタルコト該四名ノ立會人カ選舉録ニ調印セサルニ依テ明カナリト云フ二點ナリトス按スルニ第一點成規ノ投票用紙ヲ用ウヘキコトハ府縣制第十八條ニ明示スル如ク獨リ選舉管理者ノ責ニ歸スヘキモノニアラス第二點之ヲ選舉録ニ徵スルニ選舉長ハ立會人ト共ニ投票ヲ點檢シテ成規ノ用紙ヲ用キサルモノ十一票ヲ無効トストアリテ之カ反證ナキノミナラス該選舉録ニハ選舉長及立會人ノ署名具ハリテ成規ニ違背スル廉アルヲ見ス要スルニ本件ノ如キハ元來府縣制第二十七條第一號ノ場合ニ該當スルモノナレハ成規ノ用紙ヲ用キサル投票其物ヲ無効トスルニ止ムヘク第三十五條ヲ適用シテ選舉ノ結果如何ヲ論争スヘキモノニアラサルナリ

〔同一判例〕 府會議員選舉及當選ノ效力ニ關スル訴 明治三十二年第二百二十六號
明治三十三年四月二日宣告

○赤祖父牛知「赤祖父手知」「赤祖父火午和」「赤祖父半知」ト記シタル投票ハ赤祖父牛知ノ得票ト認ムルコトヲ得(縣會議員選舉效力ニ關スル決定不服ノ訴 明治三十三年四月九日宣告)

〔理由〕 原告ハ赤祖父牛知ノ得票中赤祖父牛知、赤祖父手知、赤祖父火午和、赤祖父半知ト記シタル投票ノ如キハ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノナルヲ以テ無効ナリト主張スト雖モ赤祖父牛知ハ本件選舉ノ當時縣會議員ノ候補者ニ立チ既ニ數百ノ投票ヲ得タル事實アルノミナラス其際被選舉人中類似ノ氏名ナキヲ以テ見レハ右投票ハ赤祖父牛知ヲ指シタルモノト認メ得ヘキヲ以テ無効トスヘキモノニ非ス

○選舉效力ニ關スル訴訟ニ對シ行政裁判所ノ確定判決アリタル以上ハ同一ノ選舉ニ對シ他ノ原告ヨリ出訴シタル同一ノ請求ハ其目的物消滅シタルモノトス(縣會議員當選無効ノ訴 明治三十二年第三百八號
明治三十三年四月十一日宣告)

〔理由〕 本件争訟ノ要點ハ川端黨一カ福井縣會議員ノ當選效力有無ニ在リ然ルニ明治三十三年當廳第二百九號ノ訴訟事件ニ對スル判決ヲ以テ川端黨一ノ當選ハ效力ヲ失シタリ故ニ本訴ノ目的タル事項ハ既ニ消滅シタルモノナルニ由リ更ニ判決ヲ與フヘキ限ニ在ラス

○被選舉人ノ名下ニ捺印アル投票ハ府縣制第二十七條第五ノ規定ニ依リ之ヲ無効トス(縣會議員當選無効ノ訴 明治三十三年第四百十號 明治三十三年四月十一日宣告)

〔理由〕原告ハ福井縣參事會ニ於テ原告ノ得票ナル高原伊平ノ名下ニ捺印アル一票ヲ無効トシ却テ無効ト爲ル可キ五票ヲ川端燕一ノ得票ナリト推定シ得ヘキモノトシ同人ヲ當選者ト爲シタルハ不當ノ處分ナレハ之ヲ取消シ原告ヲ當選者ナリトノ判決アリタシト云フト雖モ川端燕一ノ當選ハ明治三十二年當選第二百九號訴訟事件ニ對スル判決ヲ以テ無効ト爲リタリ又原告ノ得票中名下ニ捺印アルモノハ府縣制第二十七條第五ノ定規ニ違フモノナルヲ以テ之ヲ有効ト爲スヲ得ス隨テ原告ノ得タル有效投票四百八十三票ハ杉本新左衛門ノ得票四百八十四票ニ比シ一箇ノ少數ナルニ由リ當選者ト爲ルヘキモノニアラス

○府縣制第三十七條第四項ニ依リ縣參事會ノ決定ニ對シ行政訴訟ヲ提起シ得ル者ハ失職者トセラレタル議員若クハ異議ノ當事者ニ限ルモノトス(縣會議員被選舉權ノ有無ニ關スル縣參事會ノ決定不服ノ訴 明治三十三年第五百二十三號 明治三十三年五月二十一日宣告)

〔理由〕原告ハ府縣會議員タル者ハ府縣制第三十七條第一項ニ定ムル所ノ被選舉權ニ關スル異議ヲ主張シ得ヘキニ依リ同條第四項ニ依リ出訴ノ權アリト言フト雖抑府縣制第三十七條第

一項ハ府縣會議員ノ被選舉權ニ關スル異議ノ決定ヲ府縣參事會ノ權限ニ屬セシムル原則ヲ規定シタルノミナレハ原告陳述ノ如ク一己ノ議員ニシテ參事會ニ向テ直ニ異議ヲ主張スルコトハ法律ノ許サ、ル所ナリ隨テ參事會ノ決定ニ對シテハ失職者トセラレタル議員若クハ異議ノ當事者ニ非サレハ同條第四項ニ依リ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノト解釋セサルヘカラス本件ノ原告澤田十太郎外二名ハ縣會議員タルモ自己ノ被選舉權ニ毫モ關係アルコトナク即チ異議ノ當事者トナルコトヲ得サルモノナレハ本訴ヲ提起スルノ權利ナシトス

○縣ノ爲メ工事ノ請負ヲ爲シタルモ選舉前ニ於テ其工事全ク竣功シ既ニ検査モ濟ミテ單ニ請負金ノ拂渡ヲ受クルノ關係ヲ有スルニ過キササル者ハ府縣制第六條第九項ニ該當セス(縣會議員ノ當選效力ニ關シ縣參事會ノ決定ニ對スル異議ノ訴 明治三十三年第四百七十七號 明治三十三年六月六日宣告)

〔理由〕被告ハ本件選舉ノ當時原告ハ縣ノ爲メ工事請負中ノ者ナレハ府縣制第六條第九項ニ該當スル無資格者ナリト云フト雖モ原告カ請負タル本件工事ハ選舉前ニ於テ工事全ク竣功シ既ニ検査モ濟ミ唯請負金ノ拂渡ヲ了セサルニ過キササルコトハ證人山形縣吏齋藤謙三同技手吉川漸二郎ノ證言及原告三號證ニ依リ明白ナリ而シテ乙第一號證工事請負規程第十九條ハ主ト

シテ請負人ノ責任ヲ規定シタルニ止マルモノナレハ之ニ依リ本件ノ如ク請負工事悉皆完了シ僅カニ債權ノ關係ヲ有スルニ過キササル者ヲ以テ府縣制第六條第九項ニ該當スル者ト云フヲ得ス從テ被告カ原告ハ被選舉資格ヲ有セサルモノトシ其當選ヲ無効ト決定シタルハ適法ニアラス

○縣知事ノ定メタル方式ヲ具ヘタル投票用紙ヲ用キタル以上ハ其用紙ノ裏面ニ管理者タル村長ノ職印ヲ押捺シテ選舉人ニ交付シタルノ一事ヲ以テ府縣制第十八條第七項ニ違背シタルモノト謂フヲ得ス(縣參事會ノ不當決定取消請求ノ訴 明治三十三年五月十一號 明治三十三年六月八日宣告)

〔理由〕 本件勝間田村投票所管理者タル村長カ選舉人ニ交付シタル投票用紙ハ縣知事ノ定メタル方式ヲ具ヘタルモノナルモ其裏面ニ村長ノ職印ヲ押捺シタルノ事實アルヲ以テ被告ハ之ヲ違式ノ用紙ト認定シ府縣制第十八條第七項ニ違背スルモノナリト云フト雖抑モ府縣制第十八條第七項ハ投票用紙ノ亂雜區々ニ涉ルノ弊害ヲ防止シ選舉ノ正確ヲ失ハシメサルノ規定ナリ本件村長ノ行爲ハ投票用紙ヲ亂雜ナラシメ又ハ選舉ノ正確ヲ失ハシムルノ事實無キモノナレハ村長カ投票用紙自體ハ縣知事ノ定メタル方式ニ依リタルモノニ單ニ職印ヲ押捺シ之ヲ總

選舉人ニ交付シタルノ一事ヲ以テ府縣制第十八條第七項ニ違背シタルモノト斷定スルヲ得ス隨テ本件選舉ハ之ヲ無効トスルノ理由ナキモノトス

○無資格者ノ爲シタル投票アリタル場合ニ於テ之ヲ當選者ノ得票中ヨリ控除スルモ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルトキハ其選舉ハ無効ニアラス(縣會議員選舉取消ノ訴 明治三十三年第七號 明治三十三年六月二十二日宣告)

〔理由〕 原告ハ本件選舉ニ於テ無資格者ノ投票アルヲ以テ選舉ハ根本ニ於テ違法ナリ且ツ選舉ノ結果トハ選舉ヲ終了シ有效投票ヲ調フルヨリ當選者ヲ定ムルマテノ謂ヒニシテ單ニ當選ノ結果ノミニアラスト云フト雖モ府縣制第三十五條但書ニ所謂選舉ノ結果ニ異動云々トアルハ當選ノ結果ヲ指シタルニ外ナラス然リ而シテ無資格者ノ爲シタル投票ハ其違法タルコト勿論ナルモ之レカ爲メ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルトキハ選舉ヲ取消スヘキモノニ非ス然ルニ本件選舉ニ於テハ無資格者ノ投票三票ニ過キササルヲ以テ之ヲ假リニ當選者中最少數得票者ノ得票中ヨリ控除スルモ尙ホ次點者ノ得票ヨリ多キヲ以テ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルコト明ナリ故ニ被告カ府縣制第三十五條但書ニ依リ本件選舉ヲ無効トスヘキ限リニアラスト決定シタルハ不當ニ非ス

○投票函ヨリ文字ノ記載ナキ投票用紙ノ一葉出タルノ一事ヲ以テ府縣制第十七條ノ規定ニ違背セル選舉ナリト謂フヲ得ス(縣會議員選舉取消ノ訴 明治三十三年六月二十五日宣告)

〔理由〕原告ハ第一選舉場ニ出會シタル選舉人總數ヨリ一票ノ餘票アルコトハ選舉長及ヒ被告參事會カ確認スル所ニシテ即チ府縣制第十七條ノ規定ニ違背スト云フト雖投票函ヨリ文字ノ記載ナキ投票用紙ノ一葉出タル一事ヲ以テ府縣制第十七條ノ規定ニ違背セリト謂フヲ得ス第二村長選舉掛ハ投票函ヲ旅人宿ニ持込夜中投票函ヲ開キ投票ノ取捨ヲ爲シタル事ナレハ該投票函中ノ投票ハ全部疑ヲ存スト主張スレトモ此事ニ關シ一モ立證ヲ爲サズ單ニ原告ノ陳辯スルニ止マルヲ以テ之レカ事實ヲ認ムルニ由ナシ從テ被告ノ裁決ハ取消スヘキ理由ナキモノトス

○府縣制第二十七條第三號ハ投票ヲ審査點檢シテ何人ヲ選舉シタルヤヲ確認シ得ルニ於テハ之ヲ有效ト爲スノ規定ナリ(縣會議員當選效力ノ訴 明治三十三年七月十二日宣告)

〔理由〕原告ハ府縣制第二十七條第三號ノ規定ハ選舉人名簿ニ記載シアル氏名ヲ標準トシ之

ニ適合セサル投票ハ無効トスルノ趣旨ナレハ慎ヲしんと記載シタル投票又ハ字畫運筆ノ不整ニシテ一柳慎ト讀ミ得サル投票ハ無効ト爲ス可キ筈ナルニ之ヲ有效トシ如何ナル標準ニ依リ之ヲ有效ト爲シタルヤ其理由ヲ説明セサル縣參事會ノ決定ハ違法ナリト云フモ府縣制第二十七條第三號ノ規定ハ各投票ニ就キ逐一審査點檢ヲ爲シ現實何人ヲ選舉シタルヤヲ確認シ得ルニ於テハ之ヲ有效ト決定シ得ルモノト解釋セサル可カラズ而シテ縣參事會ハ三百八票ノ無効投票ニ就キ逐一審査點檢ヲ爲シ以テ其有效無効ヲ決シタルモノナレハ如何ナル標準ニ依リ之ヲ決シタルヤニ付其理由ヲ説明スルノ必要ナキモノトス依テ參事會ノ決定ハ相當ニシテ原告云フカ如キ不法アルモノニ非ス

○會社ノ役員カ現ニ其辭任ヲ爲シタル以上ハ商業登記簿ニ未タ其記載ナキモ被選舉權ヲ有ス(縣會議員當選無効決定不服ノ訴 明治三十三年第五十六號 明治三十三年七月六日宣告)

〔理由〕本件所争ノ要點ハ原告ハ明治三十二年九月二十六日選舉ノ當時海南新聞株式會社ノ役員タリシヤ否ヤニ在リ被告ハ原告カ該會社ノ役員ヲ辭任シタリトノコトハ商業登記簿ニ其記載ナキヲ以テ公ニ認め難シト云フモ原告カ現實該會社ノ役員ヲ辭任シタルモノナルニ於テハ單ニ商業登記簿ニ其記載ナキ一事ヲ以テ本件ノ如キ公法上ノ關係ニ付仍ホ府縣制第六條第

九項ニ所謂法人ノ役員ナリト云フ可ラス而シテ原告カ明治三十二年九月二十四日右辭任ノ手續ヲ了シタルコトハ甲第一號證ニ依リ明ナルヲ以テ本件選舉ノ當時原告ハ被選舉權ヲ有セサルモノト云フヲ得ス故ニ被告カ府縣制第三十五條第二項ヲ適用シ原告ノ當選ヲ無効ト決定シタルハ適法ニ非ス其他被告ニ於テ陳述スル所アルモ本件裁判ニ必要ナキヲ以テ説明ヲ與ヘス

○投票ニ記載シタル氏名ニ些少ノ瑕瑾アルモ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ得ルニ於テハ有效ナリ(不法決定取消ノ訴 明治三十二年第二百二十三號
明治三十三年七月九日宣告)

〔理由〕 原告ハ中ノ目猪三郎及中野目猪三郎ト記シタル投票ハ中ノ目猪三郎ヲ指シタルモノニアラスシテ無効ノ投票ナリト主張スルモ抑投票ハ其有效無効ヲ査定スルニ當リ投票面記載ノ氏名ニ些少ノ瑕瑾アルモ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ得ル場合ニ於テハ之ヲ無効ト爲スヘカラス本件係争ノ二箇ノ投票ハ「野」若クハ「ノ」ノ贅字ヲ誤記シタルモノニシテ中ノ目猪三郎ノ五字ハ明カニ記載シアリ且ツ中ノ目猪三郎ハ五百餘ノ得票アル事實ニ徴スレハ該投票ハ中ノ目猪三郎ヲ指シタルモノト確認スルニ餘リアリトス又原告ハ西白河郡内ニ中野目及中ノ目ト稱スル區名並ニ中野伊三郎ナル人名アルヲ立證スルモ其區名及人名ハ本件ニ直接ノ關係ナキ名稱ナレハ之ヲ以テ原告ノ主張ヲ確ムル證據ト爲スニ足ラス依テ被告ノ裁決ハ取消スヘキ理由ナキモノトス

ノトス

○府縣制第十三條ニ投票ヲ行フヘキ日時トアルハ投票函閉鎖ノ時刻ヲ定ムヘキコトヲ命シタル規定ニアラス(府會議員選舉無効ノ訴 明治三十三年第二十九號
明治三十三年七月九日宣告)

○府縣知事ハ投票所閉鎖ノ時刻ヲ限リ同時刻マテニ入場シタル者ニ投票ヲ許スノ方法ヲ以テ投票日時ヲ定ムルコトヲ得(同上)

〔理由〕 原告ニ於テハ府縣制第十三條ニ府縣知事ハ投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メ云トアリテ京都府知事カ投票函閉鎖ノ時刻ヲ投票當日午後二時ト定メテ之ヲ告示シタルハ正ニ此ノ規定ニ則リタルモノナレハ投票管理者ハ右告示ヲ嚴守シテ投票函閉鎖時刻ヲ經過シタル投票ハ一切之ヲ受理スヘカラサルニ右告示ヲ以テ投票所閉鎖ノ時刻ヲ定メタルモノトシ右時刻マテニ投票所ニ入りタルモノハ皆投票ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ以テ投票函閉鎖時刻ヲ經過シタル後午後六時マテモ投票ヲ爲サシメタルハ違法ナリト云フト雖府縣制第十三條ハ單ニ投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メト規定シタルニ過キスシテ投票函閉鎖ノ時刻ヲ定メサルヘカラサル規定ニアラサレハ府縣知事ハ投票所閉鎖ノ時刻ヲ限リ同時刻マテニ入場シタル者ニ投票ヲ許スノ方法ヲ以テ投票日時ヲ定ムルコトヲ得ルハ勿論ナリ而シテ京都府告示ニ投票函閉鎖トアルハ府縣會

規則ノ用語ヲ製用シタルモノニシテ投票場閉鎖ノ意義ニ慣用シ來リタル語ナレハ右告示ヲ以テ投票所閉鎖ノ時刻ヲ定メタルモノト視ルモ敢テ不當ニアラス然レハ同時刻マテニ入場シタル選舉人ニ投票ヲ爲サシメタルハ相當ニシテ府縣制ノ規定及告示ノ趣旨ニ違背シタルモノニアラス

○縣會議員選舉ノ投票管理者カ其選舉管理者タル郡長ノ命令ニ依リ投票函ヲ投票ノ翌日マテ留置キタルハ違法ニアラス(縣參事會ノ不當決定取消請求ノ訴
票ノ翌日マテ留置キタルハ違法ニアラス(縣參事會ノ不當決定取消請求ノ訴
明治三十三年第三十七號
明治三十三年七月九日宣告)

〔理由〕 本訴ノ要點ハ柿島村外二箇村カ郡長ノ通牒ニ依リ投票函ヲ投票ノ翌日マテ留置キタルハ府縣制第二十一條ニ違背シタルモノナルヤ否ニ在リ而シテ被告ハ郡長ハ其職務上斯ノ如キ命令ヲ發スヘキ權限ナキ者ナレハ假ニ之ヲ發シタリトスルモ爲ニ法律ノ明文ニ違背スルコト能ハスト主張スルモ郡長ハ選舉管理ノ責任アル者ナレハ其必要上右等ノ命令ヲ發スルハ其職權ノ許ス所ニシテ同制第二十一條ハ之マテヲ禁シタルモノニアラス而シテ甲第二號證乃至甲第五號證ニ依レハ郡長ヨリ翌日午前八時マテニ投票函ヲ送致スヘキ旨ヲ達シタルハ明白ノ事實ニシテ右三村ハ之ニ依リ留置キタルモノナレハ同制第二十一條ニ違背シタルモノニアラス

○單ニ投票欄内ニ縦線ヲ畫シ若クハ最初ニ或文字ヲ記シテ之ヲ消抹シ其痕跡ヲ止メザリシ投票ハ選舉ニ有害ナル他事記入ト認ムルヲ得ス(縣會議員當選ニ係ル不當決定取消ノ訴 明治三十三年第二十八號
明治三十三年九月二十六日宣告)

〔理由〕 本件原告カ有效投票ナリト主張スル四票中被告提出第二號證第二號投票ハ單ニ投票欄内ニ縦線ヲ畫シ第十號投票ハ最初ニ或ル文字ヲ記シテ之ヲ消抹シ其痕跡ヲ止メザルモノナレハ府縣制第二十七條第五號ノ解釋上選舉ニ有害ナル他事記入ト認ムルヲ得ス又中村爲弘ノ得票ニ於テ原告カ無効ナリト云フ八票中被告提出第二號證第六號投票ハ鉛筆ヲ以テ記載シタルモノニシテ其文字極メテ明瞭ヲ缺キ到底何人ヲ指シタルヤヲ確認シ難シトス然ラハ中村爲弘ノ總得票百二十點ヨリ一票ヲ減シ中山鹿雄ノ總得票百十九點ニ二票ヲ加ヘサルヘカラス從テ其結果トシテ中山鹿雄ノ得票ハ中村爲弘ノ得票ニ比シ二票ノ多數トナルヲ以テ原告主張ノ理由ナキ點ニ對シテ一々説明ヲ與フル必要ヲ見ス

○選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ事實上之ニ關係スルト否トヲ問ハス總テ被選舉權ヲ有セサルモノトス(縣會議員當選無効ノ決定取消請求ノ訴 明治三十二年第一百二
明治三十三年十月五

十四號
日宣告

○町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助スヘキ職責ヲ有シ隨テ縣會議員選舉事務ニ付テモ亦町村長ヲ補助スヘキ職責アル吏員ナレハ其關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セサルモノトス(同上)

〔理由〕 府縣制第六條第八項ハ法令ノ規定ニ依リ選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ事實上之ニ關係スルト否トヲ問ハス總テ縣會議員被選舉權ヲ有セシメサル規定ナレハ町村助役ノ如キ町村制第七十條ニ依リ町村長ノ事務ヲ補助スヘキ職責ヲ有シ隨テ縣會議員選舉事務ニ就テモ亦町村長ヲ補助スヘキ職責アル吏員ハ其關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セサルモノト解釋セサルヲ得ス被告カ此理由ヲ以テ米子町名譽助役タル原告ノ米子町ニ於テ得タル投票二百五十七點ヲ無効ト決定シタルハ違法ニアラス然レトモ其次點者ト認メタル森磯吉ハ原告ノ立證及被告ノ追答書ニ依リ縣會議員被選舉權ヲ有セサルコト明確ナルニ依リ森磯吉ノ得票二百二十三點ハ總テ無効タルヘキニ被告ハ之ヲ有效ト認メ原告ノ得票百四十七點ヲ少數ナリトシテ以テ原告ノ當選ヲ無効ト決定シタルハ其當ヲ得タルモノニアラス

○當選ノ當否ヲ決定スルニハ何人カ正當ニ有效投票ノ多數ヲ得タルヤヲ判斷セ

サルヘカラス(縣會議員選舉異議ニ關スル岐阜縣參事會ノ不當決定取消請求ノ訴 明治三十三年第二百三十六號 明治三十四年二月二十日宣告)

〔理由〕 原告ハ被告カ原告ノ異議申立以外ニ涉リ且ツ曩ニ無効ト確定シタルニモ拘ハラス十七票ヲ今峰儀造ノ得票ナリト決定シタルハ越權不法ナリト主張スト雖モ原告カ被告ニ對シ今峰儀造ノ當選ヲ無効トスルノ決定ヲ求メタルコトハ異議申立書ニ依リ明ニシテ即チ原告ノ爭フ所ハ今峰儀造カ當選ノ效力如何ニアルヲ以テ其當否ヲ決定センニハ何人カ正當ニ有效投票ノ多數ヲ得タルヤヲ判斷セサルヘカラス故ニ被告カ原告ノ申立ニ係ル次點者中村敬一ノ得票ヲ調査スルト同時ニ今峰儀造ハ果シテ有效投票ノ多數ヲ得タルモノナルヤ否ヤヲ審査判斷スヘキハ審理上當然ノ筋合ナルヲ以テ被告ノ處置ハ不法ナリト云フヲ得ス

○新聞社カ一定ノ料金ヲ以テ日々發行ノ新聞紙ニ府縣令達等ノ掲載ヲ引受クルハ府縣制第六條第九項ニ所謂府縣ノ爲メ請負ヲ爲スモノトス(縣會議員當選ノ效力ニ關スル縣參事會不當決定取消請求ノ訴 明治三十三年第二百九十四號 明治三十四年二月二十二日宣告)

〔理由〕 原告ハ府縣制第六條第九項ニ「府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス云々」トアル請負トハ土木工事ノ請負ヲ云フモノニシテ本件ノ如キ縣ノ令達掲載又ハ其ノ印刷物ヲ引受クルハ右請負ノ中ニ

包含セサルモノナリト云フト雖モ府縣制第六條第九項ニハ單ニ「府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス云々」トノミアリテ別ニ其請負ノ意義ニ付限定シタル法意ノ見ルヘキモノナケレハ右請負トハ原告主張ノ如ク特ニ土木工事ノ請負ヲ指シタルモノト云フヘカラス即チ德島毎日社カ明治三十二年以來德島縣ヨリ豫テ一定ノ料金ヲ以テ日々發行ノ新聞紙ニ德島縣令達等ノ登載方ヲ引受クル如キハ府縣ノ爲メ請負ヲ爲スト云フニ包含スヘキモノナルヲ以テ被告カ前法條ヲ適用シ本件ノ決定ヲ爲シタルハ不法ニアラス

〔同一判例〕 縣會議員當選ノ效力ニ關スル縣參事會不當決定取消請求ノ訴 明治三十三年第九十五號
三十四年二月二十二日宣告

○投票函到達ノ後一日ヲ經テ開票スルモ其投票函ヲ嚴重ニ警護シテ投票拔替等ノ恐ナキ以上ハ其選舉ハ有效ナリ(縣會議員選舉取消請求ノ訴 明治三十二年第九十八號日宣告)

〔理由〕 原告ハ本件選舉ハ府縣制第二十五條ニ違背シ投票函ノ到達シタル後一日ノ間ヲ置キ開票シタルタメ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ虞アルヲ以テ同制第三十五條ニ依リ之ヲ無効トスヘキモノナリト云フト雖本件ノ場合ニ於テ投票函ハ嚴重ニ警護セラレアルヲ以テ原告主張

ノ如ク投票拔替等ノ恐レナク其他選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ虞アリト認ムヘキ事實存セザレハ第三十五條但書ノ規定ニ依リ選舉ヲ無効トスヘキ限ニ在ラス

○選舉區内ノ一投票所ニ於ケル選舉カ定規ニ違背シタル場合ト雖モ苟モ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アルトキハ府縣制第三十五條ニ依リ其選舉全體ヲ無効ト爲スヘキモノトス(縣會議員選舉ノ效力ニ關スル異議ノ決定ニ對スル訴 明治三十三年第二百二十三號
明治三十四年五月三十一日宣告)

〔理由〕 本件所爭ノ要點ハ選舉區内ノ一投票所ニ於ケル選舉カ定規ニ背キ且選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルカ爲メ府縣制第三十五條ニ依リ選舉ヲ無効トスル場合ニ於テ選舉區全部ノ選舉ヲ無効トスヘキヤ將タ一投票所ノ選舉ノミヲ無効トスヘキヤ否ニ在リ而シテ被告ハ本條ニ所謂選舉無効トハ其瑕瑾ノ影響スヘキ區域ヲ意味スルモノニシテ即チ其瑕瑾カ選舉全體ニ關スルトキハ其全部又一部ノミニ關スルトキハ其一部ノ選舉ヲ無効ナラシムルノ旨趣ナリト云フト雖府縣制第三十五條ニ所謂選舉無効トハ選舉全體ヲ指シタルモノナレハ其瑕瑾カ一部ニ存スルト否トヲ問ハス苟モ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ虞アルトキハ選舉全體ヲ無効トセザルヘカラス故ニ本件ノ場合ニ於テ被告カ一投票區内選舉ノミヲ取消シタルハ其當ヲ得タルモノニ

非ス

○投票管理者カ選舉執行中投票函ヲ開キ在中投票ヲ無効ナリトシテ之ヲ燒燬シ再ヒ選舉人ヲシテ投票ヲ爲サシメタルハ選舉ノ規定ニ違背シタル行爲ニシテ府縣制第三十五條ヲ以テ論スヘキモノナリト雖モ單ニ職務執行上ノ過失タルニ過キサル場合ニ於テハ選舉行爲トシテ何等ノ效力ナキモノト謂フヲ得ス(縣會議員選舉效力ニ關スル決定不服ノ訴 明治三十三年第五十二號
明治三十四年六月三日宣旨)

○選舉規定ノ違背カ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アルヤ否ヤハ違法手續ニ依リテ行ヒタル投票數ヲ當選者ノ得票中ヨリ控除シ之ヲ落選者ノ得票ニ比シ其結果ヲ見テ決定スヘキモノトス(同上)

〔理由〕原告ニ於テハ第一深良村長カ同村ニ於ケル投票管理者トシテ縣會議員ノ選舉投票ヲ爲サシムルニ方リ既ニ選舉シ了リタル投票ヲ無効ナリト決定シ擅ニ投票函ヲ開キ函中ノ投票悉皆ヲ燒燬シタル後府縣知事ノ告示ヲ待タス直ニ再度ノ投票ヲ爲サシメタル行爲ハ背法越權ニシテ結局一私人カ自擅ノ行爲ト均シク選舉行爲トシテ何等ノ效力ナキモノナリト云ヘリ按スルニ投票管理者タル深良村長カ選舉執行中投票函ヲ開キ在中投票ヲ無効ナリトシテ悉皆之

ヲ燒燬シタル後再ヒ選舉人ヲシテ投票ヲ爲サシメタル行爲ハ府縣制第二十五條第二十八條及第十三條ノ違背ニシテ同制第三十五條ヲ以テ論スヘキ瑕瑾アル行爲タルヤ勿論ナリト雖投票管理者カ私意ヲ挿ミテナシタルニアラス單ニ職務執行上ノ過失タルニ過キサルカ故ニ之ヲ以テ一私人ノ行爲ト均シク選舉行爲トシテ何等ノ效力ナキモノト謂フヲ得ス第二假リニ一步ヲ讓リ右深良村長ノ行爲ハ府縣制第三十五條ヲ以テ論スヘキモノトスルモ當選者土屋五東ト次點者市河篤造トハ得票ノ差僅カニ七十三票ニ過キス而シテ深良村ニ於ケル選舉有權者ハ六十二名ナルカ故ニ今土屋五東ノ得票高ヨリ六十二票ヲ控除シ而シテ右六十二名カ更ニ有效ニ投票スルモノトセハ其投票ハ何人ノ得點ニ歸スルヤ知ルヘカラサルヲ以テ深良村ニ於ケル投票ノ效力如何ハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ虞アルモノト謂ハサルヘカラスト云ヘリ按スルニ選舉規定ノ違背カ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ虞アルヤ否ヤハ違法手續ニ依リテ行ヒタル投票數ヲ當選者ノ得票中ヨリ控除シ之ヲ落選者ノ得票ニ比シ當選ノ結果ニ異動ヲ生セサルヤ否ヤヲ見レハ足ルモノニシテ控除スヘキ投票ヲ爲シタル選舉人カ再度ノ投票ヲナスヘキモノトシテ其結果マテモ見ルヘキモノニアラス左レハ本件深良村ニ於ケル六十二票ハ凡テ土屋五東ノ得點ニ歸シタルモノト假定シ之ヲ同人ノ得票高ヨリ控除スルモ市河篤造ノ得點ニ比シ尙十

一票ノ高點ニシテ深良村ノ六十二票ハ本件選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ處ナキモノトス

○府會議員選舉取消ノ訴ハ府縣制第二百二十八條第二項ニ定メタル二十一日ノ期間ニ提起スルコトヲ要ス(府會議員選舉取消ノ訴 明治三十四年第二百一十一號 明治三十四年六月三日宣告)

〔理由〕原告ノ訴求ハ明治三十四年一月十四日淺草區役所ニ於テ執行シタル府會議員補缺選舉ハ選舉ノ規定ニ違背シタルモノナルヲ以テ異議ノ申立ヲ爲シタルニ府參事會ハ該選舉ハ取消ス可キ限リニアラスト決定シ三月二十九日之ヲ原告ニ交付セシメタルモ之ニ服スルコト能ハス依テ本訴ヲ提起シ該決定並ニ補缺選舉ノ取消ヲ請フト云フニ在ルモ原告ハ本件ノ訴狀ヲ當裁判所ニ提出シタルハ五月二十四日ナルヲ以テ決定書ヲ原告ニ於テ受領シタル日ヲ翌日即チ三月三十日ヨリ起算スルトキハ其日數五十六日トナレリ然レハ本件ノ出訴ハ府縣制第二百二十八條第二項ノ出訴期限ヲ經過シタルモノナルヲ以テ本訴ハ之ヲ受理スルノ限リニ在ララスト

○投票用紙ノ方式ヲ定メタル縣知事ノ告示ニ町村役場ノ印章ヲ押捺スヘキ旨ノ規定アル場合ニ於テ町村役場ノ印章ナキ用紙ニ依レル投票ハ之ヲ無効トス(縣會議員當選ニ關スル不當決定取消請求ノ訴 明治三十三年第二百六十號 明治三十四年六月二十六日宣告)

〔理由〕本件ノ爭點ハ投票用紙ニ其町村役場ノ印章ヲ欠キタルハ府縣制第二十七條第一號ニ該當スルヤ否ヤニ在リ依テ審按スルニ原告ハ投票用紙ニ町村役場ノ印章ヲ脱落セルモ單ニ此一事ヲ以テ成規ノ用紙ヲ用キサルモノトシ之ヲ無効トスヘキモノニアラスト云フモ被告縣知事カ甲第三號證ノ如ク縣會議員選舉投票用紙ノ方式ヲ一定シテ之ヲ告示シ而シテ右告示ニ依レハ町村役場ノ印章ヲ投票用紙ニ押捺セシムルヲ以テ其方式ノ一トセラレタルコトハ明カナリ而シテ本件原告ノ得票中二百九十八票次點者家頭昌德ノ得票中百四十二票ハ孰レモ町村役場ノ印章ナキモノナレハ其一定ノ方式ニ背キタル用紙ニシテ其原因ハ當該吏員ノ過失ニ出タルト否トヲ問ハス同制第二十七條第一號ニ依リ之ヲ無効トセサルヘカラス故ニ被告ノ決定ハ相當ニシテ原告ノ請求ハ其理由ナキモノトス

○町村制第二十一條ハ選舉ニ關係ナキ者ノ妄リニ入場スルコトヲ禁スル趣旨ニシテ選舉會場取締ノ爲メニ要スル警察官ノ入場ヲ禁シタルモノニアラス(縣參事會不當裁決取消ノ訴 明治三十四年第二百七十四號 明治三十四年十二月十一日宣告)

○既ニ土地ノ所有權ヲ取得シタル以上ハ其取得ト同時ニ納稅義務發生スルヲ以テ偶々徵稅手續上本人ヨリ納付セサルコトアルモ町村負擔ノ分任ニ影響ヲ及ホ

スコトナシ(同上)

〔理由〕 原告ニ於テ第一選舉當日二名ノ巡查選舉取締ト稱シ入場シ且選舉ノ勸誘ヲ爲シタルハ町村制第二十一條ニ違背シタル不法ノ選舉ナリト云フト雖該條ノ規定ハ選舉ニ關係ナキ者ノ妄リニ入場スルヲ禁スルノ旨趣ニシテ選舉會場取締ノ爲メ要スル警察官ノ入場マテヲ禁シタルモノニアラサレハ巡查ノ入場ヲ以テ選舉ノ規定ニ違背シタルモノト謂フヲ得ス又選舉勸誘云々ハ單ニ口頭一片ノ陳述ニ止マリ毫モ證據ノ徵スヘキモノアラサレハ其事實ヲ認ムルヲ得ス第二原告ハ選舉人那須大喜治ハ町村制第七條ニ依リ滿二個年間町村ノ負擔ヲ分任セサルヲ以テ選舉權ヲ有セス隨テ其投票ハ無効ナリト云フト雖同人ハ明治三十二年四月十二日土地ヲ買入レ其所有權ヲ取得シ爾來引續キ土地ニ對シ村稅ヲ負擔シタルモノナレハ選舉ノ日マテ滿二個年間町村ノ負擔ヲ分任シタルモノト謂ハサルヘカラズ但同年五月ノ納期ニ於テ前所有者ヨリ村稅地價割第一期分ヲ納メタルノ事實アルモ既ニ土地ノ所有權ヲ取得シタル以上ハ其取得ト同時ニ納稅義務發生スルヲ以テ偶徵稅手續上本人ヨリ納付セサルコトアルモ町村負擔ノ分任ニ影響ヲ與フルモノニアラス故ニ那須大喜治ノ爲シタル投票ハ無効ナリト謂フヲ得ス

○府縣制第六條第六項ニ所謂府縣ノ官吏ニハ郡ノ官吏ヲ包含セス(縣會議員當選

無効決定取消ノ訴 明治三十四年第二百三十八號
明治三十五年三月十九日宣告

〔理由〕 被告及從參加人ハ郡ノ官吏ハ府縣經濟ノ負擔ニ屬スルモノナレハ府縣制第六條第六項ノ一ニ所謂府縣ノ官吏ノ中ニ包含スルモノナリト云フモ郡制第六條第六項第一ニ所謂府縣ノ官吏及有給吏員ト區別シアルニ依リ之ヲ觀レハ府縣制第六條第六項ニ所謂府縣ノ官吏ノ中ニハ郡ノ官吏ヲ包含セサルモノト解釋セサルヲ得ス故ニ原告カ非職那須郡書記ナルノ故ヲ以テ栃木縣會議員ノ被選舉權ナキモノトシ原告ノ當選ヲ無効トシタル被告ノ裁決ハ其當ヲ得タルモノニアラス

○無効ノ投票アルモ之ヲ當選者ノ得票ヨリ控除シテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルトキハ其選舉ハ有效ナリ(北海道會議員選舉取消ノ訴 明治三十四年第二百六十四號
明治三十五年十月十五日宣告)

〔理由〕 原告ハ選舉人善浪善太郎坂上貞平ノ兩名ハ各自投票ヲ爲サスシテ各其長男ヲシテ代理投票ヲ爲サシメタリト云フモ證人掛場吉右衛門仁科養ノ各證言ニ依レハ善浪善太郎坂上貞平ハ各自身選舉場ニ出頭シ正當ニ投票ヲ爲シタルコトヲ認ムルニ足ル原告提出ノ甲第三號證證書ハ被告ノ認メサルモノニシテ一個人ノ隨意ニ作爲シ得ヘキモノナレハ原告主張ノ證據ト爲スヲ得ス又原告ハ名簿ニ横山初太郎トアルモ斯ノ如キ者ハ居住者ニ非ス然ルニ横山初三

郎ナル者カ投票ヲ爲シタルヲ以テ該投票ハ無効ナリト云フモ被告提出ノ戶籍簿中戶主横山初三郎トアル側ニ前戶主横山初太郎トアルニ參照スレハ被告陳述ノ如ク名簿調製ノ際初三郎ト記載スヘキヲ初太郎ト誤寫シタルモノト認ム縱シ原告主張ノ如ク横山初三郎ノ投票カ無効ナリトスルモ選舉錄ニ依レハ當選者友田文次郎ノ得票數百五十三票同武市清行ノ得票數八十五票次點者壽原重太郎ノ得票數七十八票ナルヲ以テ該一票ヲ當選者ノ得票ヨリ控除スルモ次點者ノ得票ニ比シ尙多數ナレハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルモノトス以上ノ如クナルヲ以テ原告ノ請求ハ理由ナキモノトス

○縣會議員當選ノ效力ニ關スル訴訟ニ於テ苟モ當選ノ效力ヲ左右スヘキ事實ハ縣參事會ノ決定ノ理由ト爲リタルト否トニ拘ハラヌ取テ以テ判決ノ理由ト爲スヲ妨ケス(縣會議員當選ノ效力ニ關スル訴 明治三十五年第三百三十七號 明治三十六年四月二十二日宣告)

〔理由〕原告ハ古來吉田村ニ居住スル者ニシテ他ニ寄留シタルコトナキカ故ニ吉田村ニ住居ヲ有スルモノナリト謂フト雖モ原告ノ家族ハ現ニ吉田村ニ居ラス原告自身モ亦公務ニ從事セサル間ハ多クハ益田町ナル家族ノ家ニ在ルコトハ原告自ラ陳述スル所ナルノミナラス吉田村ニ於ケル原告ノ家宅ハ之ヲ他人ニ賃貸シ吉田村ニ於テハ住民ノ負擔スヘキ村稅戶別割明治三

十三年度及ヒ同三十四年度共ニ相當納期ニ於テ原告ニ賦課セラレス明治三十五年一月ニ至リ原告カ自ラ戶別割ヲ負擔スル義務アルコトヲ申出タルニ因リテ始メテ之ヲ賦課セラレ縣會議員及ヒ村會議員ノ選舉名簿ニハ原告ヲ登錄セサル等ノ事實ニ依リテ見ルトキハ原告ハ吉田村ニ於テ住居ヲ有セザリシモノト推定セサルヲ得ス原告ハ時々吉田村ノ家宅ニ歸ルコトアルコト、旅費支給上吉田村ヲ以テ現住地トシテ計算セラレタルコト、所得稅ノ納付ヲ吉田村ニ於テ爲シタルコト、官衙又ハ銀行等ヨリ吉田村ニ於ケル原告ヲ宛名トスル郵便物ノ送達ヲ受ケタルコト等ノ事實ニ依リ原告ハ其住居ノ吉田村ニ在ルコトヲ主張スト雖モ以上ノ如キ事實ハ住居地ト本籍地ト異ナル場合ニ於テ本籍地ニ於テモ亦往々發生スルコトアルヘキモノナルヲ以テ此等ノ事實ハ以テ前記ノ推定ヲ覆ヘスニ足ラス假リニ原告主張ノ如ク其住居ハ吉田村ニ在リトスルモ原告ノ自認スル如ク原告所有地中地租金四圓六十四錢ニ對スル土地ハ他人ニ質入セルヲ以テ明治三十四年十二月十二日マテ即チ明治三十五年二月十九日執行シタル縣會議員選舉ノ時ヨリ僅カニ三四个月前マテハ原告ノ納メタル直接國稅額ハ八圓五錢六厘ニシテ縣會議員ノ被選權ヲ有スルニ必要ナル條件トシテ府縣制第六條ノ定メタル直接國稅納額ニ達セサルモノナリ原告ハ縣參事會決定ノ理由トナラサリシ事實ハ行政裁判所ニ於テ取テ以テ判決ノ

理由ト爲スヘキモノニアラスト謂フト雖本件訴訟ハ縣會議員當選ノ效力ニ關スルモノナルヲ以テ苟モ當選ノ效力ヲ左右スヘキ事實ハ縣參事會決定ノ理由トナリタルト否トニ拘ハラヌ取テ以テ當裁判所判決ノ理由ト爲スコト何等妨アルモノニアラス

○行政訴訟繫屬中其目的消滅ニ歸シタルトキハ之ヲ棄却スヘキモノトス(縣會議員被選舉權喪失ノ決定取消ノ訴 明治三十五年第三百六十四號 明治三十六年五月一日宣告)

〔理由〕原告ノ訴求ハ明治三十二年八月二十五日茨城縣縣會議員ニ當選シ職務從事中明治三十五年十一月十日詐欺取財未遂被告事件ニ依リ水戸地方裁判所ノ輕罪公判ニ付セラレタリトノ故ヲ以テ茨城縣參事會ハ同年十一月二十五日原告ヲ失職者ナリト決定シタルトモ市町村制第九條及第十二條ハ公民權停止ニ因リ市町村會議員ノ職ヲ失フヘキ旨規定シアルモ府縣制第十二條ハ公民權ノ停止ニ因リ府縣會議員ノ被選舉權ヲ喪失スヘキ旨規定セサルノミナラス市町村制ノ規定ヲ府縣會議員失格ノ場合ニ準用スヘキ法規ノ存スルコトナシ故ニ被告ノ決定ハ其當ヲ得サルヲ以テ之カ取消ヲ請求スト云フニ在リテ其目的ハ自己ノ被選舉權ヲ維持センコトヲ求ムルニ外ナラス然ルニ原告ハ本件訴訟中即チ明治三十六年三月三十日縣會議員ノ職ヲ辭シタルニ依リ訴訟ノ目的ハ既ニ消滅ニ歸シタルモノトス

○府縣制第六條第九項ニ所謂請負ハ廣義ニシテ普通請負ト稱スルモノハ總テ之ニ包含スルモノト解釋セサルヘカラス(違法決定取消ノ訴 明治三十六年第二十二號 明治三十六年五月二十五日宣告)

○府縣ノ金庫事務取扱ハ舊來ノ慣習ニ依リ普通請負ト稱スルモノナレハ之ヲ引受ケタル法人ノ取締役ハ即チ府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員ニ該當ス(同上)〔理由〕府縣制第六條第九項ニ所謂「請負」ハ廣義ニシテ普通請負ト稱スルモノハ總テ之ニ包含スルモノト解釋セサルヘカラス何トナレハ此規定ヲ設クルハ議事ノ公平ヲ保タンカ爲メ利害關係者ヲシテ之ニ參與セシメサルニ在レハナリ而シテ本件金庫事務取扱ノ如キハ舊來ノ慣習ニ依リ普通請負ト稱スルモノナレハ之ヲ引受ケタル尾三農工銀行ノ取締役森東一郎ノ如キハ即本項ニ所謂府縣ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ニ該當スルモノト謂ハサルヲ得ス

○府會議員ノ補闕選舉ニ際シ投票中一定ノ様式ヲ缺クモノ即チ區役所ノ印章ナキモノアルモ投票人員ニ對シ投票ノ數ニ不足アルコトナク又不正行爲アリシコトノ證左ナキ以上ハ該印章ノ押捺ナキハ當事者ノ疎虞ニ出ツルモノト認ムヘク之ヲ以テ投票ノ全數ヲ不正ナリト爲スヘキモノニアラス(府會議員補缺選

舉效力ニ關スル異議ノ決定ニ對スル訴

明治三十五年第三百四十六號
明治三十六年六月三日宣告

〔理由〕 原告ニ於テ投票所ニ選舉人ノ數ニ應スヘキ投票用紙ノ準備ナカリシ爲メ選舉人ハ正當ニ選舉ヲ爲スヲ得サリシ者アリ若シ一枚ニテモ其不足アルトキハ選舉會ハ未タ成立セサルモノナリ府縣制第三十五條但書ハ本件ノ如キ毫モ成立セサル選舉ニ適用スヘキモノニアラス又無効ト爲リタル投票ハ正當ノ投票用紙ト紙質寸法體裁ヲ同フシ唯下谷區役所ノ印章ヲ缺クノミナリ斯ノ如キ投票アルハ不正ノ行爲ニ出タルモノナレハ總テノ投票ニ信ヲ措キ難ク畢竟不正行爲ニ基ク選舉ハ適法ノ選舉ナリト謂フヲ得スト云フト雖東京市ニ於ケル府縣會議員ノ選舉ハ府縣制第四條但書第二十五條ニ基キ施行セラル、モノナレハ投票中一定ノ様式ヲ缺クモノ即チ下谷區役所ノ印章ナキモノアルモ投票人員ニ對シ投票ノ數ニ不足アリシ事實ナク又果シテ不正行爲アリシ事實ノ證左ナキヲ以テ投票ニ該印章ノ押捺ナキハ當事者ノ疎虞ニ出ツルモノト認ムルヲ相當トス故ニ投票ノ全數ヲ不正ナリト爲スヘキモノニアラス隨テ選舉會ハ不成立ナリト謂フヲ得ス

○同一縣内ノ甲市ニ於テ縣會議員ノ被選舉權ヲ有スル以上ハ乙市ニ於テ當選スルモノ之ヲ無効ト爲スヘキモノニアラス(縣會議員當選效力ニ關スル訴 明治三十六年三月二十三日宣告)

年第五百三十六號
年三月二十三日宣告

〔理由〕 按スルニ甲第一號乃至第六號證ニ依リ明カナル如ク同人ハ山形市ニ寄寓ヲ理由トシテ米澤市ノ市會議員ヲ辭シ山形市ニ寄留シタル後全家族ヲ同市ニ纏メタルト同時ニ飯酒盃文次ナル者ヲ米澤市ニ於ケル納稅代理人トシテ市役所ニ届出テ其以後米澤市ニ於テ戶數割ヲ納付シ居ラサル者ナレハ假令一个月内若干日數ハ同市ニ來リ各般ノ業務ヲ處理シ居タリトスルモ同市ノ住民ナリト認ムルコトヲ得ス之ニ反シ同人ハ二年以來山形市ノ住民ニシテ市稅タル所得稅附加稅ヲ同市ニ於テ納付シ並ニ山形市ニ於ケル所得ニ對スル所得稅年額十圓以上ヲ米澤市ニ於テ納付シ居タル事實ハ甲第十號及丙第一號證ニ依リ知ルヲ得ヘキノミナラス原告モ亦爭ハサル所ナリ然レハ成章ハ山形市ノ公民ニシテ縣會議員ノ被選舉權ヲ有スルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ山形市ニ於ケル所得ニ對スル所得稅ヲ米澤市ニ於テ納付シタルハ畢竟納稅者ノ便宜ニ出テタルニ過キサレハ其納付ヲ山形市ニ於テ爲シタルト同視ス可キモノトス而シテ既ニ山形市ニ於テ縣會議員ノ被選舉權ヲ有スル以上ハ同縣内ナル米澤市ニ於テ當選シタルモ其有效ナルコト論ヲ竣タサル所ナリ其他原告ニ於テ尙ホ論スル所アルモ裁判ニ必要ナキヲ以テ逐一説明ヲ爲サス依テ被告縣參事會ノ決定ハ理由ニ於テ當ヲ得サル所アルモ其

主文ハ相當ナルヲ以テ取消ス可キ限ニ在ラス

○市町村公民ニシテ輕罪ノ爲メ處罰セラレタルトキハ其刑期中公民タルノ權ヲ停止セラル、ニ止マリ之ヲ喪失スルモノニアラス從テ府縣制第六條第二項ノ被選舉權ノ如キハ其刑期滿了ト同時ニ之ヲ行フコトヲ得ヘキモノニシテ別ニ一定ノ期間經過ヲ要スルコトナシ(當選無效請求ノ訴 明治三十六年第五百五號 明治三十七年五月三十日宣告)

〔理由〕 府縣制第六條第二項ニ「府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス」トアリテ本件鈴本稻之輔ハ明治三十六年九月二十六日神奈川縣會議員ニ選舉セラレタル當時右規定ノ條件ヲ具有セル者ナレハ則チ縣會議員ノ被選舉權ヲ有シ其當選ノ有效ナルヤ勿論ナリトス原告ハ鈴本稻之輔カ賭博犯ノ爲メ處刑セラレ出獄後右當選ノ日迄八個月ヲ經過セシノミナレハ縣會議員タルノ資格ヲ有セサルヲ以テ其當選ハ無効ナリト云フモ賭博犯ノ刑期間ハ市制第九條第二項ニ依リ公民タルノ權ヲ停止セララル、ニ止リ之ヲ喪失スルモノニ非ス隨テ刑期滿了ト同時ニ當然其停止ハ消滅シ直ニ府縣制第六條第二項ノ被選舉權ヲ行フコトヲ得ヘキモノナリ刑期滿了後該被選舉權ヲ行フニ付別ニ一定ノ期間經過ヲ要スルモノニ非ス以上説明

ノ如クナレハ本件鈴本稻之輔カ神奈川縣會議員ニ當選シタルヲ以テ無効ナリト謂フヲ得ス

○府縣會議員ノ選舉ヲ無効ト爲スニハ選舉ノ規定ニ違背セルコト及ヒ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ虞アルコトヲ要ス(縣參事會裁決取消ノ訴 明治三十六年第五百二十一日宣告)

〔理由〕 府縣會議員ノ選舉ヲ無効ナリト爲スニハ府縣制第三十五條ニ明示スル如ク選舉ノ規定ニ違背セルコト及ヒ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アルコトヲ要ス本件竹生村投票所及ヒ東草野村投票所ノ投票函ハ虎姫村ニ設ケタル選舉會場ニ於テ受領ノ際其鎖鑰外レアリタルモ該投票函カ指定ノ時刻ニ於テ投票管理者及ヒ投票立會人立會ノ上閉鎖セラレ且其閉鎖後選舉會場マテ安全ニ保管送致セラレタルコトハ甲第二號證投票錄甲第三號證選舉錄甲第四號證手續書ニ依リ分明ナリ又當初東淺井郡長ヨリ右投票所ニ交付シタル投票用紙總數カ投票ノ爲メ使用シタル數及ヒ不用ノ爲メ返納シタル數ト符合スルコト竝ニ其投票數カ投票人ノ數ト符合スルコトハ被告モ爭ハサル所ナレハ該投票函ノ鎖鑰ハ故意ニ之ヲ開キタルモノニアラス又其投票ハ増減變更シタルモノニアラサルコト明白ナリトス然レハ本件選舉ハ正當ニ執行セラレ更ニ選舉ノ規定ニ違背セルコトナキモノナルヲ以テ被告カ該選舉ヲ無効ト決定セシハ其當ヲ